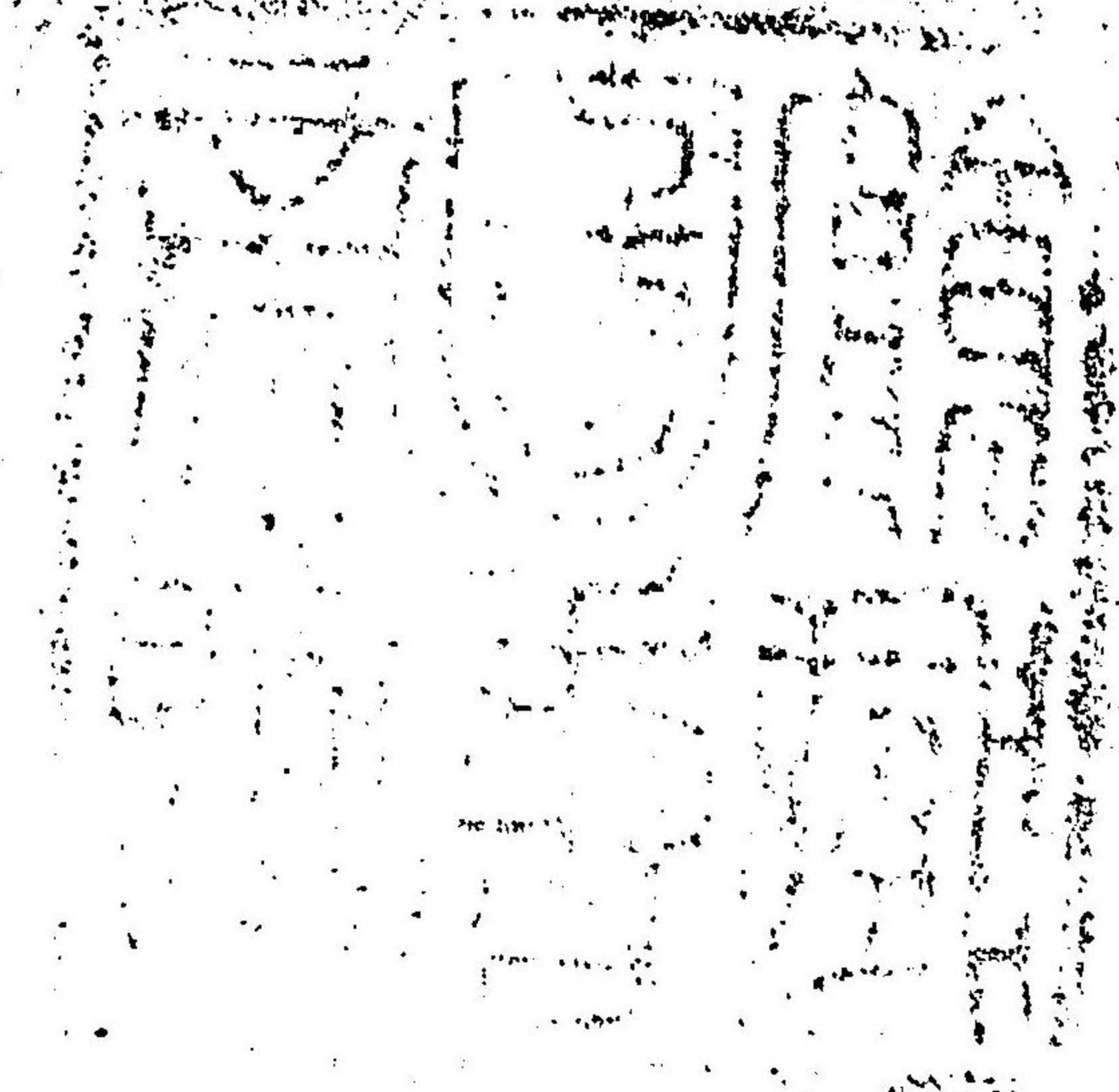
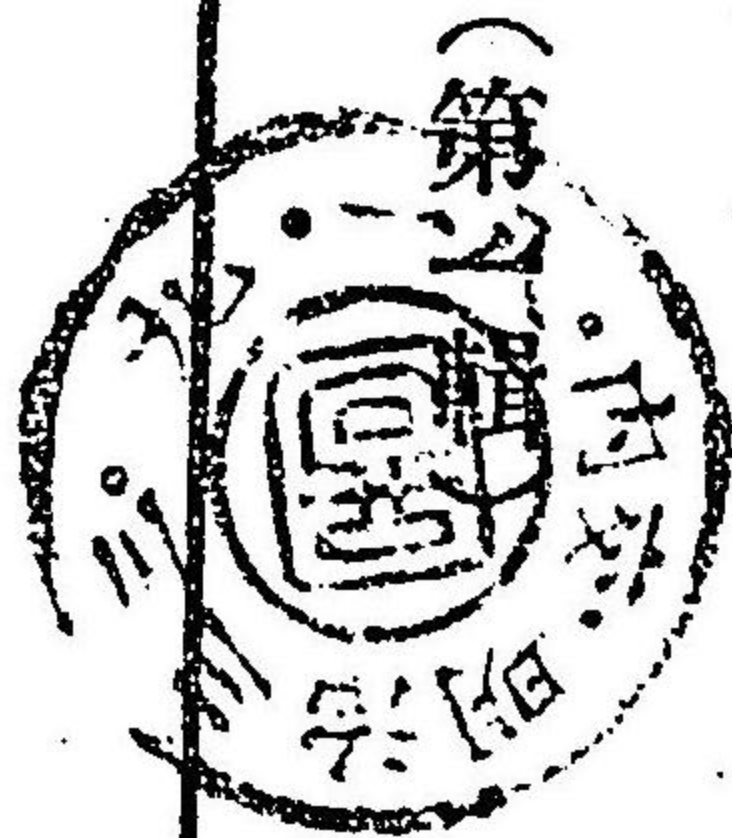


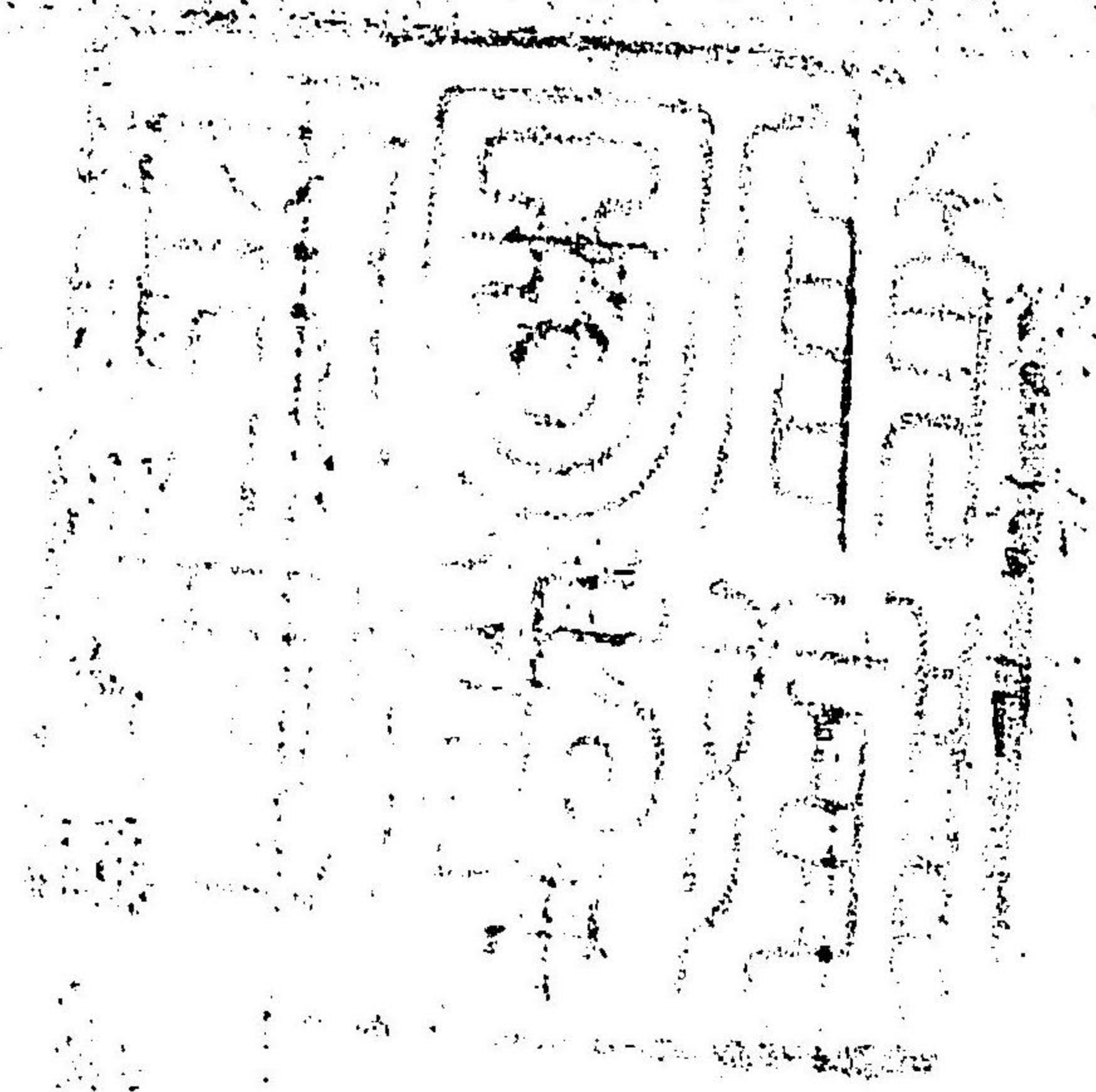
東邦協會編纂
東邦協會
發行所

東邦協會

鑑

完





凡例

- 一本書ハ歐洲普通行ハルル所ノ『政家年鑑』、『政家袖珍』若シクハ『政治曆』等ノ例ニ倣ヒ、專ハラ東洋及ビ南洋即チ亞細亞洲及ビ太平洋諸島ノ治亂安危ニ關スル諸邦國及ビ諸屬領地ノ形勢一斑ヲ撮摘シテ之ヲ簡單ニ記載セル者トス。但シ其材料未ダ備ハラズ。殊トニ編者ノ淺識寡聞ヲ以テス、故ニ編述ノ詳略精粗、各邦土ニ隨テ、未ダ齊シカラザル者多キハ、編者ノ深ク漸慙スル所也切ニ大方諸賢ノ提誨垂訓ヲ祈ル。
- 一本書日本支那滿洲膠洲朝鮮露領亞細亞印度帝國等ヲ除ク外ハ、大槩千八百九十九年出版英國政家年鑑ニ據ル。
- 一日本ノ部ハ、主ニ近年出版官府ノ公文及ヒ最近出版内務省編纂ノ國勢一斑ニ據ル。
- 一支那ノ部ハ、大清一統志。大清會典。及ヒ樞原陳政君著書『禹域通纂』英國領事ジヤミスン氏が著述セル『支那財政考』米國大藏省千八百九十九年出版『支那通商編』並ニ政家年鑑等ニ據ル。
- 一滿洲。及ヒ露領亞細亞(中央亞細亞。高加索。西伯利亞)。膠洲。及ヒ朝鮮。印度帝國ノ部ハ、佛

國學士レクリエス氏ノ萬國大地理書及ビ最近出版ウ井リアム、ヒュー氏ノ地理書ジョン、エ
 ーツ氏ノ商業地理書。其他本邦人及ビ歐米人ノ報告書紀行等ヲ參考シ之ヲ記述セル者トス。
 一經度ハ英國グリーンウ井ツチ天文臺起算ニ基ツクモノトス。
 一度量衡ハ大約其各邦國ノ通用スル所ニ沿リテ之ヲ記ス。但シ露領亞細亞若クハ膠州、佛領印
 度交趾安南等ニ於ル度量衡及ヒ貨幣等ハ、概シテ英國式ニ沿ル。

明治三十二年十二月

編者謹識

東邦小鑑目次

日本	一頁
皇室○憲法及政治○内閣○各省○地方政治○面積及人口○宗教○教育○司法制度及犯 罪○財政○國債○地方財政○軍務○生産及産業○貿易○船舶及通航○内國ノ交通○信 用及貨幣○貨幣及度量衡	一六五
支那	一六五
帝室○帝室系統略譜○政治○面積及人口○宗教及教育○財政○國債○國防○産業○商 業○船舶及水運○内國交通○電信○郵便○通貨○銀行○銀兩ノ相場○労働及其賃銀○ 諸製造○棉花及棉製諸品○貨幣度量衡對照	三二六
滿洲	三二六
氣候○盛京省○吉林省○黑龍江省○鐵道	
香港(英領)	三三三
政體○面積及人口○教育裁判及犯罪○財政、國防○商業及船舶○貨幣及信用○貨幣度 量	三三三

量衡對照

威海衛(英領).....三四二

旅順口、大連灣(露領).....三四五

膠州(獨逸領).....三五五

朝鮮.....三八九

王室○政治○面積及人口○宗教及教育○財政○國防○產業及通商○鑛山○商業○交通
○航業○電信及郵便○貨幣.....四〇七

露領亞細亞.....四〇七

高加索○中央亞細亞○西伯利亞.....四二五

印度帝國.....四二五

君主○政治○面積及人口○宗教○教育○裁判及犯罪○財政○國防○產業○商業○船舶
及水運○內國交通○貨幣及信用○屬領諸國○錫蘭.....五四二

蘭領東印度.....五四二

政體○面積及人口○宗教及教育○裁判及犯罪○財政○國防○產業○商業○船舶及交通
○貨幣及信用○貨幣度量衡對照

暹羅.....五六二

王室○政體○面積及人口○宗教及教育○財政○國防○產業○商業○船舶及航通○貨幣
度量衡對照

波斯.....五七六

王室○政體○積面及人口○宗教、教育及裁判○財政、國防○產業○商業○貨幣及信用○
內國交通○貨幣度量衡對照

亞富業斯坦.....五九九

海峽植民地(英領).....六一四

面積及人口○教育、裁判及犯罪○財政及國防○產業及商業○船舶水運及交通○貨幣及
信用、度量衡對照○屬島

ラブーン(英領).....六三三

目次

北ボルネオ(英領).....	六三五
佛領亞細亞.....	六四〇
佛領印度○佛領印度支那○安南○東蒲塞○交趾支那○東京	
南洋諸島.....	六四八
比律賓群島○グアム島○カロライン列島、パラウ島及マリアナ群島	
葡領印度、澳門及チモール.....	六五四
布哇島(米領).....	六五六
政體○面積及人口○財政○商業、船舶及交通	
ニユー、カレドニヤ及屬地(佛領).....	六六二
サモア.....	六六四
トンガ.....	六六八
太平洋諸島(英領).....	六七〇

四

ンサイチー諸島及近傍群島(佛領).....	六七四
西太平洋諸島(獨逸領).....	六七六
英吉利領濠洲.....	六七九
新南威耳斯○ウヰクトリア○クヰンズランド○南濠太刺利○西濠太刺利○新日蘭(ニ ウヰーランド)○タスマニア○ノヰジー島○濠洲防禦○濠洲聯合○ニユーギニア	

東邦小鑑

日本

皇室

神武天皇即位紀元以來皇統一系萬古無窮ニシテ 今上天皇ノ御宇明治元年戊辰ニ至ルマデ歳ヲ開スルニ至リ二千五百二十八年是ヨリ先キ紀元千五百十一年文德天皇ノ頃ヨリシテ藤原家門族朝廷ニ據リ累世外戚ノ縁ニ依リテ政權ヲ私シタルガ爲メニ皇室ノ威徳ハ識ラズ知ラズ相門戚族ノ蔽遮スル所ト爲リ其局勢轉シテ保元平治ノ大亂ト爲リ大政ハ皇室ヨリ移リテ武門ノ執ル所ト爲ラヌルハ紀元千八百四十五年後鳥羽天皇(第八十二代ノ天皇)ノ御宇ニテアリ

是ヨリ以降軍國ノ大政ハ武門ニ出テ日本全國封建ノ勢ヲ成セルコト大約七百餘年ニ彌リシガ近古以來日本國勢ノ潛運黙移ト共ニ皇政復古ノ籌略ハ先覺識者ノ共ニ苦慮盡カスル所ト爲リ以テ遂ニ其目的ヲ達スルニ至レリ 今上天皇踐祚ノ歲即慶應三年丁卯十月前將軍德川慶喜上

日本

表シテ其政權ヲ朝廷ニ奉還シ且其祖先以來世襲ノ軍職ヲ辭ス是ニ於テ既往七百餘年來政權ニ途ニ岐分セシ所ノ日本帝國ハ茲ニ始メテ統一の日本帝國ノ基ヲ開キ幾バクモ無クシテ廢藩置縣ノ舉ハ其成功ヲ奏シ封建制度ハ全ク一變シテ純然タル帝國統一ノ實績ヲ仰クヲ得タル者ハ寔ニ明治四年辛未即チ紀元二千五百三十一年(西曆千八百七十一年)ニテアリキ

今上天皇 諱ハ睦仁先帝孝明天皇ノ皇子紀元二千五百十二年十一月三日即チ嘉永五年壬子九月廿三日降誕萬延元年立テ皇太子ト爲リ慶應三年丁卯正月九日踐祚其翌四年戊辰八月廿八日即位元ヲ明治ト改メ一世一元ノ制ヲ定ム

皇后陛下 諱ハ美子從一位左大臣一條忠香公ノ女嘉永三年庚戌四月十七日(紀元二千五百十年五月廿八日)生誕紀元二千五百廿九年二月九日即チ明治元年戊辰十二月廿八日立テ皇后ト爲ル

皇太子 嘉仁親王殿下

明治十二年八月三十一日降誕廿二年十一月三日立テ皇太子ト爲ル

皇女

(一)常宮昌子内親王

明治廿一年九月三十日降誕

(二)周宮房子内親王

明治廿三年二月廿八日降誕

(三)富美宮允子内親王

明治廿四年八月七日降誕

(四)恭宮聰子内親王

明治廿九年五月十一日降誕

明治二十二年二月十一日發布セラレタル所ノ皇室典範ニ於テ大日本帝國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス皇位ハ皇長子ニ傳フ皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及ビ其子孫皆在ラサルトキハ皇次子及ビ其子孫ニ傳フ以下皆之ニ列ス

皇室經費ハ毎歲三百萬圓ツ、ナ定額トシテ國庫經常歲出計表ニ載ス其外皇室御料財產山林田野及上公債證券株券等ノ類并ニ明治三十一年帝國議會ノ議決建議ニ依リ清國償金ノ中ヨリ二日 本

千萬圓ヲ以テ帝室資産ニ供獻セラレタル者等アリ

四

憲法及ヒ政治

明治元年戊辰以前ニ在リテハ日本帝國ハ專制君主政治ト封建政トナ混淆シタル制度政治ノ下ニ久シク伏在シタル者ナリシト雖モ戊辰改革ト共ニ夙ニ憲法政治ノ端ヲ發シ同年三月天皇陛下親シク公卿百官及ヒ諸侯ヲ召シ廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベク上下心ヲ一ニシテ盛ンニ經綸ヲ行フベク官民一途庶民ニ至ルマデ各其志ヲ遂ゲシムベク舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基ツキ智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシトノ五事ヲ天地神明ニ誓ハセラルレ以テ國是ヲ定メラレクリ

同年新タニ帝國ノ官制ヲ建設シテ略ボ議政行政及ヒ司法ノ機關ヲ區分シ明治八年ニ及ビテ更ラニ一步ヲ進メテ元老院ヲ設ケ以テ議政機關ヲ擴メラル、ノ基ヲ爲セリ
明治十一年ヨリ府縣會ヲ設ケ次デ區長村會ヲ設ケ茲ニ始メテ民選議會ヲシテ政治ノ一部ニ參與セシムルニ至レリ

明治十四年十月ノ詔敕ヲ以テ明治維新創業ノ始メヨリ夙トニ立憲政治ノ基ヲ創メ而カモ序ニ循ヒテ歩ヲ進ムルノ道ニ由リ來ル廿三年ヲ期シテ帝國議會ヲ開クベシトノ廟謨ヲ公示シ同二

十二年二月十一日帝國憲法及ヒ皇室典範議院法選舉法等ヲ發布セラルタル後其翌二十三年十一月ニ於テ第一回帝國議會ヲ開キ以テ憲法ノ實行ヲ見ル爾後毎歲之ヲ開ク今三十二年ニ至ルマデ既ニ之ヲ開ケルコト十四回ニ及ビタリ

日本帝國憲法ハ外國憲法ト著ルシク殊トナル所ノ完全鞏固ナル精神ト基礎トナ有セル者ニシテ其法文各章及ヒ條數ハ第一章第一條ヨリ十七條ニ至リ第二章ハ第十八條ヨリ第三十二條ニ至リ第三章第三十三條ヨリ第五十四條ニ至リ第四章ハ第五十五條第五十六條第五章ハ第五十七條ヨリ第六十一條ニ至リ第六章ハ第六十二條ヨリ第七十二條ニ至リ第七章ハ第七十三條ヨリ第七十六條ニ至ル而カモ其要點ヲ掲クレハ大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ
天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布及執行ヲ命ズ

天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其開會閉會停會及ヒ衆議院ノ解散ヲ命ス
天皇ハ必要ナル場合ニ於テハ帝國議會開會ノ際ナルトキハ法律ニ代ルベキ勅令ヲ發ス

日本

五

天皇ハ法律ヲ執行スル爲メニ又公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ビ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ之ヲ發セシム

但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ズ

天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス

天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及ヒ諸般ノ條約ヲ締結ス

天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

其第二章ニ於テ日本臣民ノ權利義務ヲ規定シ日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ依リテ其居住及ヒ其移轉ノ自由性命身体ノ自由財産ノ自由信書ノ安全所有權ノ安全信教ノ自由言論著作印行集會結社ノ自由等ヲ保有使用スルコトヲ得ル者トス

第三章ニ於テハ帝國議會ノ成分組織ヲ示シ乃チ帝國議會ハ貴族院眾議院ヲ以テ成立スルコト(憲法第三十三條)凡ソ一切法律ハ必ス帝國議會兩院ノ議決ヲ經ルヲ要スルコト(憲法第三十七條)兩議院ハ各自法律案ヲ提出スルコトヲ得(第三十八條)兩議院ハ法律又ハ其他ノ事件ニ

付キ各其意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得(第四十條)

帝國議會ハ毎歲之ヲ召集ス(第四十一條)

兩議院ハ各天皇陛下ニ上奏スルコトヲ得(第四十九條)

國家ノ歲入歲出ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ベシ(第六十四條)

新々ニ租稅ヲ課シ及ヒ稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムベシ(第六十二條)

將來此憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スベシ而カモ此場合ニ於テハ兩議院ハ各其總員三分ノ二以上出席スルニ非ザレバ議事ヲ開クコトヲ得ズ又其出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非ザレバ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ズ(第七十三條)

國務大臣ハ天皇ヲ輔弼シテ各其責ニ任ズ(憲法第四章第五十五條)

樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス(憲法第四章五十六條)

以上學ケル所ハ憲法ノ精髓タル各章條項ナリトス其詳細ハ宜シク憲法本書并ニ日本現行法令全書ニ就キテ之ヲ看ルベキ也

内閣

内閣ハ各省大臣ヲ以テ之ヲ組織スル者ニシテ即チ内閣總理大臣之ガ首班ト爲リ一定ノ政務事項ニ就キテハ閣臣ノ協議ヲ以テ輔弼ノ責ヲ盡クスノ機關タルト同時ニ行政機關タルノ權限ヲ有スル者也

但シ軍機ニ關スル事項ハ特ニ勅命ニ由ルノ外ハ閣議ヲ經ルコト無シ

内閣總理大臣ハ單ニ内閣首班タルニ止マラズ亦之ト同時ニ獨立官トシテ親シク勅旨ヲ承ケ以テ行政各部ノ統一ヲ保チ其必要ト認ムルトキハ各省大臣命令或ハ處分ヲモ中止セシメ以テ勅裁ヲ請フコトヲ得ルノ權アリ

又此他賞勳恩給法制官報等ノ諸局及ヒ高等文官試験若クハ臨時ニ設ケラレタル各種ノ調査委員會ノ如キ者ヲ監督ス

各省

行政機關ハ大別シテ九省ト爲ス左ノ如シ

- (一) 外務省
- (二) 内務省
- (三) 大藏省
- (四) 陸軍省
- (五) 海軍省
- (六) 司法省

- (七) 文部省
- (八) 農商務省
- (九) 逓信省

右諸省中外務ノ外交事務ニ於ル陸海軍省ノ各軍務ニ於ル司法ノ司法的行政事務ニ於ル文部ノ教育的行政事務ニ於ル其官理スル所及ヒ其監督スル所ノ事務大概推シテ知ルベシト雖モ而カモ其内務大藏農商務及ヒ逓信諸省ノ如キハ則然ラズシテ其管理並ニ監督スル所ノ行政事務ハ頗ル複雑ナル者アルガ故ニ之ヲ記スレハ左ノ如シ

内務省

内務大臣ハ地方行政、議員選舉、警察、監獄、土木、衛生、地理、社寺、出版、版權、戶籍、救恤、等ニ關スル事務ヲ管理シ中央衛生會、警視總監、北海道及地方長官ヲ監督ス

大藏省

大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ、會計、出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物、政府ノ印刷物、及ヒ官有鑛山某地ニ關スル事務ヲ管理シ、地方自治体ノ財政ヲ監督ス

農商務省

農商務大臣ハ農、商、工、水産、牧畜、林野、鑛山、發明、意匠、商標、及ヒ地質ニ關スル事務ヲ管理ス
逓信省

逓信大臣ハ鐵道、郵便、電信、船舶、海員、航海、航路標識、郵便爲換、郵便貯金ヲ管理シ水陸運輸及ヒ電氣事業ヲ監督ス

地方政治

地方ノ行政區域ヲ分チテ三府四十二縣及ヒ北海道并ニ臺灣總督府下ノ六縣トシ其外諸島ニ島司廳ヲ置ク(對馬島小笠原島澎湖島等是レ也)
府縣ノ下ニ市及ヒ郡アリ郡ノ中ニ細別セル町村アリ町村ハ自治體ヲ以テ其本体トシ傍ハラ行政ノ事務ヲモ取扱フコトアリ
市ハ其自治體タル外ニ尚ホ特種行政ノ事務ヲモ處理スルコトアリ
郡并ニ市町村ノ數ハ左ノ如シ

郡	六五五	市	四八
町	九八〇	同	町制未施地
町制施行地			一九三

村 村制施行地 一一、九八一 同 村制未施地 一、〇四一

此調ハ三十一年十二月末日内務省ノ調ニ據ル

市町村ニハ各其長アリ皆其自治團體區域内公民ノ選舉セル者ヲ以テ之ニ充ツ
郡長ハ官選ニ係リ國庫ヨリ之ガ俸給ヲ給與セラレ行政機關トシテ行働スル者也
郡ノ狭小ナル者ハ二郡ヲ併セテ其郡廳即チ郡役所ヲ設置スルカ故ニ郡役所ノ現在數ハ五百三十八ヶ處ニシテ郡長ノ人員ハ大約此役所ノ數ト同シ
市町村ニハ各其市會町村會并ニ市參事會アリ以テ各自自治體ノ事務ヲ議決シ且ツ之ヲ處理ス
郡ニハ各其郡會アリ又郡參事會アリ而カモ府縣ニハ各府會縣會及ヒ參事會アリ
凡ソ市町村及ヒ郡并ニ府縣ノ各議會ハ各議政立法的機關ト爲リ各參事會ハ行政機關タリ市町村ノ行政監督ハ市ニ在リテハ第一次ニ其府縣知事之ヲ爲シ第二次ニハ内務大臣之ヲ行フ者トス町村ニ在リテハ第一次ニ郡長第二次ニ府縣知事第三次ニ内務大臣之ヲ行フ
郡ノ行政監督ハ第一次ニ府縣知事第二次ニ内務大臣之ヲ行フ

市町村制ハ明治二十二年四月法律第一號ヲ以テ公布セラレ爾後漸次ニ行ハレタル者也郡制ハ最初明治二十三年五月法律第三十六號ヲ以テ制定發布セラレタリト雖モ其行ハルルニ至レル

ハ市町村制ヨリ後ルルコト數年ニシテ而カモ亦明治三十二年三月法律第六十五號ヲ以テ更
 ラニ之ヲ改定セラレタリ
 府縣制モ亦最初明治二十三年法律第三十五號ヲ以テ之ヲ發布セラレタルモノナリシモ其後實
 行經驗上ヨリ之ヲ改良スルノ必要ヲ覺知シ明治三十二年三月法律第六十四號ヲ以テ更ラニ之
 ヲ改定セラレタリ
 府縣行政ノ監督ハ内務大臣之ヲ行フヲ通例トス
 然レモ經濟上重要ナル者及ヒ其事財務ニ係レル者ニ至リテハ大藏大臣内務大臣ト共同監督ヲ
 要スル場合アリトス

面積及ビ人口

日本帝國ハ東經百五十六度三十二分(英國グリーンウヰ井チ天又臺ヨリ起算スル者以下皆之ニ
 例ス)ニ於ル千島國占守島東端ヨリ其西ハ東經百十九度二十分ニ於ケル澎湖島ノ花嶼西端ニ
 至ル
 北方ハ千島國アライト島北端北緯五十度ナル處ヨリ南方ハ臺灣南岬ヨリ約九厘四ニ當レルベ
 ールレート列岩(北緯廿一度四十五分)ニ至ル

日本帝國ハ大別シテ其主部(通俗或ハ本島或ハ本州トモ稱スル者五畿及ビ東海東山北陸山陰
 山陽并ニ紀州ノ陸地ヲ云フ)北海道本地九州四國臺灣千島三十二島琉球五十五島佐渡島ト爲
 ス其面積通計二萬七千〇六十二方里(英國方哩ニ換算スレバ十六萬千七百七十九方哩ニ當ル)ニ
 シテ其各部ノ内譯方里ハ左ノ如シ

全國面積

内務省調

主部	屬島數	面積 方里	百分比	
			一方里	人口
北海道	一六六・五	二四、三三三	五三・八四二	二九・八
本地	一一〇	八、〇六、〇	一八・七〇	一五六
九州	一五〇・〇	二、二七、五	九・六七二	三九・四
臺灣	二九〇	二、三三、〇	八・三五二	一一・五
四國	七四・五	一、一〇、二	四・三六二	四八・五
千島	一	一、〇、一	三・八二	四
對馬	五〇	四四・七二	〇・一七	八〇・五
淡路	一〇	三六・六九	〇・四四五	〇・九四
隱岐	一〇	二一・八九	〇・〇八一	一・六七二
壹岐	一〇	八・六三	〇・〇三四	一・八六
澎湖	一〇	八・二〇	〇・〇三六	三・九一
小笠原島	一	四・五〇	〇・〇二	九・六九

日本

琉球五島十	一	五、九	〇、五八三、八六二	合	計	四八七〇	三、〇八、一、七四二
佐渡	一	五、九	〇、二二二、〇二八	合	計	四八七〇	三、〇八、一、七四二

〔備考〕 屬島ノ數ニ端數アルハ一島ニシテ兩地ニ屬スルモノ即チ主部ト四國ノ間ニアル石島是ナリ一方里ノ人口ハ三十年十二月三十一日調ニ據リ算出ス次表亦同シ

人口ハ臺灣ヲ除ク外男子二千八百八十二萬三千六百五十一人女子二千四百四十萬五千二百十二人計四千三百廿二萬八千八百六十三人(明治三十年調)ニシテ其前九ヶ年來各歲人口ヲ見ルニ左ノ如シ

明治廿一年至同三十年各歲人口及戸數表(三十年末日內務省調)

年	人口		合計	現住戸數	平均一戸ノ人口
	男	女			
三十年	二、八三三、六六一	二、四〇五、二二二	四、二三八、八六三	八、〇五八、四七四	五、三六
二十九年	二、五六一、〇三三	二、一四七、二四一	四、七〇八、二六四	八、〇〇四、八四九	五、三四

三十八年	二、三四五、七五〇	二、〇九二、四八七	四、四三八、二三七	七、九三五、九六九	五、三三
三十七年	二、二二二、八九九	二、〇六九、〇三六	四、二九一、九三五	七、八八四、二六三	五、三〇
三十六年	二、〇九〇、四六五	二、〇四八、八四八	四、一三九、三一三	七、八五九、二九五	五、二七
三十五年	二、〇七五、三六六	二、〇三三、七五七	四、一〇九、一四〇	七、八一七、五七〇	五、二六
三十四年	二、〇五六、三四一	二、〇一五、五二六	四、〇七二、八六七	七、八〇六、三六九	五、二二
三十三年	二、〇四三、〇九七	二、〇〇二、三六四	四、〇四五、四六一	七、八〇六、〇五二	五、一八
三十二年	二、〇二四、三三六	一九、八二五、六八四	四、〇〇〇、〇二〇	七、八四〇、八七二	五、一一
三十一年	二、〇〇八、四四五	一九、五九八、七八九	三、九六六、二三四	七、八〇二、八二六	五、〇八

〔備考〕 人口ハ本籍ニ於テ取調タル員數ニシテ之ニ在監無籍人ヲ加算セシモノナリ次表亦同シ但此類ノ諸表ニハ皇室皇族ハ算入ナシ
臺灣ノ人口及戸數調ハ内地ノ調ト調査ノ基礎及調査年月ヲ異ニスルヲ以テ本表ニハ之ヲ省キ單ニ廳府縣別表ニ其梗概ヲ示ス

又日本人口ニ就キ其年齡區別各人口ヲ見ルニ左ノ如シ

年齢別人口

(三十年末日内務省調)

年齢	男	女	合計	女百人ニ對スル男
零年ヨリ	二、六六八、一八〇	二、五九五、二五〇	五、二六三、四三〇	一〇二・八一
五年マテ	二、三三六、四七四	二、二六八、六〇八	四、五九五、〇八二	一〇二・五五
十年マテ	二、一八七、六七三	二、一四九、三三六	四、三三七、〇〇九	一〇一・七八
十五年ヨリ	二、一七三、五〇六	二、一二五、五二二	四、二九九、〇二八	一〇二・二六
二十年マテ	一、九八七、四九五	一、九三八、三〇七	三、九二五、八〇二	一〇一・五四
二十五年ヨリ	一、五六六、八一	一、五一九、七一六	三、〇八六、五二七	一〇三・一〇
三十年マテ	一、五一三、一〇九	一、四五〇、八八九	二、九六三、九九八	一〇四・二九
三十五年ヨリ	一、二七六、二五三	一、二二四、二三三	二、四九〇、四八六	一〇五・一一

年齢	男	女	合計	女百人ニ對スル男
四十一一年ヨリ	一、三五一、八〇六	一、二六八、三九四	二、六二〇、二〇〇	一〇六・六六
四十六年マテ	一、二二八、〇三八	一、一五一、二二四	二、三三九、二六二	一〇六・六七
五十一一年ヨリ	一、〇五二、五七三	九九八、八三六	二、〇五一、四〇九	二〇五・三八
五十六年マテ	七九六、八四九	七八一、八二七	一、五七八、六七六	一〇二・九二
六十一一年ヨリ	五八七、〇五一	六一八、七八五	一、二〇五、八三六	九四・八七
六十六年マテ	五〇四、八八一	五五七、一六〇	一、〇六二、〇四一	九〇・六二
七十一一年ヨリ	三二七、八三三	三九〇、一〇三	七一七、九三六	八四・〇四
七十六年マテ	一七六、五五六	二二七、八〇三	四〇四、三五九	七七・五〇
八十一一年ヨリ	六七、四七五	九九、八四五	一六七、三二〇	六七・五八
八十六年マテ	二三、三四五	三七、〇九五	五九、四四〇	六〇・二四

日本

總計	〔備考〕				
	零年ヨリ五年マテトアルハ滿五年マテ六年ヨリ十年マテトアルハ滿五年ヲ過キ	滿十年マテノ者以下之ニ同シ	年齢不詳ノ者アルハ戶籍編制以前失踪シ其生年詳カナラサルニ由ル	現住人口	現住戸數
九十五年ヨリ	六〇〇八	一〇、五五一	一六、五五九	二二、八三三、六五一	四三、三二八、八六三
九十六年ヨリ	四四六	八三四	一、二八〇	二二、四〇五、二二二	四三、三二八、八六三
百一年ヨリ	三二	一一九	一五〇	七七六	二、〇三二
百五年マテ	三	九	一一	七	一〇一、九五
百六年以上	三	九	一一	七	一〇一、九五
年齢不詳	一一五五	七七六	二、〇三二	二二、八三三、六五一	四三、三二八、八六三
平均人口	一六、五五九	一、二八〇	二、〇三二	二二、八三三、六五一	四三、三二八、八六三

廳府縣別人口戸數表

(三十年末日内務省調)

現住人口 現住戸數 平均人口

東京府	京都府	大阪府	神奈川縣	兵庫縣	長崎縣	新潟縣	埼玉縣	茨城縣	群馬縣	栃木縣	奈良縣	三重縣	愛知縣	靜岡縣	山梨縣
四、七一一	五、〇〇一	五、九三三	五、〇二二	五、三三九	六、〇〇〇	六、四三三	五、九〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇
一〇、九四八、五八一	九、五七二、二六〇	一、五〇三、七七二	八、七〇二、五五六	一、六五二、三六六	八、四四五、四四一	一、七三三、六二九	一、一五二、八二三	一、二四五、八七四	一、二一五、二六九	八〇六、二七七	七九八、九四六	五二四、五六二	九六七、四〇六	一、五九二、七三三	一、一七五、九八二
四一、三三四、七三三	一九一、〇七〇	二八七、三四七	一四六、七〇四	三二九、一一三	一五六、八二〇	二八八、八七六	一七九、二一〇	二二一、三〇一	一八二、三五二	一三四、二八二	一一一、四四一	八九、五二四	一七六、六〇四	三三二、二六八	二〇八、八二八

日本

和歌山縣 德島縣 香川縣 愛媛縣 高知縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 鹿兒島縣 沖繩縣 北海道 新豐縣 蜜中縣

六五六、〇二五
六七六、六九四
六七六、六八一
九七一、九五五
六〇九、〇〇五
一三三、七七七
八一、九九六
五九九、六七九
一、二二二、〇六八
四五五、五三五
一、〇八三、七四五
四四九、一一二
七五五、八三七
四三、九七八、四九五
五三三、〇一三
三三二、五八七
五一二、八六二

二二〇、四九七
一一二、七一八
一二七、五七七
一八八、七六七
一一二、五四四
二二六、九二九
一五三、二一〇
一〇三、二二五
二一五、九一五
八六、五九〇
二〇七、四六一
八九、九四三
一六四、四〇八
八、〇五八、四七四
八四、八四五
六一、四九八
一一〇、八一七

五・四四
五・五一
五・三〇
五・一五
五・三五
四・九七
五・七三
五・八一
五・二〇
五・二六
五・三二
四・九九
四・六〇
五・四六
六・一六
五・三三
四・六二

滋賀縣 岐阜縣 長野縣 宮城縣 福島縣 岩手縣 青森縣 山形縣 秋田縣 福井縣 石川縣 富山縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣

六八八、三四三
九六〇、七一三
一、二三二、八五九
八三三、一一三
一、〇六一、〇一三
七〇二、七五〇
六〇〇、二九四
八一、〇三九
七五七、〇四一
六、二六二〇
七四九、七七五
七五四、七九九
四二二、九六五
七〇九、〇六五
一、〇八、三九三
一、四〇五、六七四
九六一、〇六五

一三一、三五二
一八一、三七九
二二〇、〇九九
一一一、〇〇五
一五九、〇六七
一〇九、三九五
九一、四〇八
一一九、四九〇
一一五、〇二九
一一五、二一四
一三四、二四九
一四五、一七八
七九、三四五
一四六、四六八
二二二、四七二
二八一、一七六
一九三、四七六

五・二四
五・三〇
五・三五
六・八八
六・六七
六・四二
六・五七
六・七九
六・〇五
五・三二
五・五八
五・二〇
五・二〇
四・八四
四・九六
五・〇〇
四・九七

嘉 義 縣	五九四、四五三	一二六、一九六	四・七一
鳳 山 縣	一九九、九七二	四三、九二二	四・五五
宜 蘭 縣	四〇三、二五五	八四、一五八	四・七九
臺 東 廳	一一〇、〇〇七	二一、八五三	五・〇三
臺 南 縣	八〇、九八九	一五、八三八	五・一一
澎湖廳	五二、四〇五	一〇、五九〇	四・九五
合計	二、七九七、五四三	五五九、七一七	五・〇〇
合計	四六、七七六、〇三八	八六一八、一九一	五・四三

〔備考〕 臺灣ノ事實ハ總督府第一統計書ニ據ル
 本表ニハ臺灣駐在ノ軍隊員ハ算入ナシ

右ニ掲ケタル臺灣ノ事實中内地人ノ員數及其戶數ヲ舉クレハ左ノ如シ

新 臺 北 縣	五、五五四	一、三六九	四・〇六
竹 北 縣	一、九五八	二六〇	七・五三
合計			

市邑現住人員

(三十年末日內務省調)

臺 中 縣	二、五九四	四一四	六・二七
嘉 義 縣	八三四	一六六	五・〇二
鳳 山 縣	一、五九三	五六八	二・八〇
宜 蘭 縣	一、八五六	二五三	七・三四
臺 東 廳	八〇三	一一一	六・六四
澎湖廳	四四三	八四	五・二七
合計	一六、三三一	三三四七	四・八八

東 京 市(武藏)	現任人	一、三三三、二五六	足 尾 町(下野)	現任人	二、二一五、七	大 分 町(豊後)	現任人	一、二五三、九
大 阪 市(攝津)	現任人	七、五三三、三七五	熱 田 町(尾張)	現任人	二、一〇五、三	觀 音 寺 町(讃岐)	現任人	一、二五三、〇

弘前市(陸奥)	岐前市(美濃)	前橋市(上野)	水戸市(常陸)	山形市(羽前)	大津市(近江)	松山(伊豫)	那覇市(琉球)	姫路市(播磨)	高松市(讃岐)	松江市(出雲)	札幌市(石狩)	甲府市(甲斐)	宇都宮市(下野)	高知市(土佐)	赤間關市(長門)	靜岡市(駿河)	福井市(越前)
三三、三三三	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九	三三、二〇九
武生町(越前)	千住町(武藏)	米子町(伯耆)	福山町(備後)	阿久根村(薩摩)	指宿村(薩摩)	小田原町(相模)	伊敷村(薩摩)	本銚子町(下總)	敦賀町(越前)	戸太町(武藏)	和庄町(安藝)	新湊町(越中)	神奈川町(武藏)	撫養町(阿波)	岡崎町(三河)	萩町(長門)	大牟田町(筑後)
一五、五六六	一五、六一〇	一五、七二六	一五、七五九	一五、八〇五	一六、〇〇六	一六、一九九	一六、二五五	一六、三七一	一六、八五一	一七、三九五	一七、四三一	一七、四四六	一七、五一六	一七、六〇七	一七、七五七	一七、九四九	一八、〇〇二
七尾町(能登)	新發田町(越後)	十津川村(大和)	田沼町(下野)	須賀川町(岩代)	津山町(美作)	西有家村(肥前)	豊島村(相模)	長田村(駿河)	江田島村(安藝)	八戸町(陸奥)	結城町(下總)	土浦町(常陸)	大川町(筑後)	三田尻村(周防)	新庄町(羽前)	沼津町(駿河)	北種子村(同)
一一、〇六〇	一一、二二九	一一、二六三	一一、二二九	一一、二三四	一一、二四六	一一、二六六	一一、三〇〇	一一、三三四	一一、四三〇	一一、四七〇	一一、四八六	一一、四九三	一一、六四八	一一、六五四	一一、六六四	一一、七六八	一一、八五五

堀新島市(薩摩)	鹿兒島市(薩摩)	岡山市(備前)	和歌山市(紀伊)	熊本市(肥後)	富山(越中)	德島市(阿波)	福岡市(筑前)	函館市(渡島)	長崎市(肥前)	金澤市(加賀)	仙臺市(陸前)	廣島市(安藝)	横濱市(武藏)	神戶市(攝津)	名古屋(尾張)	京都市(山城)
五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇	五〇、二〇〇
品川町(武藏)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)	利根町(下野)
一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二	一八、二二二
末吉村(大隅)	佐原町(下總)	東加世田村(薩摩)	南千住町(武藏)	東市來村(薩摩)	鹿沼町(下野)	加治木村(大隅)	坂出町(讃岐)	土崎港町(羽後)	小松島村(阿波)	郡山町(大和)	永見町(越中)	山見町(越中)	山見町(越中)	山見町(越中)	山見町(越中)	山見町(越中)
一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一	一一、八九一

盛岡市(陸中)	三、四三三	伊作村(薩摩)	一五、四五六	瀬戸島村(安藝)	一一、〇三三
津市(伊勢)	三、四二二	知覽村(同)	一五、四五五	西南方村(薩摩)	一一、〇三二
高岡市(越中)	三〇、六六〇	尼ヶ崎町(攝津)	一五、二七〇	大森町(武藏)	一一、〇〇七
松本市(信濃)	三〇、五八八	中津町(豊前)	一五、一一九	田島町(駿河)	一〇、九九九
長野市(信濃)	二九、九九二	仁保島村(安藝)	一四、八四八	郡山町(岩代)	一〇、九四〇
奈良町(大和)	二九、九五〇	垂水村(大隅)	一四、八四三	磯濱町(常陸)	一〇、九三三
高崎町(上野)	二九、六三五	川邊村(薩摩)	一四、八四二	吉野村(薩摩)	一〇、七七九
米澤市(羽前)	二九、六一七	今治町(伊豫)	一四、八一六	直江津町(越後)	一〇、七五〇
千代田町(下總)	二八、五九四	高山町(飛騨)	一四、六一四	上出水村(薩摩)	一〇、七三〇
若松町(岩代)	二八、五七九	加世田村(羽前)	一四、五九一	古河町(下總)	一〇、七二七
鳥取市(因幡)	二八、二六六	相川町(佐渡)	一四、五四三	淵村(肥前)	一〇、七二四
宇治山田町(伊勢)	二七、九二〇	西加世田村(薩摩)	一四、五四一	東志布志村(大隅)	一〇、四八三
久留米市(筑後)	二七、九〇四	水俣村(肥後)	一四、三〇〇	輪島町(能登)	一〇、四四五
佐賀市(肥前)	二七、六六一	一宮町(尾張)	一四、二八三	島入村(薩摩)	一〇、四一七
青森町(陸奥)	二六、七七九	上野町(伊賀)	一四、〇一四	湯浅町(紀伊)	一〇、四一〇
秋田市(羽後)	二六、〇二八	飯田町(信濃)	一三、九六〇	白杵町(豊後)	一〇、四〇三
谷山村(薩摩)	二五、〇一〇	新白河町(磐城)	一三、八七二	中出水村(薩摩)	一〇、三八五
横須賀町(相模)	二四、九四四	新宮町(紀伊)	一三、七七九	家室西方村(周防)	一〇、三六六

首里區(琉球)	二四、七八七	倉橋島村(安藝)	一三、七二七	八代町(肥後)	一〇、三〇三
四日市市(伊勢)	二四、七七二	魚津町(越中)	一三、五九〇	三國町(越前)	一〇、二七〇
佐世保村(肥前)	二四、二八三	小松町(加賀)	一三、四四九	鹿屋村(大隅)	一〇、二四五
門司町(豊前)	二三、六六二	浦賀町(相模)	一三、四四六	平町(磐城)	一〇、二三一
上田町(信濃)	二三、七七二	廣村(安藝)	一三、三五二	宮之城村(薩摩)	一〇、一九六
枋木町(下野)	二三、三八六	能代港町(羽後)	一三、〇二九	別子山村(伊豫)	一〇、一五二
尾道町(備後)	二三、二〇四	熊谷町(武藏)	一三、〇〇三	西櫻島村(薩摩)	一〇、一四七
八王子町(武藏)	二三、一九〇	西宮町(攝津)	一二、九八三	王子村(武藏)	一〇、一四〇
小倉町(豊前)	二二、九五六	宇和島町(伊豫)	一二、八七九	三條町(越後)	一〇、一二七
酒田町(羽後)	二二、七二二	松坂町(伊勢)	一二、八四三	滑川町(越中)	一〇、〇六二
酒田村(薩摩)	二二、六二六	津島町(尾張)	一二、六九八	高城村(薩摩)	一〇、〇三七
明石町(播磨)	二二、一七二	都城町(日向)	一二、六〇一		

〔備考〕 本表ハ市區町村ノ現住人一万人以上アルモノノミノ調ナリ

三十一年九月内務省告示市町村人口調ト本表ニ掲ケシモノト數ニ相違アルハ告示ニ於テハ陸海軍在營艦者及囚人懲治人ヲ現在地ヨリ省キ之ヲ本籍地ノ方ニ置キ而シテ在監人ニシテ本籍ナキモノハ悉ク除キタリシニ本表ニ於テハ之レニ反シ陸海軍在營艦者囚人懲治人及無籍在監人ヲ其所在地ニ加算セルニ由ル

海外在留本邦人員

(三十年末日内務省調)

公	留	商	其他	合
用	學	用	諸用	計
三三五	二一七	七〇九	二六、五九六	二七、三五四
四	一四	七五	六、一一九	一三、六一五
三八	二二七	七二九	四、六九九	七、六四〇
八六	四六	二四九	五、二一八	五、五九九
一八	四七	一九一	二、六〇五	二、八六一
九五	二二	五〇六	五四三	一、一六五
一七	一一九	二	五	一、一六五
四三	一〇	九	二五	一、二八
九	四	一	八	一、二八
二	三	〇	二七	二、〇
一三	六	一四	一	二〇

布哇 韓國 北米合衆 英吉利 露西亞 支那 獨逸 佛蘭及蘭 墨其西 暹羅 西班地 澳地利

伊太利	葡萄牙	白牙	瑞西	總計
四	三	一	一	七、一八
三	一	三	一	二、四六五
三	一	三	一	九、五七三
三	一	三	一	四六、〇二九
三	一	三	一	五八、七八五
二	一	三	一	五、四三三
二	一	三	一	四、六二七
二	一	三	一	四、一五九
二	一	三	一	四、二〇二
二	一	三	一	六、二七
二	一	三	一	三、九二
二	一	三	一	三、三〇
二	一	三	一	三、二二
二	一	三	一	六、七
二	一	三	一	十、十

〔備考〕本表ハ在外公使館領事館ニ届出タル員數ノミニシテ未タ完備セシモノニアラス。本表ノ外西濠洲等ニ在テ業務不定ニテ其詳細ヲ知ルニ由ナキモノ三十年ニ五百餘人二十九年二千二百餘人アリ。二十八年ノ事實中二十七年ノ事實ヲ以テ補填セシモノアリ。

本邦在留外國人員

三十年末日調 (第十七統計年進)

瑞	伊	西	丁	匈	澳	瑞	和	葡	韓	露	佛	獨	北	英	支
典															
諾															

威利牙	抹利	利利	西蘭	牙	亞	西	逸	國	利	那	公使領事館人員	官備及私備	商用其他	合計
三四	九五	三一	五三	四一	二〇	一〇	三三	一八	二三	二二	三三	四四	五五	四七
二	二	三	四	四	一	七	三	一	四	二	五	七	九	一〇九
三	四	四	五	八	九	二	三	九	一〇	三	九	一八	二九	一〇四
														一五五
														二九七
														四九一
														五二三
														一〇七六
														二二一八
														五二〇六

日本

臺灣在留外國人員

(三十二年三月內務省調)

[備考] 公使領事及官私備外國人之家族ハ調査ナキヲ以テ之ヲ欠ク

廿六	廿七	廿八	廿九	計	總計	白	布	伯	墨	秘	希	其	他
年	年	年	年			耳	哇	爾	哥	魯	臘	亞	
						義							
一〇四	八三	一一八	一二三	一四一		七	二	六	四	一			
六二一	六二一	五六七	六七〇	八五二		一							
八、九〇八	五、一八一	七、五六一	八、四四五	九、五三八		一八	一六	二	四				
九、六三三	五、八七五	八、二四六	九、二三八	一〇、五三一		二六	一九	八	二	二			

總計	英吉利	44	29	73
	獨逸	7	1	8
西班	牙	13	1	14
	牙	2	1	3
葡	萄	3	1	4
	牙	2	1	3
北	米	3	1	4
	合衆國	3	1	4
清	人	2,071	484	2,555
	國	2,140	515	2,655
總計		2,140	515	2,655

宗教

日本固有ノ宗教ハ佛教信徒最モ多シ古代ニ在リテハ政府自カラ率先シテ著ルシク其力ヲ佛教ノ宣布ニ盡クシ且ツ之カ爲メニ著ルシク國財ヲ耗費セシメタリシ事例ハ極メテ多シ然レモ人民ノ信仰上ニ向テ別ニ法律ノ以テ之ヲ強制シタルコトハ紀元二十二百八十年代マテハ尙ホ之レ無カリシガ其九十年代即チ徳川三代將軍家光ノ執政時代ニ及ヒテ此際西教天主教僧徒奸謀ヲ逞マシフスル者アリ是ニ於テ徳川氏ハ大ニ教禁ヲ嚴肅シ以テ不軌ヲ戒シム既ニシテ島原ノ

亂アリ爾後教門ノ禁制彌ヨ嚴ヲ加ヘ之ト同時ニ宗門検査ノ方法ハ戶籍法ト相混シテ行ハル、ニ至レリ
 明治維新ノ後此禁始メテ弛ミ宗門強制ノ慣行ハ茲ニ輟メラレ寺院ノ特權ハ著ルシク削減セラレタリ
 全國寺院ノ數及ヒ其住職ノ人員(明治三十年末日內務省調)左ノ如シ

寺院及住職

天台宗	4,800	2,869	5,061	3,893
真言宗	12,762	7,404	521	378
淨土宗	8,333	6,436	357	233
臨濟宗	6,130	4,351	45	18
曹洞宗	4,099	1,549	21	13
黃檗宗	605	366	21	13
眞宗	19,186	17,125	71,910	54,635
總計				
境外佛堂			71,910	54,635
總計			71,910	54,635
境			38,035	
外				
佛				
堂				

日本

三三三

又神道佛敎管長并ニ教師生徒人員表ハ左ノ如シ

神佛管長教師及生徒

佛神	管長		教師	非教師	生徒	總計
	道	道				
	一三	一〇〇、七〇五			一、三五七	一〇二、〇七四
	三八	五九、九四三		四四、三九七	一〇、九八三	一一五、三六一

敎育

明治維新以前ニ在リテモ亦日本中等以上人士ノ敎育ハ頗ル積累セル所アリ幕府及ヒ各藩ハ(小弱ナル者ヲ除ク外)各高等ノ學校ヲ設ケテ以テ學問ヲ獎勵シ其効果ハ往々觀ルベキ者各處ニ之レ有リ然レモ當時各藩所謂敎育ハ主トシテ其士族子弟ニ限ラレ且ツ其習練スル所ノ科業ハ武藝ト德育トヲ專ラニシテ而カモ智育ニ於テ未タ普ネカラズ殊ニ平民ノ敎育ハ單ニ之ヲ私人ノ事業ニ放任セリ明治維新ノ後政府ハ國民智德發達ノ基礎ハ實ニ唯敎育ニ在ルコトヲ認メ一方ニハ公費ヲ以テ皇族華族士民共ニ多ク之ヲ誘導シテ歐米ニ留學セシメ明治五年文部省ハ

學制ヲ定メテ全國ノ敎育區畫即チ大中小學區ノ制ヲ設ケ以テ各兒童就學ノ基ヲ開カシメ爾后廢ヲ逐テ漸次ニ改良革新ヲ加ヘ以テ敎育行政ノ發達ヲ圖レリ
 明治十二年第四十號布告ヲ以テ「敎育令ヲ」制定發布シ而カモ前年ノ學制(明治五年發布)ヲ廢セリ

其後數回ノ更定ヲ經テ現行「小學校令」ハ明治廿三年十月勅令第二百十五號ヲ以テ制定セラレタル者ニシテ其大要ハ強迫就學普通敎育ノ制ニシテ其規定頗ル詳密ナリトス蓋シ其ノ以前ノ規定ニ比較スレハ普通敎育ノ基礎トシテ小學校ノ組織ヲシテ頗ル改善セシメタル者ト謂フベシ
 近數年來ニ於ル學校及ヒ其敎員生徒ノ數ヲ見ルニ左ノ如シ

學校及敎員生徒

三十年末日調 (自第十三至第十七統計年迄)

日本	二十九年	二十八年	二十七年	二十六年	二十五年
----	------	------	------	------	------

專門及技藝學校	高等師範學校	尋常師範學校	陸海軍大學校
卒生敎學	卒生敎學	卒生敎學	卒生敎學
業徒員校	業徒員校	業徒員校	業徒員校
七、六七三 三、二、二六 三、四、二七	二、二二 八、四 四、三六	一、四〇〇 八、〇七八 六、九二	二、四 一、〇二 四、四
四、六〇七 一、八、二八五 一、七三九	六、八 四、九一 七、〇	一、五二九 六、一一八 六、七八	二、二五 三、六 二
四、六五一 一、五、八一三 一、二九三	一、〇九 七、七八 九、五	一、二〇五 五、八〇四 六、三八	二、二八 一、一
四、八二六 一、五、二六三 一、四三七	六、〇 二、四七 六、六	一、一七六 五、七一九 六、四七	四、六 五、七 三、三
二、五、六一 一、七、〇七四 一、五六八	三、九 一、六四 四、七	一、一四二 五、三三七 六、二七	三、八 八、七 三、五

帝國大學	高等學校	尋常中學校	小學校
卒生敎學	卒生敎學	卒生敎學	卒生敎學
業徒員校	業徒員校	業徒員校	業徒員校
四、四〇 一、八三三 一、七九	四、二三一 二、九四 七、七四	一、一三三 一、八一九 四、八三二	二、六、八三五 七、六、〇九三 三、八七七、九八一
三、五二 一、六〇 一、六三	六、七七 四、二八九 二、七九	二、三三六 三、九〇〇 一、四四八	四、六九、七五五 七、三、一八二 三、六七〇、三四五
四、二七 一、四六八 一、六一	五、六七 四、五〇二 二、五八	一、三三五 三、五六一 一、二〇五	四、四九、一八九 六、三、〇三五 三、五〇一、〇七一
三、九〇 一、三三七 一、六五	五、二〇 四、四八三 二、八九	一、二二八 二、〇、六六一 一、一〇八	四、二二、二一四 六、一、五五六 三、三三七、五六〇
三、四七 一、三〇八 一、七九	五、一四 四、四四三 二、八三	八、〇〇 一、七、二八五 九、一七	三、九四、七三二 三、一六五、四〇一 五、九、七九六

就學	男			女			合計
	三十一年	二十九年	二十八年	三十一年	二十九年	二十八年	
就學	三〇六六、二七八	三〇二二、一一〇	二、八七八、〇九六	一、七二六、四九三	一、六〇三、七三二	一、四九九、九七三	四、七八二、七七二
不就學	七三四、六八一	八〇〇、五六五	八七六、九三二	一、六五八、三三四	一、七七〇、六五二	一、八六八、一四一	四、三三八、〇六九
就學義務ノ未タ生セサル者	二八二、四七二	二九四、五四七	二九九、五五〇	二七二、一八四	二八三、九九九	二八八、一三九	二、七四五、〇七九
合計	四、〇八三、四三三	四、一〇七、二二二	四、〇五四、五七八	三、六四七、〇一一	三、六五八、三八三	三、六一六、二五九	七、七三〇、四四一
學齡人員	八〇、六七	七九、〇〇	七六、六五	五〇、八十	四七、五四	四三、八七	六六、六五
學齡人員中就學者	二九、九	二九、九	二九、九	二九、九	二九、九	二九、九	六四、二二
合計	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	三〇、〇	六二、二四

〔備考〕 就學義務ノ未タ生セサル者トハ其ノ年學年ノ初月ニ於テ未タ六歳一月ノ年齢ニ達セサル兒童ナリ

幼稚園

(三十年末日文科省調)

保園	男			女			合計
	三十一年	二十九年	二十八年	三十一年	二十九年	二十八年	
保園	二二二	二二二	二二八	一九六	一九六	一九六	一八五
幼兒	五二四	五二〇	四七二	三九四	三九四	三九四	三九七
幼兒	一〇、四七一	一〇、〇一七	九、四四〇	八、〇二八	八、〇二八	八、〇二八	七、一七〇
幼兒	九、〇三三	八、三三二	七、七六一	六、六七二	六、六七二	六、六七二	五、九〇八
幼兒	一九、五〇四	一八、三八九	一七、二〇一	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一四、七〇〇	一三、〇七八
幼兒	三、七三三	三、五三六	三、六四四	三、七三一	三、七三一	三、七三一	三、二九四
幼兒	三、七三三	三、五三六	三、六四四	三、七三一	三、七三一	三、七三一	三、二九四

學齡兒童中盲啞者

(三十年末日文科省調)

司法省法學校卒業生	獸醫學士	林藝化學士	農藝化學士	農學士	理學士	文學士	工學士	藥學士	製藥學士	醫學士	法律學士	法學士	合計	工學博士	文學博士	理學博士
四	八七	一〇六	一一二	一九九	二七九	三〇八	七二三	一六	二八	五〇九	五三	八四一	一一一	二七	一一	三三
四	七六	七六	三九	一二七	二五三	二四三	六一三	一六	二八	四八四	五三	七三七	一一四	二八	一一	三三
四	七四	七三	三六	一二二	二三〇	一八二	五四二	一一	二八	四六六	五三	六七二	一一三	二七	一一	三三
四	六九	六六	二六	一〇六	二二四	一三三	四六三	一一	二八	四三九	五三	五八二	一一〇	二七	一一	三三
四	六九	六二	二二	九四	一九八	一〇七	四一七	一〇	二八	四二五	五三	五〇六	一一五	二七	一一	三三

學位受領人員及大學卒業生

醫學博士	法學博士	合計	三十二年		三十一年		三十年		二十九年		二十八年		二十七年	
			男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
三四	一七	五二	四七八	三六七〇	三八一三	三六七〇	三六	六五	一〇一	一〇	一四四	一三一	三二	一六五
三四	一八	五二	四七八	三六七〇	三八一三	三六七〇	六五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三四	一八	五二	四七八	三六七〇	三八一三	三六七〇	六五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三四	一八	五二	四七八	三六七〇	三八一三	三六七〇	六五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三四	一八	五二	四七八	三六七〇	三八一三	三六七〇	六五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

同上ノ中、學校ニ於テ就業スル者

工部大學校卒業生	10	10	10	10	10	10
農學科卒業生	10	10	10	10	10	10
林學科卒業生	10	10	10	10	10	10
獸醫學科卒業生	10	10	10	10	10	10
合計	3175	2833	2578	2277	2081	

〔備考〕 博士ノ數ハ文部省調大學卒業生ノ數ハ二十八年二十九年年三十一年刊行ノ帝國大學一覽ニ據ル

死亡者ハ之ヲ省ク

學士ノ内博士ノ學位ヲ得タ者モ包含ス

公 學 費

(文部省第二十五年報)

學校長俸給	三十年度	二十九年度	二十八年年度	二十七年年度	二十六年年度
	一三三、二五五 円	一〇六、七七二 円	八六、八五七 円	六八、〇八三 円	五七、四二六 円

教諭助教諭	六、九四一、九〇四	五、八一四、二六三	五、三〇五、六〇一	五、〇二〇、七二三	四、五七七、六二三
訓導俸給	二六、八九八	二二、七六一	二二、八四四		
保母俸給	一、七〇六、四六三	一、四六一、九八九	一、三五八、六六一		
准教員俸給	一、〇一九、四〇七	八三七、八八九	七〇七、一三〇	一、六三三、九三三	一、六〇五、五五九
雇教員俸給	六、二二三	四、九八四	四、四〇四		
保母助手俸給	四七六、九七八	三八八、〇三三	三四五、九五六	二九九、九六一	二八五、七八二
生徒給費	一九七、四〇四	一六六、六三〇	一四六、二五二	一三四、〇二二	一三三、二九九
借地借家費	五六七、六八九	四五二、九六一	三六九、二四五	五一九、一五七	四九一、九二二
圖書器械標本費	五二〇、七六四	四二二、〇七九	三〇三、〇一三	五一九、一五七	四九一、九二二
新營費	三、二六二、〇八八	二、八一〇、六五三	一、四八五、二八二	一、一八四、七三九	一、二二六、九二二
修繕費	七二二、六五四	五八〇、四六六	四五九、二二二	四一七、一三三	三九九、九八四
舎監俸給	一〇、〇五二	八、六二九	六、二九五		
舎記俸給	七〇、〇六一	五六、四六六	四八、八一		
諸給料	六七〇、一三三	五二四、七九六	四六四、六三〇		
旅費	二四二、〇八三	一七四、八六八	一四〇、〇三五	二、〇九九、一四一	一、九〇四、七〇五
雜給費	二六四、四九四	二〇一、四七五	一四九、〇一〇		
消耗品費	一、〇〇三、九六一	八三四、〇〇六	六八六、二二四		

日本

四五

四四

入	其他ノ諸費			合 計		
	授業料	保育料	寄附金	雑收入	國庫補助	合計
	三、八五二、〇二五	三、三九六、一六七	三、〇五八、三五〇	八〇二、七〇六	一〇八、六〇〇	六、一三三、八〇六
	三、一、四七一	二九、三五九	二六、四九三	八二五、三七九	五三、八〇七	五、四八八、七八二
	八四四、八三一	一八	二、七六九、六八〇	四二八、六三〇	二六、七一四	四、六四六、九〇七
	四八四、一七三	七六五、四二二	二、三	五六六、五六四	四、四一九	四、二九三、四一〇
	八〇二、七〇六	四二八、六三〇	五、四〇、七八二	四九九、九二六	四、四一九	四、〇七五、七六七
	一〇八、六〇〇	八二五、三七九	四二七、九八一	四九九、九二六	四、四一九	四、〇七五、七六七
	六、一三三、八〇六	五、四八八、七八二	四、六四六、九〇七	四、二九三、四一〇	四、〇七五、七六七	四、〇七五、七六七
	一八、六六九、〇四九	一五、五二六、一〇一	一一、六七三、八二〇	一一、三七六、八六二		一〇、六八三、一五〇
	八三六、五三八	六六四、三九二	五八五、四四九			四六

〔備考〕 公學費ニ對シ收入ノ不足額ハ府縣、郡、市、町村ニ屬スル他ノ收入ヲ以テ支辨シタルモノニ當レリ
 收入ノ部基本財産ヨリ生スル收入ノ項二十七年以前ハ積金利子ナリ

司法制度及ヒ犯罪

日本ノ司法制度ハ明治維新ノ初メニ當リテ專ハラ明清律ト舊政府ノ法令並ニ舊慣例トヲ折衷シテ之ヲ施行セラレタルモ明治四年岩倉大使等一行ノ歐洲行以前ヨリ夙トニ歐洲ノ民法刑法訴訟法調査研究ノ端ヲ發シ爾後大使歸朝以來諸般ノ制度革新ト同時ニ司法制度ノ革新ハ著者其歩ヲ進メ明治八年ニ始メテ大審院ヲ建設シ民事裁判ト刑事裁判トヲ區別シ大審院中裁判官合議體ノ組織ヲ定メ及ヒ控訴裁判所ニ於テモ合議組織ト爲セリ是ニ於テ司法權ヲシテ行政權ノ外ニ獨立セシムル(大約)ノ基礎始メテ定マレリ
 明治十三年七月始メテ治罪法ヲ制定シ其中ニ於テ刑事裁判所ノ構成法ヲ改定シ判決ハ總ベテ公開ノ原則ヲ認メ之ヲ實行セラレタリ又國事犯罪ハ總ベテ特別高等法院ニ於テ之ヲ管轄スベキコトト爲セリ

十九年裁判所官制ヲ大ニ改定セラレ司法權ノ完全ナル獨立ヲ確認シ裁判官ハ刑事又ハ懲戒裁判ニ由ルニ非ラザレバ其意ニ反シテ退官若クハ懲罰ヲ受クルコト無シトノ原則ヲ實行セララルルハ勿論判事檢事ノ任用資格ヲ定メラレタルガ故ニ此裁判所構成法改定ハ憲法發布以前ニ於テ夙トニ日本司法制度ノ局面ニ於ル一大光明ヲ迸發セリ

明治二十三年憲法ノ實施ニ伴フテ法律第六號ヲ以テ更ラニ裁判所構成法ヲ制定ス即チ現行法
 ニシテ裁判所檢事局及ヒ其官吏司法行政ノ職務及監督ノ四編ニ分チテ精密ナル規定ヲ設ケラ
 レタル者也。是ニ於テ裁判官ノ特權ハ前ニ比スレハ更ラニ一層精確ニ規定セラレタリ
 判事ハ皆高等官ニシテ其上等ナル者ハ天皇陛下ノ勅任スル所トス
 現今裁判所ノ數ハ左ノ如シ(三十年末日調)

大 審 院	控 訴 院	地 方 裁 判 所	同 支 部	同 裁 判 所	同 出 張 所	合 計	三十年	二十九年	二十八年	二十七年	二十六年
							一 七 一	一 七 一	一 七 一	一 七 一	一 七 一
							一六二八	一六三〇	一五三三	一五一八	一五一五

臺灣裁判所

三十年末日調 (臺灣總督府 第一統計書)

三 十 年	高等法院	覆審法院	地方法院	合 計
	一	一	八	一〇

又監獄ノ數并ニ在監人員ノ男女各數左ノ如シ

監獄監署

三十年末日內務省調

集 治 監 及 同 分 監 監 獄 署 及 同 支 署	三十一年	三十年	二十九年	二十八年	二十七年
	一三〇七	一三七七	一三〇八	一三三八	一三三七
合 計	一三七	一三七	一三八	一三八	一四六

臺灣監獄署

三十年末日調 (臺灣總督府 第一統計書)

三十	地	監獄署	同支署	合計
		五	三	八
五〇				

在監人員

三十年末日內務省調

合計	四		懲治人	刑事被告人	別房留置人	携帶乳兒
	男	女				
三十一	五四、七一一	四、二〇五	一九〇	八、七〇三	一、六四〇	一、六七一
三十	五二、九四三	四、一八四	一六四	九、二九七	一、三九八	一、七四
二十九	六〇、〇三四	四、二五三	一四六	八、四八八	一、二八一	一、五五六
二十八	六〇、九五九	四、二七五	一九一	九、二五五	一、五五六	一、三三八
二十七	六二、六七〇	四、五九一	二三五	一〇、〇四二	一、九五一	二、四二
合計	七五、一〇八	五、四二二	七二、一三九	七〇、一〇五	五、三二八	五、二八九

臺灣在監人員

三十年末日調 (第一統計書)

內地	刑事被告人		別房留置人	合計
	男	女		
一、二六	一〇四	六	二	二、三三
五八三	六五四	一三	一三	一、二五〇
七〇九	七五八	一九	一五	一、四八二
合計	一、二六	一〇四	六	二、三三

財政

明治四年辛未廢藩以前ニ在リテハ日本帝國内尚ホ大小二百七十餘ノ諸藩分立セシ者ニシテ其各藩内ノ租稅賦役等其偏輕偏重區々錯雜紊乱セルコトモ亦太甚タシキヲ極メタリ同年廢藩置縣ノ後國內幸ニ太甚ダシキ叛乱無ク租稅ノ改正就中地租改正國債紙幣(各藩藩札ト稱セル者)ノ整理華族士族ノ世祿償却處分等ノ幾多重要事件ガ漸次ニ其成功ヲ奏シタルハ明治十四五年迄ノ間ニテアリキ蓋シ日本ノ財政ハ從前單ニ地租ヲ以テ其大部分ヲ占ムヘキ財源ト爲シタリシガ明治四年辛未廢藩以後海内統一ト共ニ稅法改正ノ奏功ニ依リ歲入歲出ノ豫算方法モ亦漸次ニ其整理ニ向ヒ明治廿二年憲法制定ト同時ニ會計法制定發布セラレ會計検査院法モ亦確乎改定セラレタリ是ニ於テ日本帝國ノ財政ニ於ル統理ノ方法ハ純然立憲政治ノ精神ト相伴フコトヲ得ルニ至レリ

近九年來ニ於ル歳入出及ヒ其近四ヶ年來歳入各種類別并ニ歳出各種類別計表ハ左ノ如シ
 五二
 〔官報及第十七統計年鑑〕

歳	歳入		歳出		歳入超過
	豫算	現計	豫算	現計	
三三	二四六、九五三、〇七五	二四六、四五二、七〇七	二四六、四五二、七〇七	五〇一、三六八	〇
三二	二五四、七二五、三九七	二四六、四七二、六五六	二四六、四七二、六五六	八、二五二、七四一	〇
三一	二二六、一七三、三四六	二二二、三五九、四七九	二二二、三五九、四七九	三、七五七、八六七	〇
二二	一八七、〇一三、四四二	一六八、八五六、五〇九	一六八、八五六、五〇九	一八、一五六、九三三	〇
二一	一一八、四三三、七二二	八五、三一七、一七九	八五、三一七、一七九	三三、一一五、五四二	〇
二〇	九八、一七〇、〇二八	七八、一一八、六四三	七八、一一八、六四三	二〇、〇四一、三八五	〇
一九	一一三、七六九、三八一	八四、五八一、八七二	八四、五八一、八七二	二九、一八七、五〇九	〇
一八	一〇一、四六一、九一一	七六、七三四、七四〇	七六、七三四、七四〇	二四、七二七、一七一	〇
一七	一〇三、三三一、四八九	八三、五五五、八九一	八三、五五五、八九一	一九、七五五、五九八	〇

〔備考〕二十九年七月三十一日ノ現計ナリ
 歳入種類別

租稅	三十二年度		三十一年度		三十年度		二十九年	
	豫算	現計	豫算	現計	豫算	現計	豫算	現計
地所稅	一二七、五三三、〇六三	九〇、〇八四、四五八	一二三、三四、一四七	九四、六三八、七八一	一二七、五三三、〇六三	九四、六三八、七八一	一二七、五三三、〇六三	七六、三八七、二八六
酒管業稅	四五、八七四、一四〇	三八、六六八、九九一	四八、一、二八四	三七、九二〇、五四九	四五、八七四、一四〇	三七、九二〇、五四九	四五、八七四、一四〇	三七、六四〇、二三五
酒管業稅	三、八三五、七五五	一、九〇五、六九六	五、八七四、一六八	二、〇九三、五一六	三、八三五、七五五	二、〇九三、五一六	三、八三五、七五五	一、八一〇、二二二
烟管業稅	五、六二二、一五四	二九、八二二、八五三	二九、八二二、八五三	四、四〇九、一六六	五、六二二、一五四	二九、八二二、八五三	五、六二二、一五四	一九、四七六、四〇四
證券稅	七二、八〇二	八、五五六	八、五五六	三〇、九五九、四九二	七二、八〇二	八、五五六	七二、八〇二	九、六四六
菓油稅	二、八五〇、四五七	二、二三四、一四七	二、二三四、一四七	四、九三五、〇〇〇	二、八五〇、四五七	二、二三四、一四七	二、八五〇、四五七	二、九七七、六一九
醫藥稅	一〇六、〇〇四	八三七、三二九	八三七、三二九	一、二〇五、六六四	一〇六、〇〇四	八三七、三二九	一〇六、〇〇四	五、四一、一三六
鑛業稅	四一五、二四九	二八一、〇〇一	二八一、〇〇一	四〇〇、一七四	四一五、二四九	二八一、〇〇一	四一五、二四九	一、五三四、〇三二
取立引業稅	九六二、五二三	六八四、〇〇一	六八四、〇〇一	一、一〇四、五四九	九六二、五二三	六八四、〇〇一	九六二、五二三	八八一、六〇四
國立銀行所稅	九四	一一七、〇九六	一一七、〇九六	一〇九、五三三	九四	一一七、〇九六	九四	一〇〇、一七三
沖繩縣酒類出港稅	五六、一八六	四六、三二一	四六、三二一	五六、八三一	五六、一八六	四六、三二一	五六、一八六	二、一六、六八二

日本
 五三

船	三三	一一	一九四	一五二、〇八七
車			八	四六九、四九一
北海道水產	三六六、〇三三	三六六、〇三三	三三三、一〇〇	三〇一、五〇六
牛馬賣買免許			二二	四一、三六九
狩獵免許	一四九、一六七		一〇五	一八七、八九一
北海道地方	七〇、五四二			
噸關	一六、七二六、三八二	六、六二六、八二九	八、〇二〇、五三三	六、七二八、三三三
兌換銀行券發行	三三三、三一五			
稅	一、一五九、五六〇			
稅	一〇、〇五七、〇九七	七、五二五、六一六	五六〇、九七五	九二六、二四〇
印紙及押印收入	三七、六五五、六九五	二一、〇七八、八七一	五、八三二、七一五	五、三三七、一〇六
官業及官有財產收入	九、四六九、四七四	八五九、六九八	一九、三〇一、六四九	一七、五五五、五二八
葉烟專賣收入		一八五、〇七八	二九二、一四二	
官報收入	一九、〇三八、九九七	一一、一三三、一四七	一八三、〇五三	一八一、六五一
郵便電信收入	一、五四七、八七三	一、三五九、七七三	二、一〇三、九二九	一〇、四〇六、〇八三
森林收入	一五六、五七二	二五八、九四二	一八五、八七三	一、二八六、四二一
囚徒工錢及製作收入	一四、五五〇	一五、八一四	一三、八八一	二一、七六三
藥用阿片拂下代				一四、九九九

官有物貨下料	一七六、一六五	三九五、六一一	二二九、八二三	四一三、九二三
度量衡原器拂下代		一〇一	七七	四六
造幣局益金	二四、三七三	二七〇、五八九		七七二、五八八
傳染病研究所收入	九九七	九七一	三三三	二、三四八
北海道廳種畜場收入	一九三、五八三			
北海道鐵道收入	一一四、五九六	一六七、一七八	一八〇、八一九	二〇五、四二二
印刷局益金		一、九三五		五〇六
鑛山益金	一一、三六七	二、一七四	九、一一六	二一、六二六
手住製絨所益金			三八、八〇三	三三、八二二
造船材料賣拂益金	六、九〇五、一五九	五、四二五、七七三	四、五六一、一七八	三、九八七、〇三一
鐵道益金	九八九	三、〇九七	八、八九九	一七、二二九
電信燈蓄用品製造所益金	二、〇八二、九〇二	一、〇三三、二八九	二、二二七、三五〇	一、三三一、五八六
雜收入				
免許及手數料	八四九、〇九六	一四、九七五	一六、五三一	一八、〇七一
懲罰及沒收金	三九六、七〇〇	二八七、六三四	五〇七、八九五	三九四、九四七
辨償及違約金	一四二、八三七	七八、三三二	二二九、六〇四	二〇九、五八三
稅關雜收入	二八五、二八〇	二〇、七二七	二八〇、九八九	二二、一五一

開港場收入	二八、八九五	二六、八五〇	二二、
雜收入	二二五、〇三一	二七五、〇八六	二二、
官吏遺族扶助法納金	一五八、二七二	一四〇、九七四	三五五、九八一
學校職員退隱及遺族扶助法納金	一六、二二八	一六、一〇〇	一〇二、六二四
沖繩縣地方收入	一〇、〇八九	一〇、〇八三	一五、〇八六
小笠原島地方收入	四一三	三六二八	一一、七八一
臺灣收入	一、二四二、三四八	一、七二四、一八五	二、七一一、八二三
預金利息線入	九七、八四〇	二、七二四、一八五	一、五四八、一九三
臺灣事業公債償却金線入			
經常部合計	一七八、五五八、九四四	二二二、四三五、四一九	二一三、五三五、一七四、一〇四、九〇一、五二二
官有物拂下代	六三〇、六一二	一、四四八、一五〇	八八六、五一五
鑛山拂	二五三、九二八	二五三、九二八	一一、一〇三
地所拂	三三、四五八	九二一、八八三	二五三、九二八
建物拂	七、二八六	六、四二七	六七、四六五
物品拂	二七五、二九〇	二二七、一三五	一一、七七三
家畜拂	三一、八七〇	一九、九九七	七四四、三三〇

帳內炭山所屬物件及帳內郁春別鐵道拂下代	二八、七八〇	二八、七八〇	三、八六六、九四八	一、三九八、七〇三
雜收入	九四、一七五	一、四八二、〇三五	三、二一〇	九五〇
軍事公債應募延滯拂込金	八九、五八九	一〇七、〇六五	三、一六〇	五八、一七三
海軍受托造船收入			四九五、七四五	一一、一〇、四五二
利子收入	四、五八六	七、二八〇	三三三、七二二	一、八四、四一五
返納金		八、三五八	六、八七一	四四、七一四
公債證書製造及發行費線入		一、三六七、六九〇	一、〇七四	一、四三九、七九〇
中央備荒儲蓄金線入		二、二八二、七六九	四一〇、一〇六	一、七八一、七七二
製鐵費補足金		三〇〇、〇〇〇	八三六、〇一八	一、七八一、七七二
御下付金		一九八、七六九	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
威海衛守備費償却金		七五〇、〇〇〇	五三六、〇一八	一、四八一、七七二
地方分擔納付金	六三七、二八三	六六四、八五九	八二二、五二五	七四一、四三〇
臨時軍費特別會計剩餘金線入			三九八、二〇〇	三二四、四〇〇
一時賜金充用軍事公債				二四、七五四、六二〇
公債募集金	二四、六六六、九〇〇	六一、三二九、五〇〇	三六、三八九、八七四	二、九七六、六〇〇

前年度ヨリ繰入及繰出資金繰起

償金繰入

一時借入金

償金特別會計資金繰替

森林資金繰入

獻納金

臨事部合計

總計

歳出種類別

三十二年算	三十一年度算	三十年度計	二十九年算
三、一八八、三六四	一〇、八一五、一八六	一八、一五八、三九六	三三、六一五、五三五
九、七二二、八三九	五〇、五〇九、一一二	四〇、八一七、五一六	一一、七八九、三八九
八、一三、九五八	四、〇〇〇、〇〇〇		
二〇、〇〇〇			
六八、三九四、一三一	一三三、二八九、九七八	一〇二、五八二、一七二	八二、一一一、九二〇
二四六、九五三、〇七五	二五四、七二五、三九七	二二六、一一七、三四六	一八七、〇一三、四四二
三〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
二、一四、六三六	一、六六六、八五一	一、四四五、八四九	一、二一六、五〇四
一、六四、五九八	一、六六六、三九八	一、六三三、五二二	一、一三七、九五六
一、九五〇、〇三八	一、五〇〇、四三三	一、二八二、三三七	一、〇七八、一四八

内務省所管

神宮

神社費及國幣社例祭幣帛料

本衛生試驗所

血苗製藥院

痘苗製造所

土木監督署

集治監督署

警視廳

北海視廳

伊豆七島地方警察廳

府笠原島地方警察廳

小笠原島地方警察廳

沖繩縣地方警察廳

對馬地方警察廳

大島地方警察廳

日本

三十二年算	三十一年度算	三十年度計	二十九年算
一〇、四四三、七二五	七、七九三、九二四	六、五二六、四八八	六、二七七、一五五
二、七、一一三	二、七、一一三	二、七、一一三	二、七、一一三
二、三三、四二二	一、七六、六〇四	一、七六、四六一	一、七六、五六四
二、九五、〇九一	四七六、七五〇	二九四、一五六	二八九、七六九
三、三、一一一	二、五、八〇六	二、五、二八五	二、五、二、三三三
三、三、三七一	二、七、二〇九	二、六、一五六	一、七、九二八
八、七、五三五	六、六、五〇二	八、五、九七三	一、一、三、〇四四
九、四、三五九	九、四、九一〇	八、七、三四〇	八、四、七七五
九、四、九五二	四、一四、二二五	三、七、〇三五	三、六、二、一五二
二、四、五、三七一	二、五、四、九六三	二、五、〇、四八五	二、四、四、六五七
一、六、八、二、八四八	三、七、八、二	二、八、〇、七	二、二、〇、二
五、五、九、一、二八八	五、八、九、四、一六九	四、九、四、五、〇一〇	四、七、三、三、六八七
一、八、二、〇、八	一、三、六、六〇	一、〇、四、一、三	九、六、〇、七
二、〇、三、二、四〇	一、八、二、八、八一	一、七、三、九、九六	一、七、三、四、四一
	一、〇、六、〇、六	八、七、七、〇	七、九、七、九
	九、八、五、六	八、一、八、三	七、五、六、六

地方警察	二七,一九一	三三,七二〇	三三,三〇五	二,四六五
橫濱港維持費	三八,六八九			
醫術及藥劑師試驗費	六〇,三四八			
古社寺保存補助及補給費	一五〇,〇〇〇			
北海道官設鐵道事業費	四六一,八九〇	八一,一七八		
船舶檢疫所	一八八,三三六			
傳染病研究所	三九,三六二			
大藏省所管	四八,二四九,〇〇一	四四,一三八,九九二	三九,〇七〇,七七四	三八,三九三,八八二
本省	二九八,〇七九	三三八,〇三六	三二一,七二一	二六六,七七三
恩賜	三三,三九八,七六三	二九,七一〇,三七八	二九,五〇四,七三一	三〇,五〇四,一七二
內閣	四,一三三,九二八	三,八九七,七七三	三,六六〇,五二二	三,五二二,九三七
樞密院	二二五,四〇七	一七八,七四八	一六九,七九二	一六八,八九三
貴族院	一一二,三七六	一〇三,八〇四	一〇一,〇四六	九七,三九五
衆議院	二七八,七五〇	三二一,九三二	二四〇,二二六	二三八,六三九
會計院	三三二,九〇六	四三二,六七一	一七六,五九一	三一六,六七四
行會	一九八,九〇八	一九九,〇二九	一九三,五八二	一四四,九六六
政計	四四,〇九六	三九,七二九	四〇,七九七	四〇,二三七

臺灣	五四七,七五七	二三八,一五二	一九三,七四一	二四七,四四一
官報	三,二九一,三二四	三二五,二二四	二八二,六六一	二二九,五九九
內國稅徵收	一,一九八,〇五六	一,〇八二,〇二二	二,二六七,四九五	一,九九二,六五四
葉草專賣事務	三,六一一	三,〇九五	四八一,〇七六	二二七,五
交官試驗	九三三,八八三	六五四,五六五	五〇三,〇五六	四六三,一八〇
貨幣取撥	二三八,七八九	九〇〇,三八一	九三一,〇二六	一六六,九六五
諸拂戾及缺損補填	三,〇〇〇,〇〇〇	三,二〇〇,〇〇〇		
國庫豫備金	二二,四五八			
製造烟草輸出交付金	三七,〇四〇,八三九	三三,八七四,〇八六	二八,四二〇,二六九	二二六,一三三,五九〇
陸軍省所管	二五六,六七二	二四〇,〇七七	二二一,二〇九	二〇二,〇九五
本軍	三三,九七七,八七三	三〇,二七八,四四〇	二五,五六八,一一一	二〇,一三三,一〇六
憲兵	二,三〇八,三二八	二,八五五,八五一	二,〇五一,五五八	一,七四二,三九四
屯田兵	四九〇,四一六	四九二,一六八	五七一,八四一	五二九,四四五
靖國神社寄付金	七,五五〇	七,五五〇	七,五五〇	七,五五〇
海軍省所管	一五,一三三,一六七	一一,四〇五,五八三	九,五三九,四八七	七,三五一,三三〇

軍本	司法省所管	本	裁	交部省所管	本	測	中	地	諸	府	小	農	本			
事	判	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會			
費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費	費			
一九七、九三四	一四、九二五、二二三	四、七九二、五六一	一、一〇〇、七六六	四、六八二、四八五	三、一〇九、八七七	三五四、八六八	二八、二二二	七、一一五	三五、一五三	一、六九四、八八五	一、六三三、二四七	五二、二五〇	五二四、一四七	二五〇、〇〇〇	一、八三六、五九五	三三五、三九三
一五八、五二二	一、二四七、〇七一	三、八一七、〇〇〇	一〇四、九〇〇	三七二、一〇〇	二、三五〇、〇三九	二二九、九九六	二五、〇〇〇	三三二、二五三	一、三七三、三七四	六三、〇〇〇	四五、九六五	四三〇、四五二	一五〇、〇〇〇	一、六八五、一九四	二八〇、五八〇	
一四九、七二三	九、三八九、七九四	三、五四二、六〇六	一〇二、一一一	三、四四〇、四八五	一九八四、五七八	一九五、三六八	二四、九五二	二四、九六一	一、一七五、八七〇	四六、四九四	三八、四八六	三三〇、三三七	一四八、一一〇	一、三六〇、五一六	二六〇、八九一	
一〇四、五七九	七、二四六、七五一	三、四五二、九三三	九七、九八〇	三、三五四、九五三	一、四二二、三八九	一四八、六六三	二一、五八一	二二、八四一	九八三、〇五七	三八、一七九	一三〇、七八四	七七、三九四	一、一四二、四九八	二二二、三六八		

林	鑛	農	水	蠶	生	貨	馬	種	種	種	保	韓	選	航	船	日
區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	區	本
署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	署	本
八六七、七六七	八七、〇九四	一〇九、七二二	三九、八二五	三六、八四五	三七、八四七	一九一、一六四	一一、三五〇	一一一、六六五	四、五三〇	三三九、四	一五、二五二、四一一	二八、二六三、五	一四、三二四、〇一五	二五九、一一六	一四二、五三七	本
八七三、七五六	七二、三八〇	六六、〇四一	五一、四四四	二七、四〇七	三九、五四九	一九、六九三	一五〇、九三四	二、九三八	一〇四、八九二	一五八〇	一五、四七八、一五五	二七、七、三六〇	一一、五七五、五七五	二二、一、七〇九	一一四、〇三五	本
六八七、四三七	七二、七九九	六〇、九九一	五〇、三六六	二二、五六七	三六、三九八	一八、八〇三	一四七、七二三			一、五四一	一〇、六一〇、八四〇	二四、七、五四一	九、二九三、五六三	一八六、八八四	八一、一二四	本
五七二、八三五	七〇、二九九	五九、七七二	三〇、三三三	一四、五六五	一六、九六五	九一、六一八					八、二六二、〇七八	二〇五、〇三三	七、七七二、六一〇	一七〇、六三〇	四一、五九一	本

陸軍	外務省	內務省	大藏省	皇室費	經常部合計	交通部	農商務省	遞信省	拓殖省	臨時部合計	總計
省	省	省	省	所	所	所	所	所	所	所	所
管	管	管	管	管	管	管	管	管	管	管	管
二四〇,九六二,八〇二	九六,五九三	一二,六六六,三八四	五,七二五,一七二	一八,五三九,四一五	二二七,四二五,〇四四	一八五,七七四	一一,三三一,九三一	一〇,三二七,五四七	二五,七五九,七九六	二四六,四五一,七〇七	二四六,四五一,七〇七
八八,三一四	八二,六〇五	二二,八四〇	三〇,九六六,七一七	二,二一五,二二〇	一四,四二〇	一四,九三三,二七三	五七七,四五六	一,四九三,二七三	三,〇七一	二二,一五二,二二〇	二,二一五,二二〇
七二,五一二	二〇,八三三	七〇,八三三	一,七九九,五八〇	三,〇七一	八二,六三五	九,〇八三	一,三一九,九二二	三,八四,八六八	一〇,七,三〇〇,九八七	一〇,七,三〇〇,九八七	一〇,七,三〇〇,九八七
五二,三九一	二〇,八〇六	七,五八三,九二八	三,〇六六	一一一,〇九九	五,九一六,二九三	一,〇四七,六二四	四九五,八四六	七,五八三,九二八	三,〇六六	二,〇六六	二,〇六六

海軍省	司法省	文部省	農商務省	遞信省	拓殖省	臨時部合計	總計
所	所	所	所	所	所	所	所
管	管	管	管	管	管	管	管
三六,〇四四,四九七	四五七,八〇九	一,一八九,一六八	五,二五一,三七八	二五,五一八,四八九	二〇五,四八八,九〇五	二〇五,四八八,九〇五	二〇五,四八八,九〇五
五二,九八一,九七一	二二四,八六四	七六二,五三三	一,九五八,七三六	八,九六六,三七二	一一九,〇四七,六二二	一一九,〇四七,六二二	一一九,〇四七,六二二
四〇,八二三,一九六	二二五,〇一六	六二五,七五九	一,五一四,〇九〇	一,四六八,九六五	一一五,〇五八,四九二	一一五,〇五八,四九二	一一五,〇五八,四九二
一一,六五四,四二八	一六二,八九六	三二七,〇九五	四八八,〇三三	四,七三三,一七三	六八,一四〇,六二二	六八,一四〇,六二二	六八,一四〇,六二二

臺灣歲入出

三十三年度豫算

內地稅
官業及官有財產收入
諸免許及手数料
經常部合計
官有物拂下代
公債募集金補充

海關稅
印紙收入
雜收入
補充金
臨時部合計

歳入總計	一七、三三八、八一	注院	三〇五、八九八
總督府	五五五、八三八	警察費	一三九三、七八五
縣廳	五三七、四二〇	監獄費	三九九、三九一
警察官及司獄官練習所	一六八、九八八	醫院	一〇四、三一八
辨務署	四四五、八六八	土人醫師養成所	三〇、五八九
公醫費	四〇、三八二	稅關	二三四、六五七
教育費	一四八、一六二	測候所	二二、八〇七
遞信費	九三六、六八八	基隆新竹間鐵道	四二〇、六二〇
航路標識費	五九、三二六	製藥所	二、八四三、〇八一
食鹽專賣所	四七五、六九二	諸拂戻及缺損補填金	八、〇〇〇
印紙類諸費	九七	樟腦專賣所	一六二、四三四
歳入經常部繰入	九七、八四〇	經常部合計	一一二、五四、八八一
豫備金	三〇〇、〇〇〇	巴里府萬國博覽會出品費	二七、四三五
事業費	一、七八〇、五六六	衛生費	四〇、〇〇〇
獸疫豫防費	八、〇〇〇	匪徒討伐從事者特別賜金	三五、六三七
補助費	七〇、〇〇〇	臨事部合計	五、七九一、六三八
特別事業費	三、二〇〇、〇〇〇		
歳出總計	一七、〇四六、五一九		

國債

國債ハ、舊政府并ニ舊藩廳ガ人民ヨリ借り入レタル負債ノ殘金ハ、明治六年三月第百十五號ノ布告新舊公債證書條例ヲ以テ之ヲ整理シ償却スル方法ヲ定メ爾後逐年之ヲ償却セリ。其後ノ公債ハ、各豫約ノ如ク之ヲ償還セル者。及ヒ又近年ニ及ヒテ政府ガ新々ニ之ヲ借り入レタル者各種公債若干アリ。其各公債現存スル者(明治三十二年四月一日大藏省調)左ノ如シ。

國債

三三三	內國債	外國債	政府紙幣	合計
三三三	千円	千円	千円	千円
三三三	四一三、二五三		五、一一二	四一八、三六五
二二二	四二一、二四六		六、九九五	四二八、二四一
二二二	三八三、一〇一	二三四	九、〇四五	三九二、三八〇
二二二	三七〇、五五七	一、二〇三	一〇、六七九	三八二、四三九
二二二	二九三、六九七	二、一〇〇	一三、〇二一	三〇八、八二八
二二二	二六四、八五八	二、九五七	一五、七〇五	二八三、一五〇
日本				
三三三	十			
三三三	十一			
三三三	十二			
二二二	七			
二二二	八			
二二二	九			
二二二	年			
二二二	年			
二二二	年			
二二二	年			
二二二	年			
二二二	年			
二二二	年			

二	二	二	二
十	十	十	十
三	四	五	六
年	年	年	年
二六三、三七七	二六八、二五七	二七〇、〇五一	二四九、六二〇
三、七四九	四、四八九	五、一八〇	五、八二六
一九、二〇〇	二五、七〇二	三一、三七〇	四〇、〇六五
二八六、三二六	二九八、四四八	三〇六、六〇一	二九五、五一

六八

地方財政

各府縣ノ行政ニシテ、其系統國庫支辨ニ屬スベキ費用ヲ除ク外ハ、各地方自治的行政費トシテ
 地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スル者トス。其收入支出ニ關シテハ、各府縣ノ議會ニ於テ毎歲之ヲ議決
 シタル上府縣參事會之ヲ管理スル者ナリ
 近五ヶ年來(明治二十七年ヨリ同三十年度ニ至ル、各府縣稅收入及ビ支出計表ハ左ノ如シ

府縣稅收入

營地	業租	稅割	豫三十一年度	豫三十年度	決二十九年度	決二十八年度	決二十七年
			算	算	算	算	算
			一、三、一三四	一〇、二二七	二二、二〇五	九、五二四	九、〇二三
			千円	千円	千円	千円	千円
			一、九四〇	一、九四七	三、三七五	三、〇三一	二、九二二

雜種稅	榮業稅附加稅	戶數割家屋稅	市豫算編入額	計	財產收入	財產收入	雜收	寄附金	繰越金	府縣下渡及補助	國庫	合計
				計	收入	收入	收入	收入	收入	收入	收入	收入
三、七五四	八八六	五、〇九一	二二六	二五、〇三一	三五	一一二	三、九五三	二一五	六六一	四五六	一、五八一	三三、〇五四
三、〇九八	五三四	三、九八三	五八	一九、八三七	七	二五	三、二一八	一三八	七二三	一五六	一、一四八	二五、二四二
二、二五七		四、九九三	一〇五	二二、九三五	一六	二六	三、二四五	一七一	二、八六八	三、一五三	八、六一八	四一、〇三三
一、九九五		三、四七四		一八、〇二四	一九	六	二、九七八	一四五	四、二九五	五五〇	一、七一八	二七、七三五
一、八六九		三、三四二		一七、一四六	三	二八	二、五七五	一二五	七八九一	四八七	一、三〇八	二九、五六三

〔備考〕豫算ハ通常府縣會ノ決議額ナリ支出ノ表亦同シ

府縣稅支出

費目	三十一年度	三十年度	二十九年	二十八年	二十七年
	算	算	算	算	算
警察費	六六七一	五四〇八	五〇七〇	四、九四三	四、七五〇
警察廳舎建築修繕費	一六〇	一四九	二〇〇	一三〇	一四七
土木費	七、三四〇	五、八五六	一一、七〇八	七、四四八	八、八二八
郡市町村土木補助費	一、五八二	一、二八三	二、九三三	二、一一五	三、一一四
府縣會議諸費	三一一	二八七	三四六	三〇一	三〇二
衛生及病院費	九五五	六三四	九三五	一、〇五七	五二八
同補甲費	四、〇五五	二、七〇五	二、四三二	一、六七二	一、二八九
教育費同補助費	五五	九八	一三七	三三	四三
郡市町村教育補助費	八〇	八〇	八三	三四	四二
郡廳舎建築修繕費	二、一六五	一、八六四	一、七六五	一、六七八	一、六九二
郡吏員給料旅費	〇	〇	一〇〇	六六	七二
及廳中諸費	八五	七七	〇	〇	〇
救育費	〇	〇	〇	〇	〇
難破船費	五五	四六	四八	三七	四五
諸達書及揭示諸費	一、一五六	七九二	七二二	四九八	四三三
勸業費同補助費					

七〇

費目	三十一年度	三十年度	二十九年	二十八年	二十七年
	算	算	算	算	算
府縣稅取扱費	四九七	四二六	四四三	三七七	三六三
府縣廳舎建築修繕費	七〇	二七	四一	二八	九〇
府縣監獄費	四、一〇五	三、六四一	三、三九九	三、三〇四	三、二五〇
府縣監獄建築修繕費	三三二	四〇〇	三五二	三三二	二六七
衆議院議員選舉費	一四	六	四	四	八
財產費	七	五	一	一	一
縣吏員費	二八四	一〇七	二二八	七五	七五
特別費	一六一〇	一、〇四四	七九七	七五七	六五七
豫備費	三九〇	三三一	六	一一	一〇
雜出					
合計	三一、九六九	二五、一六六	三一、六二九	二四、八〇二	二六、〇〇五

軍務

日本帝國固有ノ國家的軍制トシテ 天皇陛下親カラ之ガ元帥タリ中世以降此制自カラ弛ミ兵
 權皇至ウ離レテ武門ニ移リタリシモ明治維新ノ大改革ニ伴ヒテ封建ノ全廢ト爲リ從來ノ封建
 武士ノ常職ナル者ハ漸次ニ之ヲ解キ國民皆兵ノ主義ヲ採リ以テ之ヲ實際ニ活用セリ

〔備考〕明治二十九年十二月二日勅令第三百八十一號及同三十一年三月五日勅令第三十四號管區表ニ據ル

軍人

三十年末日調

〔陸軍省自第七回至第十一回統計年報〕

年	計	現役					豫備		後備		合計
		將官及相當官	上長官	士官	准士官	下士官	卒	合計	合計		
二十九年	計	八三	八二三	四、八〇九	九一七	一一、七二五	一、二四七	八二	二〇	八	一一一
二十八年	計	八三	八二三	四、八〇九	九一七	一一、七二五	一、二四七	八二	二〇	八	一一一
合計	計	一三六、九〇八	一三六、九〇八	一三六、九〇八	一三六、九〇八	一三六、九〇八	一三六、九〇八	一三六、九〇八	一三六、九〇八	一三六、九〇八	一三六、九〇八

諸隊人員

三十年末日調

〔第十六回至第十七回統計年報〕

年	計	現役					豫備		後備		合計
		近衛師團	第一師團	第二師團	第三師團	第四師團	第五師團	第六師團	第七師團	合計	
二十七年	計	三〇	三九	五三	五三	六〇	六〇	六六	一〇	一〇	三〇
二十六年	計	三〇	三九	五三	五三	六〇	六〇	六六	一〇	一〇	三〇
合計	計	一〇〇、五六三	一〇〇、五六三	一〇〇、五六三	一〇〇、五六三	一〇〇、五六三	一〇〇、五六三	一〇〇、五六三	一〇〇、五六三	一〇〇、五六三	一〇〇、五六三

日本

八〇

〔備考〕×ハ豫備後備ニシテ在職中ノ者△ハ豫備後備ニシテ召集中ノ者ナリ

軍馬

三十年末日調

〔陸軍省第十回報〕

總計	二十九年	三〇、九七九	三、三八五	二、二八七	七五〇	一〇、四六七	一〇、四八〇	二、一〇八
	二十八年	二、九七三	四、一	一、一五七	五七九	八、九〇三	八、五三八	六、三三三
二十七年	二、一七〇	二、一七〇	二、一七〇	二、一七〇	二、一七〇	二、一七〇	二、一七〇	二、一七〇
二十六年	二、一七〇	二、一七〇	二、一七〇	二、一七〇	二、一七〇	二、一七〇	二、一七〇	二、一七〇
各師團	二十九年	一〇、九七九	九、七七六	七、二六七	二、四〇三	七、〇五三	七、〇五三	七、〇五三
憲兵	二十九年	六六六	三〇五	二二四	一〇四	一四一	一四一	一四一
陸軍諸官	二十九年	一、三九三	三三三	二〇一	四、〇九三	一、九九	一、九九	一、九九
陸軍諸學	二十九年	二、二二四	一、六三九	九二七	三、二八五	二、四七三	二、四七三	二、四七三
陸軍諸部	二十九年	三、二七四	三、九三七	三、二六四	三、二六四	三、二六四	三、二六四	三、二六四
軍馬補充部	二十九年	一、八四三	一、五九七	一、一七三	三、三〇六	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七
合計	二十九年	一、八四三	一、五九七	一、一七三	三、三〇六	一、〇八七	一、〇八七	一、〇八七

〔備考〕 乘馬飼養條例ニ依リ飼養ニ係ル將校並相當官ノ自馬ヲ合算ス
二十七年ニ於テ馬數多キハ戰役ニ係ル馬疋ヲ含ムニ因ル

徵兵

〔陸軍省第十一回統計年報〕

總計	三十年	四、五七九	四、二八六	二、一六二	二、一四〇	二、一〇六	二、一〇六
	二十九年	九、二一五	一、三〇、四五三	五七、四五四	七九、一一六	九七、六七九	一〇〇、二四九
陸軍現役	三十年	二、四七三	一、二二七	七八〇	九四七	四五九	四五九
陸軍第一及第二補充兵	三十年	一、三三七	一、七三三	七九、一一六	一一九、〇八六	一一〇、四一五	一一〇、四一五
陸軍現計	三十年	三、八一〇	二、九六四	一、七〇八	一、〇九二	一、六一五	一、六一五
海軍補充兵	三十年	三、四六一	四八一	三二二	六六八	四二六	四二六
合計	三十年	一、四一〇	一、七五〇	八〇、二〇八	一一〇、七〇一	一一一、三〇〇	一一一、三〇〇
徵集延期猶豫人員	三十年	七二、二七九	六八、三九二	六二、六二九	五五、二八四	五〇、八五八	五〇、八五八
徵集免除人員	三十年	二一〇、三六〇	二二二、一九七	二六九、一七七	二二七、九一三	二二八、九一六	二二八、九一六
現役補充ノ要員ニ超過スル人員	三十年	一九、二二五	一九、二二五	一九、二二五	一九、二二五	一九、二二五	一九、二二五

日本

兵役免除人員	三二、〇七〇	三一、四七二	三五、九五二	三〇、七〇九	二九、八六四
現役ヲ終ヘ又ハ現役中ノ人員	三、〇四五	二、六一八	一、七一五	一、四五二	一、二二三
重罪處刑人員	一六六	一六九	一五三	一八七	一七九
總計	四七七、五五五	四八九、八九五	四四九、八三四	四三六、二四六	四三二、三四〇

〔備考〕 補充兵ノ稱ハ二十八年以後ニ起リシモノニシテ其以前ニ於テ畧ホ之ニ相當スルモノハ豫備徵員ナリ故ニ今補充兵ノ項ニ於ケル二十七年以前ノ數ハ豫備徵員ノ事實ヲ以テ之ヲ填充セリ

兵員患者及死亡

二十九年 〔第十七統〕

近衛師團	第一師團	第二師團	第三師團	患者		兵員百人ニ付一日患者	死亡	患者百人ニ付死亡
				舊	新			
二四一	二四一	二四一	二四一	二、四一七	二、六五八	三、四四	五五	二、〇七
一三三	一三三	一三三	一三三	二、七三〇	二、八五二	二、四六	四一	一、四四
二	二	二	二	三、七二二	三、七一四	一、九〇	二四	〇、六五
一一八	一一八	一一八	一一八	一、九五〇	二、〇六八	一、三六	三四	一、六四

第四師團	五九	三、六二三	三、六八二	二四九	二七	〇、七三
第五師團	一六七	三、二二九	三、二九六	一九二	五六	一、七〇
第六師團	五三	二、六八一	二、七三四	一九四	四〇	一、四六
第七師團	七六二	二〇、二五〇	二二、〇二二	二一八	二七七	一、三三
諸學校	一一	一、〇八五	一、〇九七	一、五四	五	〇、四六
教導團	一一	六二一	六二二	二一七	六	〇、九六
合計	七八五	二二、九四六	二二、七三二	二一六	二八八	一、二七
二十八年	二七	七、七五九	七、七八六	一、八五	一一一	一、五五
二十七年	七七〇	二二、〇九三	二二、八六三	一九四	一七七	〇、八一
二十六年	八八九	三〇、三九七	三一、二八六	二一四	二三九	〇、七六
二十五年	八二四	三〇、一五四	三〇、九七八	二一九	二六三	〇、八五

〔備考〕 二十九年第二師團ハ五月復員後ノ事實又第七師團ハ五月ノ設置ナリ 二十八年ハ諸學校教導團要塞砲兵第二聯隊及衛戍監獄ヲ除クノ外ハ各師團ト

モ復員當日ヨリノ事實トス但第二師團ハ衛戍監獄ノミニシテ近衛及第四師團ハ十二月其他ノ師團ハ概ネ六月以降ノ事實ナリ
二十七年ノ事實概シテ少ナキハ戰地ノ分ヲ別調トナシ又平時ノ分モ八月以前ノ者ノミノ調ナルニ因ル

日本海軍ハ其陸軍ニ比スレバ十年前ニ在リテハ頗ル後塵ニ落チタル所アリシモ西伯利亞鐵道工事ノ進歩ト共ニ漸ク國民ノ晏眠ヲ驚破シ明治二十四五年ノ際海軍擴張振整ノ舉ハ僅カニ輿論ノ最少數卓見識者ノ贊スル所ト爲レリ幾バクモ無クシテ日清戰爭ノ實驗ニ由リテ茲ニ海軍ノ彌ヨ焦眉緊急タルヲ認メ爾來擴張ノ計畫ハ漸次ニ其緒ニ就クヲ見ル現在海軍區各鎮守府所管表及ヒ其軍艦表水雷船艇表海軍軍人表各艦隊團隊配置人員表等ハ左ノ如シ

海軍區

三十一年調 (計十七艦)

鎮守府	區	畫	軍港	海岸延長里程
橫須賀 第一	陸中國南九戸、北閉伊郡界ヨリ紀伊國南牟婁、東牟婁郡界ニ至ルノ海岸海面及小笠原島ノ海岸海面	相模國三浦郡橫須賀港		一、〇五七

吳 第二	紀伊國南牟婁、東牟婁郡界ヨリ石見、長門國界ニ至リ又筑前、豐前國界ヨリ九州東海岸ニ沿ヒ日向國南那珂、南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及四國ノ海岸海面並ニ内海	安藝國安藝郡吳港		二、〇六七
佐世保 第三	筑前、豐前國界ヨリ九州西海岸ニ沿ヒ日向國南那珂、南諸縣郡界ニ至ルノ海岸海面及壹岐、對馬、沖繩諸島ノ海岸海面	肥前國東彼杵郡佐世保港		一、四九七
舞鶴 未開 第四	石見、長門國界ヨリ羽後、陸奥國界ニ至ルノ海岸海面及隱岐、佐渡ノ海岸海面	丹後國加佐郡舞鶴港		一、〇五五
室蘭 未開 第五	北海道、陸奥及陸中國北九戸、南九戸兩郡ノ海岸海面	膽振國室蘭郡室蘭港		二、二七六

〔備考〕 舞鶴及室蘭鎮守府ヲ設置スルマテノ間第四海軍區中越後以東及第五海軍區ヲ

橫須賀鎮守府ニ於テ第四海軍區中越中以西ヲ吳鎮守府ニ於テ管ス
本表海岸延長里程ノ總計ハ七千九百五十二哩ナリ

軍艦

三十二年三月三十一日 乘組人員八三十一人 (海軍省)

八九

朝敷	日島	島士	島	間	馨	遠	置	敷	島	松	橋	高	吉
鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼
未竣	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
竣	明 治 三 十 年 八 月	同 三 十 二 年 九 月	同 三 十 二 年 三 月	未 竣	未 竣	明 治 三 十 一 年 十 月	同 三 十 二 年 三 月	同 三 十 二 年 九 月	同 三 十 二 年 四 月	同 三 十 二 年 五 月	同 三 十 一 年 五 月	同 三 十 一 年 三 月	同 三 十 一 年 三 月
功	功	功	功	功	功	功	功	功	功	功	功	功	功
一五、四四三	一五、〇八八	一一、六四九	一一、五七一	九、八五五	九、八五五	七、三三五	四、九七八	四、八三六	四、二七八	四、二七八	四、二二七	四、二二五	四、二二五
佛 噸													
一五、二〇七	一四、七〇〇	一三、六八七	一三、六八七	一八、二四八	一八、二四八	六、〇〇〇	一七、二三五	一五、七一四	五、四〇〇	五、四〇〇	一五、九六七	一五、九六七	一五、九六七
馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力
乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員
一	一五	七六二	六七五	二五二	二五三	三九五	二〇四	二〇二	三八六	三三八	三三七	三九三	四八六
英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英
製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所

豐	扶	浪	高	秋	和	明	須	瀆	千	金	比	平	筑	宮	高	八
津	千															
代																
橋	桑	速	穗	洲	泉	石	磨	遠	田	剛	叡	遠	波	古	雄	山
鋼	鐵	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼	鐵	鐵	鐵	木	鋼	鋼	鋼	鋼
未	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
明 治 十 一 年 一 月	同 十 九 年 二 月	同 十 九 年 四 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月	同 十 九 年 三 月
詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳	詳
四、一二〇	三、七七七	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九	三、七〇九
一、八七〇	三、六五〇	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四	七、六〇四
馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力	馬力
乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員	乘組人員
一八一	三三〇	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八	三八八
英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英
製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所	製造場所

日本

八九

〔備考〕 製造場所ハ第十七統計年鑑ニ據ル

二十八年ハ五月十日二十九年ハ三月三十一日三十年ハ三月一日三十二年ハ三月三十一日ノ調ナリ

乗組人員ノ數二十八二十九兩年ハ定員ニシテ其他ハ現員ノ調ナリ

年	三十一	三十	二十九	二十八	合計	鎮鎮鎮鎮	南	北	中	遼
年	年	年	年	年		鋼	鋼	鋼	鋼	鋼
	五〇	四三	四六	四五	五二	同	同	同	同	同
	一三七、二〇九	一〇四、六二八	一〇六、九一九	八二、四一四	一七七、三〇三	四四七	四四七	四四七	四四七	四四七
	二三八、五六四	一五四、九四二	一五四、七六五	一二八、五九〇	二八五、四〇二	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇
	九、八一四	八、〇一六	八、五六一	八、六九一	一〇、五〇五					
										英
										國

天	葛	大	武	筑	海	天	龍	大	慶	愛	島	赤	操	鎮	鎮
龍	城	和	藏	紫	門	城	田	島	耶	容	海	城	江	東	西
木	鐵	木	鋼	木	鋼	鋼	鋼	鋼	鐵	鐵	鋼	鋼	鋼	鋼	鋼
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十八年三月	二十年十一月	二十一年二月	十七年三月	十七年三月	十七年三月	十七年三月	十七年三月	十七年三月	十七年三月	十七年三月	十七年三月	十七年三月	十七年三月	十七年三月	十七年三月
月	月	月	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
一、五四七	一、五〇二	一、五〇二	一、三三七	一、三三七	一、三三七	九二六	八六四	六六七	六四〇	六二二	六二二	六一〇	四四七	四四七	四四七
一、二六七	一、六二二	一、六二二	二、四三三	二、四三三	二、四三三	七二〇	五、〇六九	六五九	一一、二一七	九六三	九六三	六九三	四二〇	四二〇	四二〇
二〇九	二二二	六九	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
野濱	小野	橫須賀	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英	英
濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱	濱
國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國

日本

九三

合計	佐世保鎮守府								吳鎮守府						
	二八	第十九號	第十號	第九號	第八號	第七號	第二十七號	第二十五號	第二十五號	第二十五號	第二十四號	第二十三號	第二十二號	第二十一號	第二十七號
一七七二	五四	五四	五四	五四	五四	五四	七四	八〇	八五	一一五	六六	五四	五四	五四	八〇
一六三四	五二五	五二五	五二五	五二五	五二五	五二五	四四三	一一五〇	九〇	一〇一六	三三八	五二五	五二五	五二五	一一五〇
—	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	一六	二一	二二	二二	二四	二〇	二〇	二〇	二一
六一	二	二	二	二	二	二	三	三	三	四	二	二	二	二	三

水雷船艇

三十年末日調

〔第十七號〕

九二

橫須賀鎮守府											名稱	排水量	馬力	速度	水雷發射管
第二十八號	第二十四號	第三號	第二號	第一號	第二十五號	第二十八號	第二十四號	第十六號	第五號	第二十三號					
一六	四〇	四〇	四〇	四〇	五三	五三	五四	五四	五四	五四	八五	二〇三	一二二七	一九	六
九一	四三〇	四三〇	四三〇	四三〇	六五七	六五七	五二五	五二五	五二五	五二五	九九〇	一二二七	一九	六	六

日本	常備艦隊	3								
	橫須賀鎮守府艦隊		3							
	吳鎮守府艦隊			3						
	佐世保海兵團				3					
	吳海兵團					3				
	橫須賀海兵團						3			
	佐世保海兵團							3		
	橫須賀海兵團								3	
	水雷敷設隊									3
	合計									3

艦團隊配置人員

三十年末日

(第十七年統計)

三	二	二	二
十	十	十	十
七	八	九	十
年	年	年	年
一九六二	一九六二	一九六二	一九六二
一八一七	一八一七	一八一七	一八一七
	一、八二九	一、八二九	一、八二九
二〇〇二	二〇〇二	二〇〇二	二〇〇二
一七、〇九九	一七、〇九九	一七、〇九九	一七、〇九九
一五、二〇八	一五、二〇八	一五、二〇八	一五、二〇八

軍人	將官及相當官	3								
	上長官		3							
	士官			3						
	候補生				3					
	准士官					3				
	下士						3			
	卒							3		
	合計								3	
	現役									
	豫備									
後備										
合計										

三十一年末日海軍省調

總計	吳		佐世保		竹敷		要港部	
	水雷艇隊	水雷敷設隊	水雷艇隊	水雷敷設隊	水雷艇隊	水雷敷設隊	水雷艇隊	水雷敷設隊
二	二	二	二	二	二	二	二	二
十	十	十	十	十	十	十	十	十
六	七	八	九	年	年	年	年	年
年	年	年	年	年	年	年	年	年
三	二	二	二	二	二	二	二	二
一八九	一八	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	〇九
五二一	一八	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	〇九
一三八	一七	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	〇九
三三〇	一七	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	〇九
二二六一	四〇	三五	三一	二七	二二	一七	一三	〇九
一四、一三七	一一九	一一〇	一〇一	九二	八三	七四	六五	五六
一七、五六九	一九六	一五九	一五〇	一四一	一三二	一二三	一一四	一〇五

患者及死亡

三十年 (第十七年統計)

合計	生徒		舊		新		計者		兵員百人ニ付一日患者		死亡		患者百人ニ付死亡	
	人	士	人	士	人	士	人	士	人	士	人	士	人	士
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
九〇	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七	四七
一〇、一七七	一〇、九一九	一〇、九一九	一〇、九一九	一〇、九一九	一〇、九一九	一〇、九一九	一〇、九一九	一〇、九一九	一〇、九一九	一〇、九一九	一〇、九一九	一〇、九一九	一〇、九一九	一〇、九一九
二二八	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九
二二九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九	八九
五、五八	一五、九一	一五、九一	一五、九一	一五、九一	一五、九一	一五、九一	一五、九一	一五、九一	一五、九一	一五、九一	一五、九一	一五、九一	一五、九一	一五、九一
一〇三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
〇、八四	〇、四四	〇、四四	〇、四四	〇、四四	〇、四四	〇、四四	〇、四四	〇、四四	〇、四四	〇、四四	〇、四四	〇、四四	〇、四四	〇、四四

生産及ヒ産業

日本ハ自カラ誇稱シテ農産國ト曰フト雖正是レ昔日鎖國孤立時代ニ於テ觀察タルニ止マリテ而カモ今日ノ日本ニハ適當セス他無シ北海道及ヒ奥羽等ヲ除ク外ハ日本ノ面積既ニ狹隘ニシテ農産物ノ耕作牧畜等ニ適スル地ハ其駁駁日ニ増ス所ノ人口ノ夥多ナル比例ト互ニ相伴

日本農産品米麥其他穀類。茶果。棉。大麻。葉藍。茶種。烟草等ノ作付段別并ニ農産

日本

物收穫量ヲ見ルニ其計數表ハ左ノ如シ

農産物作付反別

作物	廿一年		三十年		廿九年		廿八年		廿七年	
	町	市	町	市	町	市	町	市	町	市
粳	二、四八五、一七九	二、四五七、六八二	二、四六五、九七四	二、四五五、四六三	二、四一六、〇八六	二、四一六、〇八六	二、四一六、〇八六	二、四一六、〇八六	二、四一六、〇八六	二、四一六、〇八六
糯	二、六五、〇三七	二、六七、四七二	二、六四、四八八	二、六九、八五八	二、六五、一七二	二、六五、一七二	二、六五、一七二	二、六五、一七二	二、六五、一七二	二、六五、一七二
陸稻	六七、四〇八	六二、〇二七	五六、五二八	五三、九〇六	四九、七八八	四九、七八八	四九、七八八	四九、七八八	四九、七八八	四九、七八八
合陸	二、八一七、六二四	二、七八七、一八一	二、七八六、九九〇	二、七七九、二二七	二、七三二、〇四六	二、七三二、〇四六	二、七三二、〇四六	二、七三二、〇四六	二、七三二、〇四六	二、七三二、〇四六
大麥	六五七、九六六	六三九、七〇八	六五〇、五〇四	六七一、七〇七	六五三、二〇五	六五三、二〇五	六五三、二〇五	六五三、二〇五	六五三、二〇五	六五三、二〇五
裸麥	六七七、九五七	六五一、四六一	六七二、五〇七	六七二、五〇七	六七二、五〇七	六七二、五〇七	六七二、五〇七	六七二、五〇七	六七二、五〇七	六七二、五〇七
小麥	四六二、七九〇	四五八、二三九	四四一、六八〇	四四一、六八〇	四四一、六八〇	四四一、六八〇	四四一、六八〇	四四一、六八〇	四四一、六八〇	四四一、六八〇
計	一、七九八、七二三	一、七四九、四〇八	一、七六四、六六一	一、七七一、六二四	一、七五一、〇一三	一、七五一、〇一三	一、七五一、〇一三	一、七五一、〇一三	一、七五一、〇一三	一、七五一、〇一三
大豆	一〇九、二八一	四三五、六〇五	一〇三、九五八	四三三、五二四	一〇五、六三一	一〇五、六三一	一〇五、六三一	一〇五、六三一	一〇五、六三一	一〇五、六三一
豆計	二五〇、三八八	二五〇、三八八	二四八、一三二	二四七、九五八	二四七、九五八	二四七、九五八	二四七、九五八	二四七、九五八	二四七、九五八	二四七、九五八

作物	廿一年		三十年		廿九年		廿八年		廿七年	
	町	市	町	市	町	市	町	市	町	市
黍	七四、五六八	七五、一二四	七五、一二四	七五、一二四	七五、一二四	七五、一二四	七五、一二四	七五、一二四	七五、一二四	七五、一二四
蕎麥	二七、六七五	二八、一五七	二八、一五七	二八、一五七	二八、一五七	二八、一五七	二八、一五七	二八、一五七	二八、一五七	二八、一五七
甘藷	一七四、一三八	一七二、二二二	一七二、二二二	一七二、二二二	一七二、二二二	一七二、二二二	一七二、二二二	一七二、二二二	一七二、二二二	一七二、二二二
薯蕷	二五九、一六七	二五五、六五五	二五五、六五五	二五五、六五五	二五五、六五五	二五五、六五五	二五五、六五五	二五五、六五五	二五五、六五五	二五五、六五五
綿	二九、四九六	二五、二七七	二五、二七七	二五、二七七	二五、二七七	二五、二七七	二五、二七七	二五、二七七	二五、二七七	二五、二七七
麻	四四、四四四	五一、〇四三	五一、〇四三	五一、〇四三	五一、〇四三	五一、〇四三	五一、〇四三	五一、〇四三	五一、〇四三	五一、〇四三
藍	二二、三五〇	二二、六二九	二二、六二九	二二、六二九	二二、六二九	二二、六二九	二二、六二九	二二、六二九	二二、六二九	二二、六二九
草	五〇、七一二	四九、一九〇	四九、一九〇	四九、一九〇	四九、一九〇	四九、一九〇	四九、一九〇	四九、一九〇	四九、一九〇	四九、一九〇
烟	三一、四七八	三三、五一九	三三、五一九	三三、五一九	三三、五一九	三三、五一九	三三、五一九	三三、五一九	三三、五一九	三三、五一九
種	一五四、一六七	一五七、七三九	一五七、七三九	一五七、七三九	一五七、七三九	一五七、七三九	一五七、七三九	一五七、七三九	一五七、七三九	一五七、七三九

〔備考〕

三十一年ニ係ル本表ノ米麥及農産物收穫高ノ米、麥、蕎麥、麻、農商務省米作麥作及蕎麥表ニ據ル
三十年ハ第十四次農商務省統計表其他ハ第十七統計年鑑ニ據ル農産物收穫高モ亦同シ

農産物收穫高

晚稻	一、一八、七六一	一、〇、一六三	三、〇七四、七八五	一、〇四、一五七
合計	一八六、八三五	一八、一九三	四、九八九、三〇二	二五三、〇五七

〔備考〕 一甲八九反七畝二十四步ナリ

臺灣農產物收穫高

二十九年

〔臺灣總督府第一統計表〕

麥粟類	八二、一六九	製	茶	二、四一五、六二五	甘藷	一、〇三六、五〇一
落花生	四七二、三三三	葉黃	麻	二、〇〇三、〇二五	甘藷	一、七五一、三四九
豆類	一、九六一、二四九	烟	草	九〇四、八七三	白、青砂糖、糖密	一七、七三九
胡麻	九五、八四六	草	茶	二、二、八四七		三、一六三、〇二一

牛馬

三十年末日

〔三十年八月十四次農商務統計表其他、第十七統計年終〕

牛	七三三、四四四	七三三、四四四	七三三、四四四	七三三、四四四	七三三、四四四	七三三、四四四
馬	四八一、七一五	四八一、七一五	四八一、七一五	四八一、七一五	四八一、七一五	四八一、七一五
合計	一一二四、二一九	一一二四、二一九	一一二四、二一九	一一二四、二一九	一一二四、二一九	一一二四、二一九

廿九年	六九二、三二二	四五七、四四九	一、一四九、七六一	一六、七二七	八五九、五二四	七二八、五九三	一、五七八、一一七
廿八年	六八二、二〇六	四五四、〇七二	一一三六、二七八	一六、二六五	八五二、五六七	六七八、〇三六	一、五三〇、六〇三
廿七年	六四九、九四二	四四一、四二七	一、〇九一、三六九	一三、〇一四	八一六、八三六	六六〇、一八五	一、四七七、〇二一
廿六年	六五七、八四一	四四七、三六〇	一、一〇五、二〇一	一二、〇八〇	八四六、三二六	七二五、〇五七	一、五六一、三七三
廿五年	六四三、二九二	四五二、五〇七	一、〇九四、七九九	一一、三九八	八三七、九八四	七二六、六六八	一、五五四、六五二

〔備考〕 二十七年ノ馬ハ陸軍省用馬ト日清戰役ノ爲メ徵發シタル馬トナリ

牛馬ノ出產、斃死及現存數ニ對スル歩合ハ左ノ如シ

牛	三十九年	三十九年	三十九年	三十九年	三十九年	三十九年	三十九年
馬	廿七年	廿八年	廿九年	廿九年	廿九年	廿九年	廿九年
出產	一一三、七九四	一一三、九二五	一一〇、六五五	一〇五、一六八	九七、二五二	九三、七八七	九〇、五五七
千二付出產	一〇七	一〇八	九七	九六	六一	五九	五九
斃死	一九、二二二	一七、九二七	一七、一五三	一八、一六六	二八、三三一	二五、六一五	二四、四三二
千二付斃死	一六	一六	一五	一七	一八	一六	一六

臺灣牛現存數

水黃	牛		計	
	牝	牡	牝	牡
二四、二九五	三二、六七七	八〇、三四七	一一、〇二四	一九二、八二五
五六、五〇六	三二、六七七	八〇、三四七	一一、〇二四	一九二、八二五
八〇、八〇一	三二、六七七	八〇、三四七	一一、〇二四	一九二、八二五

〔臺灣總督府 第一統計表〕

〔備考〕本表ハ三十年一月又ハ二月ニ於テ調査シタルモノナリ

屠畜

頭數	牛		馬		羊		豚	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
一五、二二七	一四、五〇六	一五、四八二	一四、三八五	一四、四七二	一〇、四七二	一〇、四七二	一〇、四七二	一〇、四七二
七、三三七	六、八九九	五、七七二	五、八二五	五、八二五	三、四九九	三、四九九	三、四九九	三、四九九
四、〇四九	四、四八二	三、六〇六	三、四九九	三、四九九	一、四〇一	一、四〇一	一、四〇一	一、四〇一
六、八〇五	四、〇五八	四、六六四	四、六六四	四、六六四	一、四〇一	一、四〇一	一、四〇一	一、四〇一
一〇、七〇三	三、八三三	四、一四九	四、一四九	四、一四九	三、〇、四〇四	三、〇、四〇四	三、〇、四〇四	三、〇、四〇四

〔三十年ハ第十四次農商務統計表其他ハ第十七次統計表〕

斤數	牛		馬		羊		豚	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
三、八、四四九、六六七	三、六、四二二、〇五三	四、〇、三〇〇、一八七	三、三、五四五、三四四	三、三、五四五、三四四	三、〇、八八九、三〇三	三、〇、八八九、三〇三	三、〇、八八九、三〇三	三、〇、八八九、三〇三
六、三、三三五、四五九	七、〇、四二二、四二二	五、七、六七、一九〇	五、二、〇四、六〇九	五、二、〇四、六〇九	三、〇、八八九、三〇三	三、〇、八八九、三〇三	三、〇、八八九、三〇三	三、〇、八八九、三〇三
八、六、二七、三三三	三、六、二二五、五二〇	二、八、一一、八七二	三、〇、八八九、三〇三	三、〇、八八九、三〇三	三、〇、八八九、三〇三	三、〇、八八九、三〇三	三、〇、八八九、三〇三	三、〇、八八九、三〇三

〔備考〕斤數ハ内臓及毛皮ヲ除キタルモノニシテ一斤ハ百二十匁ナリ

臺灣屠畜

三十年

〔臺灣總督府 第一統計表〕

頭數	牛		馬		羊		豚	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡	牝	牡
一七、三八〇	一七、三八〇	一七、三八〇	一七、三八〇	一七、三八〇	一七、三八〇	一七、三八〇	一七、三八〇	一七、三八〇
三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
一六、九四四	一六、九四四	一六、九四四	一六、九四四	一六、九四四	一六、九四四	一六、九四四	一六、九四四	一六、九四四

又日本鑛産額。石炭消費額。森林原野段別。官林及ヒ官有山野收入。漁獲物及ヒ漁産製造物ノ價額。重要漁獲物ノ價額。重要水産製造物價額。製鹽價額。等ノ近年ニ於ル計數左ノ如シ

鑛物生産高

〔第十四次農 商務統計表〕

原野		森林		合計	鐵道 製鹽 工場 用用
國民 計有	御料 計有	國民 計有	御料 計有		
一、九八四	一、〇七九	一、九八四	一、〇七九	三、〇四五	二五八
一、九八四	一、〇七五	一、九八四	一、〇七五	二、六六八	二二一
一、九五一	一、〇七四	一、九五一	一、〇七四	二、三二二	一六七
一、八三三	一、〇七二	一、八三三	一、〇七二	一、七五六	一三〇
一、八三三	一、〇六九	一、八三三	一、〇六九	一、七二二	一一八

森林原野反別

〔第十四次
商務統計表〕

石炭消費高

(第十七統計年鑑)

船 舶 用	硫石石滿鐵安鉛銅銀金					
	黃油	炭	奄	質 母 尼		
六八七千噸	二〇、八六三	二〇、八六三	五、〇二〇	二九、八〇〇	七、三〇〇	二二、三三八
七四一噸	二五、八八四	二五、八八四	四、七七一	二八、五〇〇	六、八七〇	二二、八〇六
五一九噸	三一、二五七	三一、二五七	四、二二二	二二、二二二	五、一〇〇	二二、六一九
四三八噸	三九、八一四	三九、八一四	三、三二〇	二六、七三三	四、五三三	二二、七四九
四三二噸	三四、一四三	三四、一四三	三、一七三	二四、三〇〇	四、〇〇〇	二二、三〇〇

〔備考〕 御料民有八年末ノ調ナリ
北海道及沖繩ノ國有林野ハ調ヲ欲ク

官林及官有山林原野ノ收入

〔官林ハ第十四次農商務統計表官
有山林原野ハ第十七統計年終〕

官林 官有山林原野	官林		官有山林原野	官有山林原野	
	竹木	竹木		雜産物	地所拂下
官林	竹木	竹木	雜産物	地所拂下	合計
官林	竹木	竹木	雜産物	地所拂下	合計
廿九年度	九三五、二四五	八、六六九	一七、一五五	八三、一一九	一〇七四、九〇六
廿八年度	八五五、三六五	八、八五八	一〇、五〇八	七三、五七六	九七三、五五一
廿七年度	六二二、六〇二	八、八五七	一三、二三四	七六、七七三	七三三、七七六
廿六年度	七七九、九三三	九、〇二六	四七、五八五	一〇五、〇五〇	九六六、一六〇
廿五年度	五五六、二八二	八、〇七三	五八、二四四	一一九、九二二	七六六、一〇四
					二、七二五
					一八、八〇五
					二二、〇四六
					二五、九五九
					一〇、五四三
					一一、九九九
					七二
					四、六七九
					九六六、一六〇
					二四、五六六
					二四、五〇五
					七三三、七七六
					七九、七六九
					九
					二二、二五七
					九、一一八
					一〇、一四〇
					一、六六二
					一七、四八六
					七、二三〇
					五、九三六
					一、一五
					一六六、三四七
					一〇七四、九〇六
					三〇、七一八
					八三、一一九
					一七、一五五
					八、六六九
					九三五、二四五

漁獲物及製造物價額

〔自第十一至第十四
農商務統計表〕

合計	漁獲物		製造物	
	漁獲物	製造物	漁獲物	製造物
合計	漁獲物	製造物	漁獲物	製造物
三十一年	三、三三六	二九、七四〇	一七、〇二二	二七、五五四
二十九年	二、七五四	二四、一五五	一七、〇四九	二二、八八六
二十八年	二、三三三	二〇、五四八	一七、〇五四	一九、九五〇
二十七年	二、〇四六	一八、七〇一	一四、九五九	二〇、二二七
二十六年	一、九四一	一七、九四一	一四、九五九	一九、九五〇
合計	三、三三六	二九、七四〇	一七、〇二二	二七、五五四

〔備考〕 漁獲物ノ内ニハ製造物ヲ包含ス但種類ニ依リ漁獲物ノ調査ヲナサス製造物ノミ
ノ調ナルモノアリ
北海道ニ係ル漁獲物ハ其全躰ノ調ヲ欲キ僅ニ生魚ニテ販賣セシモノ、調アリ本
表ハ生魚ニテ販賣セシモノヲ加算セリ

重要漁獲物價額

〔自第十一至第十
四農商務統計表〕

重要漁獲物價額	三十一年	二十九年	二十八年	二十七年
重要漁獲物價額	四、八八八	四、五九五	四、八四八	三、五〇二

日本	二十九年	二十八年	二十七年		
	產額	六,一七八,〇九四石	五,二三五,〇二四	五,九九五,〇三二	六,三三五,八九一
	價額	一〇,一〇四,七七二	七,六二〇,六一六	三,八六六,六七四	三,四八三,〇七八
	平均一石ノ代價	一.六四	一.四六	〇.六四	〇.五六

製鹽	煮鹽	二,九七六	一,七九六	一,九二一	一,五五三	一,五三七
	干鹽	六八七	九〇〇	六〇六	五八五	七九五
	鹽干	六八七	五三四	四五九	三七七	三一八
	推搯	九六八	五一一	五七九	三四四	八三二
昆布	乾	六二六	六八七	六九三	五〇五	七九五
	節	一,二二二	九〇〇	六〇六	五八五	一,〇二八
	天	二,九七六	一,七九六	一,九二一	一,五五三	一,五三七
	粉(練)	七,七八六	六,七三二	五,五七三	五,八一三	五,七〇七
魚鱈	鱈	七六七	五三〇	三七〇	二二三	一,〇二八
	鱈	九三六	九四八	八三七	五四三	八八四
	鱈	七,七八六	六,七三二	五,五七三	五,八一三	五,七〇七
	鱈	六五九	五八一	八四	三三三	五一一

〔第十四次農商統計表〕

重要水產製造物

重要水產製造物	三十一年	二十九	二十八	二十七	二十六	
	烏鱈	二,七五四	一,七九五	一,六〇六	一,九六六	一,七二〇
	鮪	一,三〇〇	一,四八二	一,〇七〇	一,〇三八	九九五
	鱈	一,一〇〇	一,一〇〇	一,〇四九	九三五	六五三
魚鱈	鱈	二,六〇九	二,九四	九六	一,〇〇六	八三七
	鱈	三六一	三六	二二三	一九七	一五二
	鱈	三六	二九四	九六	一九七	一八六
	鱈	二,六〇九	二,九四	九六	一,〇〇六	八三七
鮪	鮪	三三九	三三七	三二八	三〇〇	二五八
	鮪	三三七	三三七	三二八	三〇〇	二五八
	鮪	三三七	三三七	三二八	三〇〇	二五八
	鮪	三三七	三三七	三二八	三〇〇	二五八
鮑	鮑	八〇七	六四九	六四九	五九七	四九五
	鮑	八〇七	六四九	六四九	五九七	四九五
	鮑	八〇七	六四九	六四九	五九七	四九五
	鮑	八〇七	六四九	六四九	五九七	四九五
石花菜	石花菜	一八〇	二一六	二一六	一八三	一七七
	石花菜	一八〇	二一六	二一六	一八三	一七七
	石花菜	一八〇	二一六	二一六	一八三	一七七
	石花菜	一八〇	二一六	二一六	一八三	一七七

〔自第十至第十四農商統計表〕

二十六年

六、六五五、七四五

三、六六六、三四九

一一二

〇、五五

次ニ工業ニ關スル近況ヲ見ルニ其織物類及ヒ蠶糸并ニ紡績棉糸等ニ於テハ頗ル増進ノ著シキモノアリ其計數左ノ如シ

工場及職工

〔第十四次農商務統計表〕
〔第十七統計年鑑〕

年	工場數		職工		計
	男	女	男	女	
三十一年	七、三二七	一八四、二四四	二五五、三〇五	四三九、五四九	三
三十年	七、六七二	一七四、六五六	二六一、九六〇	四三六、六一六	二
二十九年	七、一五四	一六九、五一五	二四八、六二五	四一八、一四〇	二
二十八年	五、九八二	一四一、九一四	二三九、四七六	三八一、三九〇	二

〔備考〕 本表ハ職工十人以上ヲ有スル工場ニ係ル事實ニシテ工場ハ年末ノ現在職工ハ平素使用スル一日ノ現員ナリ

棉絲產額

〔第十七統計年鑑〕

年	紡績所		鍾數		原動力		綿絲產額	落綿	屑綿	線綿需用高
	所	數	馬力	蒸氣	水	水				
三十一年	七四	九七〇、五六七	六三	二六、三〇一	一、一三五二	二六、五五五、四九五	三、七〇六、五二〇	一、一七七、〇九九	三二、〇六八、二四三	
廿九年	六三	七五七、一九六	四七	一九、二四四	六六〇	二〇、九四三、三三六	二、九三三、七二九	二五二、六六六	二四、八七五、〇八七	
廿八年	四七	五八〇、九四五	四七	一七七、三七五	二、二四九	一八、四一一、〇九四	二、四三三、三六一	二五一、八七九	二二、七七二、三四六	
廿七年	四五	五三〇、〇七四	四五	二二、四三九	三二七	一四、六二〇、〇〇八	一、八一六、三三三	一九二、〇一七	一七、一七九、二七四	
廿六年	四〇	三八一、七八一	四〇	八、一一〇	四七〇	一〇、六六六、七四四	一、一七八、〇五九	二九八、四六六	一一、五三二、三〇七	

〔備考〕 表中紡績所及鍾數ハ年末現在原動力ハ一ヶ年平均實用馬力但分工場ハ總テ本場ニ算入ス

蠶絲產額

〔第十七統計年鑑〕

年	工場	自宅
三十一年	四、一四一	四、一七三
廿九年	五、一〇八	四、〇四九
廿八年	四、二七五	三、八三七
廿七年	四、三六四	三、三二八
廿六年		

日本

一一三

類別	三十一年度		廿九年度		廿八年度		廿七年度		廿六年度	
	實	價	實	價	實	價	實	價	實	價
生絲計	八三五,二一〇	八二二,〇九五	九〇三,六八二	七三四,三六八	一,二三三,五五四	一,二三三,五五四	一,二三三,五五四	一,二三三,五五四	一,二三三,五五四	一,二三三,五五四
其他	七〇二,四四二	六三〇,六二五	六九九,六二九	五六二,四一五	一,二九六,七八三	一,二九六,七八三	一,二九六,七八三	一,二九六,七八三	一,二九六,七八三	一,二九六,七八三
真絲計	一,五三七,五六一	一,四四二,七二〇	一,六〇三,三一一	一,二九六,七八三	一,二九六,七八三	一,二九六,七八三	一,二九六,七八三	一,二九六,七八三	一,二九六,七八三	一,二九六,七八三
玉斗糸	二六九,二八六	二五四,四八二	三〇三,五六八	一〇五,九二九	二五九,三二四	二五九,三二四	二五九,三二四	二五九,三二四	二五九,三二四	二五九,三二四
其他	一〇三,八七二	一〇四,三三七	一〇五,九二九	九四,五七三	九四,五七三	九四,五七三	九四,五七三	九四,五七三	九四,五七三	九四,五七三
合計	二,一六六,九三六	二,〇五二,八〇三	二,二九九,六八八	一,八八七,五八四	一,七七四,八二一	一,七七四,八二一	一,七七四,八二一	一,七七四,八二一	一,七七四,八二一	一,七七四,八二一
真綿	六八,四五二	五八,一六三	六一,七七二	五四,二五七	五四,二五七	五四,二五七	五四,二五七	五四,二五七	五四,二五七	五四,二五七
絹織	六三六,七八七	五四〇,九五九	四六,四七一	四六,四七一	四六,四七一	四六,四七一	四六,四七一	四六,四七一	四六,四七一	四六,四七一
絹交織	一一,七二五,〇三〇	九,一三三,五六八	一〇,二八一,二七二	八,二四七,一一六	八,二四七,一一六	八,二四七,一一六	八,二四七,一一六	八,二四七,一一六	八,二四七,一一六	八,二四七,一一六
木綿織	四二,二五三,三四七	三九,〇八〇,一〇一	三七,〇八三,七五七	二七,一六七,五六八	二七,一六七,五六八	二七,一六七,五六八	二七,一六七,五六八	二七,一六七,五六八	二七,一六七,五六八	二七,一六七,五六八
其他	三三六,八二四	三三一,九四一	三二九,三三八	三〇四,四二七	三〇四,四二七	三〇四,四二七	三〇四,四二七	三〇四,四二七	三〇四,四二七	三〇四,四二七
合計	一,三三二,四八一	一,〇四九,九七七	九六,一八七,三三五	七二,三五〇,七四七	六七,七七〇,三九六	六七,七七〇,三九六	六七,七七〇,三九六	六七,七七〇,三九六	六七,七七〇,三九六	六七,七七〇,三九六

織物類產出價額

〔自第十一至第十四農商務統計表二十六年、第十四統計年誌〕

酒造場	三十一年度		廿九年度		廿八年度		廿七年度		廿六年度	
	實	價	實	價	實	價	實	價	實	價
清酒	一七,一五八	一四,二五四	一四,五二三	一四,四四五	一四,五二三	一四,四四五	一四,五二三	一四,四四五	一四,五二三	一四,四四五
濁酒	四,一三八,三六五	四,六三六,一一四	三,九七〇,二八九	三,五九九,五四七	三,九七〇,二八九	三,五九九,五四七	三,九七〇,二八九	三,五九九,五四七	三,九七〇,二八九	三,五九九,五四七
燒酎	八五,三三七	二七,二一九	二七,二四三	二八,〇八四	二七,二四三	二八,〇八四	二七,二四三	二八,〇八四	二七,二四三	二八,〇八四
酒精	六八,〇四七	六四,一一五	五九,七〇五	五二,〇六〇	五九,七〇五	五二,〇六〇	五九,七〇五	五二,〇六〇	五九,七〇五	五二,〇六〇
白酒	二,七四一	二,五七七	二,一七一	二,一八〇	二,一七一	二,一八〇	二,一七一	二,一八〇	二,一七一	二,一八〇
味淋	四二,一三六	三九,三〇四	三三,〇二九	三一,四四〇	三三,〇二九	三一,四四〇	三三,〇二九	三一,四四〇	三三,〇二九	三一,四四〇
酪酒	* 一二,三五四	* 八,七一九	六,八六二	五,五八七	六,八六二	五,五八七	六,八六二	五,五八七	六,八六二	五,五八七
合計	四,三四八,九八四	四,七七八,〇五三	四,〇九九,三〇九	三,七二八,九三四	四,〇九九,三〇九	三,七二八,九三四	四,〇九九,三〇九	三,七二八,九三四	四,〇九九,三〇九	三,七二八,九三四
自家用料酒製造人	三六二,八〇七	二八六,二〇六	一,〇八九,〇二九	一,〇〇四,一〇九	一,〇八九,〇二九	一,〇〇四,一〇九	一,〇八九,〇二九	一,〇〇四,一〇九	一,〇八九,〇二九	一,〇〇四,一〇九
油造石	一,五三〇,六八九	一,五〇五,五五二	一,四〇九,五九六	一,三二九,一三八	一,四〇九,五九六	一,三二九,一三八	一,四〇九,五九六	一,三二九,一三八	一,四〇九,五九六	一,三二九,一三八

酒類及醬油製造

〔二十九、三十年止、大藏省、其他、第十七統計年誌〕

〔備考〕 *ハ混成酒ナリ

酒類ハ其年十月ヨリ翌年九月ニ至ル一期間ノ數、酒造場及自家用料酒製造人員

其期內免許ノ數但二十九年度ノ酒造場ハ二十九年度九月末日二十年度ハ三十年十月九日ノ調三十年度ノ家用料酒製造人員ハ三十一年三月末日現在ナリ二十九年度ノ同人員ハ三十年四月ヨリ九月ニ至ル調ヲ欠ク

製造品價額

〔第十四次農商務統計表〕

製造品名	三十一年		廿九年		廿八年		廿七年		廿六年	
	額	平均	額	平均	額	平均	額	平均	額	平均
茶	六,九一九,六〇三	四	五,八五七,三六二	四	五,四四八,六二三	四	四,七〇三,六四六	四	四,〇六八,三二二	四
生油	二,六〇四,二九九	四	二,六三三,三〇九	四	三,〇〇九,〇四八	四	一,九三六,四六五	四	三,九三一,三八四	四
磁器	五,一六三,〇七〇	四	五,二〇五,一八五	四	四,八一六,三二一	四	三,二〇三,八二二	四	三,九三一,三八四	四
漆器	四,一六六,〇七七	四	三,二九五,九四七	四	三,一一九,二六八	四	二,五九五,〇四九	四	三,九三一,三八四	四
陶器	一,一三〇,六四二	四	九二四,四八六	四	七三三,五九六	四	七一四,四一一	四	二,〇三八,二八八	四
青銅	一,二五八,〇一八	四	一〇,三二六,九二〇	四	九,一二六,七四五	四	八,〇六一,一一七	四	二,〇三八,二八八	四
和紙	二,七三〇,五七五	四	二,五〇七,三六四	四	二,四一七,八四三	四	二,一一三,二二九	四	二,〇三八,二八八	四
洋紙	一,九四一,三〇〇	四	二,一六〇,六六七	四	一,五〇六,五一八	四	一,一五七,六九八	四	二,〇三八,二八八	四
銅	四九一,四八九	四	四八八,三三三	四	四三三,六八六	四	四三一,三三六	四	二,〇三八,二八八	四
其他	三,二一七,四八二	四	二,一八三,七二一	四	三,七九〇,二八六	四	二,〇三八,〇四八	四	二,〇三八,二八八	四
附屬	六,五四八,四九二	四	五,四六四,七三八	四	五,五〇二,一三〇	四	四,四八〇,七三九	四	四,〇六八,三二二	四

職工ノ賃錢

〔自第十二至第十
四農商務統計表〕

職工種類	三十一年		廿九年		廿八年		三十一年		廿九年		廿八年		三十一年		廿九年		廿八年	
	額	平均	額	平均	額	平均	額	平均	額	平均	額	平均	額	平均	額	平均	額	平均
大工	五七五	五七五	六二五	六二五	五七五	五七五	六二五	六二五	六二五	六二五	七五〇	七五〇	四九三	四三二	四三二	四三二	三五四	三五四
石工	六〇〇	六〇〇	六二五	六二五	六五〇	六五〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	五〇〇	五〇〇	四三三	四三三	四三三	四三三	三五六	三五六
木匠	五五〇	五五〇	六〇〇	六〇〇	五〇〇	五〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	五〇〇	五〇〇	四六六	四二二	四二二	四二二	四二四	四二四
瓦工	五七五	五七五	六五〇	六五〇	五〇〇	五〇〇	五七五	五七五	五七五	五七五	五〇〇	五〇〇	四〇八	四〇八	四〇八	四〇八	三六四	三六四
煉瓦	七〇〇	七〇〇	六五〇	六五〇	七五〇	七五〇	八五〇	八五〇	八五〇	八五〇	五七五	五七五	四七一	四七一	四七一	四七一	三三〇	三三〇
疊建	五二五	五二五	六五〇	六五〇	五七五	五七五	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	五七五	五七五	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	三三二	三三二
建築	六二五	六二五	六五〇	六五〇	七五〇	七五〇	八五〇	八五〇	八五〇	八五〇	五七五	五七五	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	三三二	三三二
經銷	六二五	六二五	六五〇	六五〇	七五〇	七五〇	八五〇	八五〇	八五〇	八五〇	五七五	五七五	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	三三二	三三二
指物	四五〇	四五〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	四四〇	四四〇	四四〇	四四〇	三三二	三三二
和服	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	四四〇	四四〇	四四〇	四四〇	三三二	三三二

洋服仕立職	七〇〇	六二五	七六〇	七〇〇	九〇〇	九五〇	五七八	五七〇	五〇九
染物職	三二〇	四六〇	四〇〇	三〇〇	三三五	三五〇	三四七	三一一	二九五
鍛冶職	五〇〇	五〇〇	五〇〇	七五〇	一、三五〇	七二五	四七八	四二三	三四九
活版植字職	四二五	五〇〇	五〇〇	四七五	四〇〇	六五〇	三五六	三四二	三三三

〔備考〕 本表ハ東京大阪及各府縣便宜ノ地ニ就キ、毎年三月九月兩度ニ調ヘタルモノ、内
 其上等ノ貨錢ヲ平均セシモノナリ

貿易

日本ノ外國貿易ハ其外國條約ニ於ル開港場五ヶ處ノ外ニ於テ近年又益々開國通商擴張ノ政
 策ヲ執リ地方主要物産ノ輸出入ノ爲メニ特別開港場ナル者ヲ設ルコト二十餘ヶ處ニ達セ
 リ即チ左ノ如シ

- 駿河清水 ○尾張武豐 ○伊勢四日市 ○長門下ノ關
- 豐前門司 ○筑前博多 ○肥前唐津 ○肥前口ノ津
- 肥後三角 ○對馬嚴原 ○對馬佐須奈 ○對馬鹿見

- 琉球那覇 ○石見濱田 ○伯耆境 ○丹後宮津
 - 越前敦賀 ○能登七尾 ○越中伏木 ○後志小樽
 - 釧路釧路 ○膽振室蘭
- 各港輸出入貿易ノ計表ハ左ノ如シ

外國貿易之部

〔大藏省外國貿易年表〕

輸出入物品價額

州	年	輸 出	輸 入	合 計	輸 出 又 ハ 輸 入 超 過	人 口	輸 入	輸 出
卅一	年	一六五、七五三、七五三	二七五、五〇二、一五七	四四一、二五五、九一〇	一、一、七四八、四〇四	三、八三	三、八三	六、四二
卅	年	一六三、一三五、〇七七	二九三、三〇〇、七七二	四五六、四三三、八四九	五、六、一六五、六九五	三、八二	三、八二	五、一三
廿九	年	一七、八四二、七六一	一七一、六七四、四七四	二八九、五二七、二三五	五、三、八三二、七二三	二、七九	二、七九	四、〇六
廿八	年	一三六、一一二、一五九	二二九、二六〇、五七八	三六五、三七二、七五六	六、八五一、六〇〇	三、二六	三、二六	三、〇九
廿七	年	一三三、二四六、〇八六	二二七、四八一、九五五	三三〇、七二八、〇四一	四、二三五、八六九	二、七四	二、七四	二、八四

〔備考〕 * ハ輸入超過ナリ

輸出入物品價額有無稅品別

年	輸 入		輸 出	
	有稅品	無稅品	有稅品	無稅品
三十一年	六八,〇六七,〇三六	九七,六八六,七二七	四一,〇六	五八,九四
三十年	八〇,七三八,四七二	八二,三九六,六〇六	四九,四九	五〇,五二
二十九年	五〇,五九五,三七五	六七,二四七,三八五	四二,九三	五七,〇七
二十八年	七二,〇〇三,八三六	六四,一〇八,三四二	五二,九〇	四七,一〇
二十七年	六二,八六〇,〇四一	五〇,三八六,〇四五	五五,五一	四四,五九
三十一年	一六五,五二二,四三六	一一,九七九,七二〇	五九,六五	四〇,三五
三十年	一三九,九七五,二四六	七九,三二五,五二五	六三,八三	三六,一七
二十九年	一三〇,四三一,〇九四	四一,三四三,三三〇	七五,九八	二四,〇二
二十八年	一一八,六八〇,一二五	一〇,五八〇,四五四	八一,八一	八,一九
二十七年	一〇三,一九五,八二〇	一四,二八六,一三六	八七,八四	一一,二六

輸出入物品價額國產別

年	輸 入		輸 出	
	內國產	外國產	內國產	外國產
三十一年	一六二,九〇三,二二二	二,八五〇,五四一	九八,二八	一七,二
三十年	一六一,四五九,三二二	一,六七五,七六六	九八,九七	一〇,三
二十九年	一一六,五七五,五七九	一,二六七,二八二	九八,九二	一〇,八
二十八年	一三四,九九一,〇三〇	一,一二一,一四八	九九,一八	〇,八二
二十七年	一一二,一七一,一七五	一〇,七四,九一一	九九,〇五	〇,九五
三十一年	二二二,四二八	二七七,二七〇,七二九	〇〇,八	九九,九二
三十年	一四五,四一六	二一九,一五五,三五六	〇〇,七	九九,九三
二十九年	二二四,九一八	一七一,四五九,五五六	〇,一三	九九,八七
二十八年	一七七,二八一	二二九,〇八三,二九七	〇,一四	九九,八六
二十七年	一一〇,五九四	一一七,三七一,三六一	〇,〇九	九九,九一

輸出入登載貨物價額內外國船別

年	輸 入		輸 出	
	內國船	外國船	內國船	外國船
三十一年	四〇,三三三,二八五	一三二,三七八,六七一	二四,八〇	七五,三〇

日本

一二二

輸 入		輸 出	
三十一年	三十四,〇六三,三五〇	三十一年	一三五,三二〇,〇七五
三十年	一三,〇八〇,一六二	三十年	一〇一,五二七,九七二
二十九年	三,九三〇,四二〇	二十九年	一二九,五八二,六一六
二十八年	六,〇五四,七三〇	二十八年	一〇五,二二〇,二四七
二十七年	六六,二六八,七三九	二十七年	二〇三,七一六,五四五
二十六年	四四,七三七,一九八	二十六年	一六六,三〇九,七三六
二十五年	二〇,六四一,五六七	二十五年	一四九,二七二,八一
二十四年	三,八五五,八九〇	二十四年	一二〇,六六一,六八三
二十三年	一〇,七七五,七五八	二十三年	九八,五〇三,二二八
二十二年		二十二年	
二十一年		二十一年	
二十年		二十年	
十九年		十九年	
十八年		十八年	
十七年		十七年	

〔備考〕 本表輸出ノ欄船用品價額、賣却船代價、輸入ノ欄買入船代價ヲ扣除セリ

輸出入物品價額品類別

輸 入	輸 出
三十一年	三十一一年
三十年	三十年
二十九年	二十九年
二十八年	二十八年
二十七年	二十七年
二十六年	二十六年
二十五年	二十五年
二十四年	二十四年
二十三年	二十三年
二十二年	二十二年
二十一年	二十一年
二十年	二十年
十九年	十九年
十八年	十八年
十七年	十七年

輸 入	輸 入 計	
	輸 入	輸 出
茶 穀 物	八,二一五,六六五	七,八六〇,四六〇
飲 水 產 物	六,〇三九,二二九	六,二九〇,九八四
食 物 他	四,二八〇,一一一	四,九四五,八〇四
其 他	二,二三四,九六三	二,〇二六,六三三
金 屬 及 金 屬 製 品	八,八四五,〇八七	七,三二一,八一〇
油 及 蠟	一,〇九〇,四六一	一,四三七,六一四
皮 毛 甲 角 類	七九九,三一九	九七二,五三五
衣 服 及 附 屬 品	一,一六二,六九七	九四九,〇一一
布 帛 絲 纒 及 同 材 料	八六,一六四,七四〇	九〇,〇〇六,九二五
煙 草	一八四,七二五	三五一,七四〇
雜 品	三九,六四九,八〇九	三五,八三九,四二〇
合 計	一六二,九〇九,二二二	一六二,四九九,三二二
飲 茶 穀 物	八,二一五,六六五	七,八六〇,四六〇
飲 水 產 物	六,〇三九,二二九	六,二九〇,九八四
食 物 他	四,二八〇,一一一	四,九四五,八〇四
其 他	二,二三四,九六三	二,〇二六,六三三
金 屬 及 金 屬 製 品	八,八四五,〇八七	七,三二一,八一〇
油 及 蠟	一,〇九〇,四六一	一,四三七,六一四
皮 毛 甲 角 類	七九九,三一九	九七二,五三五
衣 服 及 附 屬 品	一,一六二,六九七	九四九,〇一一
布 帛 絲 纒 及 同 材 料	八六,一六四,七四〇	九〇,〇〇六,九二五
煙 草	一八四,七二五	三五一,七四〇
雜 品	三九,六四九,八〇九	三五,八三九,四二〇
合 計	一六二,九〇九,二二二	一六二,四九九,三二二
兵 器 時 計 學 術 器 具 及 機 械 類	二一〇,五二六,九七三	二二,八九七,九七一
飲 食 物	四,八二〇,三三九	三,一五二,一六七
紙 及 文 具	四,〇〇九,四七七	二,〇九六,五四九
衣 服 及 附 屬 品	一,〇五四,一七七	八六六,九六〇

日 本

一三三

藥材化學藥及製藥	七,九一九,三七三	四,六三四,八一六	四,二七三,一四五
染料彩料及塗料	五,一六〇,五九四	四,〇三三,四一六	三,七二〇,七九三
玻璃及玻璃製品	九一七,二三七	六九八,二四五	七七四,七一
穀物及種子	五六,二〇五,四九二	二八,四八二,九三三	九,六六九,四三七
角牙皮毛介甲類	三,〇七七,五〇九	二,三三五,九八一	二,九〇二,八五四
金屬及金屬製品	二,三六四,一五九	二,〇三〇,六八四	一七,五五三,五四三
油及蠟	八,五五三,五七〇	八,六〇六,九九二	七,一〇五,六九五
砂	二八,六一九,五六三	二〇,〇〇三,一〇一	一三,八五三,八四四
布帛絲縷及同材料	八三,五〇五,四四〇	七九,三七四,六三七	八〇,二六四,四四三
煙草	六,六二八,二一一	一,五七九,七九七	八四三,三四〇
酒類	一,三九八,三三八	八四三,九六七	七九〇,一一二
雜品	二二,二二八,二七八	二〇,二六〇,九八一	一一,六八四,九三二
合計	二七,七二七,〇七三〇	二二,九一五,三五四	一七,一四五,五五五

〔備考〕本表二、八再輸出入品價額ヲ算入セス

輸出入金銀價額

入 輸	出 輸	金貨及金地金	銀貨及銀地金	合 計	輸出入比較超過
三十一年	三十一年	四六,二八一,三四三	四〇,七〇六,一三八	八六,九八七,四八一	四四,四三三,七〇〇
二十九年	二十九年	八,八六三,七九八	一〇,三五五,三六六	一九,二一九,一六四	
二十八年	二十八年	一,九九六,五七六	九,六〇二,三〇八	一一,五九八,八八四	二一,四二七,五三五
二十七年	二十七年	二,七九一,九五二	二四,五〇九,七四七	二七,三〇一,六九九	七,五九五,四五八
三十一年	三十一年	三七,〇二七,七五三	三〇,八三一,九七三	三九,三七九,一一一	
二十九年	二十九年	六四,三三三,四九三	五,五三六,〇二八	四二,五六三,七八一	六二,二四七,五四九
二十八年	二十八年	一〇,二二七,四五八	一七,一五三,二二〇	八一,四六六,七二三	二七,五四三,三二四
二十七年	二十七年	一,〇二九,九一二	二八,九二四,七五〇	三九,一四二,二〇八	
		五五五,九六六	四,八四四,二五二	五,八七四,一六四	
			二六,二二七,六八七	二六,七八三,六五三	

開港場 附 錄

武藏國 橫濱 攝津國 神戶 肥前國 長崎
日本 一二五

越後國	新	新潟	函館	駿河國	清水
尾張國	武	豐	四日市	長門國	下關
豐前國	門	司	博多	肥前國	唐津
肥前國	口	津	三角	對馬國	嚴原
對馬國	佐	須	鹿見	琉球國	那霸
石見國	濱	田	境	丹後國	宮津
越前國	敦	賀	七尾南灣	越中國	伏木
後志國	小	樽	釧路	膽振國	室蘭

〔備考〕 室蘭港ニ於テハ麥、石炭、硫黃、麥粉、木炭、「セメント」硫酸、滿俺礦、晒粉、木材及板、竹材ノ輸出ニ限ル

臺灣外國貿易ノ部

〔大藏省臺灣外國貿易年表〕

輸出入物品價額 *ハ輸入超過

年	輸	輸	合	輸
三十一年	一二、八二七、一九〇	一六、八七九、一九〇	二九、七〇六、三八〇	* 四、〇五二、〇〇〇
三十一年	一二、七五九、二九四	一二、六五九、二九八	二五、四一八、五九二	九九、九九六
二十九年	一一、四〇一、二二六	八、六三一、〇〇一	二〇、〇三三、二二七	二、七七二、二二五

輸出入物品價額有無稅品別

年	輸		輸		有稅品	無稅品
	有稅品	無稅品	有稅品	無稅品		
三十一年	九、二四八、八八七	三、五七八、三〇三	七二、一〇	二七、九〇		
三十一年	九、八〇〇、〇〇五	二、九五九、二八九	七六、八一	二二、一〇		
三十一年	九、七三四、二九〇	一、六六七、九三六	八五、三七	一四、六三		
三十一年	一二、〇七七、四四八	四、八一、七四二	七一、五五	二八、四五		
三十一年	九、五〇四、八九二	三、一五四、四〇六	七五、〇八	二四、九二		
三十一年	七、一九五、六九四	一、四三五、三〇七	八三、三七	一六、六三		

輸出入物品價額國產別

日本

輸出入	輸 出		輸 入	
	三十一年	三十一年	三十一年	三十一年
內國產	一二七三三,四五〇	一二六六五,四三二	一二,三〇四,〇〇六	四二八,〇三九
	九三,七三九	九三,八七二	一六,四五二,一五一	三八,九三五
外國產	九三,七三九	九三,八七二	一二,六二〇,三六三	一〇,九四八
	九三,七三九	九三,八七二	八,六二〇,〇五三	
輸出入物品價額百圓二付	九九,二六六	九九,二六六	〇,三三一	
	〇,七三三	〇,七三三	〇,一三三	
內國產	九九,二六六	九九,二六六	〇,三三一	
	九九,二六六	九九,二六六	〇,一三三	
外國產	〇,七三三	〇,七三三	〇,一三三	
	〇,七三三	〇,七三三	〇,一三三	

輸出入物品價額品類別

輸 出	三十一年		
	三十一年	三十一年	三十一年
藥材及染料	一,一〇三,八二二	一,三九九,六二二	二,二八七,九一五
	四,六四二,〇五五	三,七五一,五三七	二,八〇二,八四七
穀物及飲食物類	一,三三三	一,七二八	一,八九六
	一〇,五三一	一三,〇一四	一三,七二六
金屬及金屬製品			
皮毛甲角類			

輸 入	三十一年		
	三十一年	三十一年	三十一年
雜品	六,二四六,〇九九	六,九二〇,六三〇	五,八六〇,六三七
	三,八八,七〇六	三,七二,七七三	三,三三,一四一
製布帛絲縷及其材料	三,四〇,九二七	二〇六,一二九	一,一三,八四三
合計	一二,七三三,四五二	一二,六六五,四二三	一一,三〇四,〇〇五
飲食物	一,五九一,一八三	四〇五,七四九	九九二,三三二
	一四,七二七	一一,八〇六	一一,五三八
角牙皮毛介甲類	五八,九〇九	一三五,八一九	七二,五五六
	一七九,八九七	一五五,五一四	九九,八七七
兵器時計器具機械類	二,五〇〇,二〇〇	二,〇五〇,二七六	一,五八五,七九九
	七二,五〇四	五四,四〇四	四七,七六四
藥材化學藥及製藥	三〇,九八四	二五,八四七	二六,五一七
	一,〇四二,七〇二	三三六,一四一	八八一,二八九
染料彩料及塗料	四六〇,九〇五	三三三,三一九	二四〇,二九七
	九一八,四八七	九〇九,一五九	四七八,五四二
玻璃及玻璃製品	五二〇,七二九	四〇一,八五一	二〇二,四七九
穀物及種子			
金屬及金屬製品			
油及蠟			
紙及文具			

日本

品類	輸出入金銀價額	
	輸入	輸出
砂糖	四八三、五四四	三三〇、八〇八
布帛絲縷及其材料	三、四六六、五九三	三、〇二五、七二八
煙草	一、三九九、九一〇	八二九、八四四
酒類	四〇八、五二一	三、四二二、五三二
雜品	三、三一一、三五五	二、三〇二、五六六
合計	一六、四五一、一五〇	二二、六二〇、三六三
〔備考〕本表ニハ再輸出入品價額ヲ算入セス		
金貨及金地金	二、一〇九、八二六	二、一〇九、八二六
銀貨及銀地金	六三一、八五三	六三一、八五三
合計	二、一〇九、八二六	二、一〇九、八二六
輸入超過	五、三九三、九〇〇	五、四〇一、四〇七
輸出超過	五、七八一、三三七	五、九三三、〇七九
合計	五、七八一、三三七	五、九三三、〇七九

船舶及通航

日本ノ外國貿易ニ於ル各開港場出入船舶ノ統計(明治三十一年)ヲ見ルニ左ノ如シ

船舶種類	入		出	
	隻數	噸	隻數	噸
日本汽船	五二九	六五〇、八三九	五一三	五八三、九八六
日本帆船及古式日本船	一、一四五	三三、〇六六	一、二一八	三四、六六九
外國汽船	一、七〇八	二、九一九、〇三八	一、三八四	二、三六五、六五一
外國帆船	一四二	一六八、九四六	一四二	一六二、二五一
合計	三、五二四	三、七七〇、八八九	三、二五七	三、一四六、五五七

右表中外國船ノ日本ニ入港セル者ニ就キテ其國旗ヲ區別スレハ英國船ハ千廿隻ニシテ百〇二萬廿噸ニ居リ獨逸船ハ三百六十一隻四十七萬千八百五十五噸ヲ占メ米國船ハ七十六隻十二萬六千八百廿四噸ニ過ギズ佛國船ハ廿六隻五萬六千百十九噸ニ過ギズ日本汽船隻數噸數及ヒ西洋形帆船ノ數及ヒ舊式日本形船舶數并石數私立西洋形船造船場及ヒ其製造船舶數并ニ海員ノ數及ヒ主要ナル水陸運輸會社ノ營業要計ハ左ノ如シ

日本

西洋形商船

三十年末日(第十七統計年鑑)

計	風帆		蒸氣		計	風帆		蒸氣	
	百噸以上	百噸未滿	百噸以上	百噸未滿		百噸以上	百噸未滿	百噸以上	百噸未滿
噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數
四四、九六七	七四九	二〇、三一八	七三	二四、六四九	六七六	一一〇、二〇五	六八〇	九三、八四三	四八九
四三、五一一	七三二	二〇、四〇二	七五	二二、三〇九	六四七	一六九、四一四	七四五	一五二、二八八	一七、二二六
四一、四七一	七二二	一九、〇九五	七一	二二、三七六	六三一	一九四、二三四	八二七	一八、九八七	二七四
四一、四二七	六四三	一七、二四二	六五	二二、三三二	六三一	二二、三三二	八二七	二七、九八七	二七四
四一、四二七	六四三	一七、二四二	六五	二二、三三二	六三一	二二、三三二	八二七	二七、九八七	二七四
四一、四二七	六四三	一七、二四二	六五	二二、三三二	六三一	二二、三三二	八二七	二七、九八七	二七四
四一、四二七	六四三	一七、二四二	六五	二二、三三二	六三一	二二、三三二	八二七	二七、九八七	二七四
四一、四二七	六四三	一七、二四二	六五	二二、三三二	六三一	二二、三三二	八二七	二七、九八七	二七四
四一、四二七	六四三	一七、二四二	六五	二二、三三二	六三一	二二、三三二	八二七	二七、九八七	二七四

日本形船

三十年末日(第十七統計年鑑)

計	風帆		蒸氣		計	風帆		蒸氣	
	百噸以上	百噸未滿	百噸以上	百噸未滿		百噸以上	百噸未滿	百噸以上	百噸未滿
噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數
三、〇六五、六〇七	一七、六一〇	二、九六〇、八八七	一七、三六〇	二、八七六、二三一	一七、三〇〇	二、八七六、二三一	一七、三〇〇	二、八七六、二三一	一七、三〇〇
二、〇三七、九七八	五二六	一、八六七、二七八	五八二、〇九二	八、七二二	一、七五二、二四二	五八〇	一、七五二、二四二	五八〇	一、七五二、二四二
五、六五、九九六	七、七〇五	五八二、〇九二	八、二五〇	五九八、一一一	六〇四、八一〇	八、三四二	六〇四、八一〇	八、三四二	六〇四、八一〇
九、二九九	九、二九九	八、七二二	八、三六二	八、三六二	八、一三七	八、一三七	八、一三七	八、一三七	八、一三七
三、五三、三六八	五二六	三、八五、一九九	五八〇	三、九六、八六九	四三三、五六三	六一七	四三三、五六三	六一七	四三三、五六三
一〇八、二六五	九〇	一〇五	一〇八	一〇八	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三
一七、六一〇	一七、六一〇	一七、三六〇	一七、三六〇	一七、三〇〇	一七、二〇九	一七、二〇九	一七、二〇九	一七、二〇九	一七、二〇九

私立西洋形造船所及製造船

造船所八年末其(第十七統計年鑑)

計	風帆		蒸氣		計	風帆		蒸氣	
	百噸以上	百噸未滿	百噸以上	百噸未滿		百噸以上	百噸未滿	百噸以上	百噸未滿
噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數	噸數	船數
一、四九九	一七五	三、八五四	六三	七、六四五	一一二	七、六四五	一一二	七、六四五	一一二
一七五	一七五	三、八五四	六三	七、六四五	一一二	七、六四五	一一二	七、六四五	一一二
一七五	一七五	三、八五四	六三	七、六四五	一一二	七、六四五	一一二	七、六四五	一一二
一七五	一七五	三、八五四	六三	七、六四五	一一二	七、六四五	一一二	七、六四五	一一二
一七五	一七五	三、八五四	六三	七、六四五	一一二	七、六四五	一一二	七、六四五	一一二

日本

二十九年	二十八年	二十七年	二十六年
六三	五七	五三	五八
七二	八七	六八	五五
四、〇四三	五、二二三	三、八六八	三、四二五
八六	二二	二四	二二
三、六一三	一、三九二	一、二七七	九六九
一五八	一〇九	九二	七七
七、六五六	六、六〇五	五、一四五	四、三九四

〔備考〕

造船所數ニハ、假設造船所ハ包含セズ

本表ノ外造船所三十年ニ一ヶ所二十九年ニ三ヶ所二十八年二十ヶ所二十七年ニ八ヶ所二十六年ニ五ヶ所アレ氏船舶ノ製造ナキヲ以テ之ヲ省ク

主要ナル水陸運輸會社

*、貨幣取扱高(第十七統計年鑑)

陸運	内國 通運	三十年度	二十九年	二十八年	二十七年	二十六年
		四	四	四	四	四
拂込資本金		七五〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、二二〇、〇〇〇	一、二二〇、〇〇〇
貨幣取扱高		二、五二三、二三九	一、七〇五、一一九	一、六三五、一三〇	一、三、五八六、二八一	四、九五一、〇一八
荷物運賃		一、一七、三三二、七二三	五三三、〇五〇、九六三	六〇六、〇二八、三九二	三〇五、六六〇、五四七	二二八、一二四、七七七
貨物運賃		一、八四九、〇六九	一、七八五、八九四	二、〇三八、三五七	一、八三九、五七五	一、三三四、二七三

水運	日本 運輸	三十年	二十九	二十八	二十七
		度	年	年	年
日本		一八、七〇〇、〇〇〇	一三、〇二二、三九八	八、八〇〇、〇〇〇	八、八〇〇、〇〇〇
郵船		三二七、〇九四	二四二、二〇六	一七六、七九九	二四〇、二三七
大阪		一、〇四九、三八〇	一、〇九四、八七一	八五七、三三八	九九九、四四二
商船		三、九六六、四四八	五、六六三、三五二	四、七一一、四四六	五、六〇七、四九三
日本		三、四、九六三、三三九	一、九〇二、八七八	一、七〇四、一〇五	一、四九九、九六八
日本		三九、七四四、八〇九	五四、七三三、九二二	一、三九二、四八〇	一、三五二、八五八
日本		一一五、三三五	八六、一五九	一、一七二、二八二	八、二七四、七二二
日本		一、一七二、二八二	八、二七四、七二二	六、二二八、六八二	五、八六〇、三三九
日本		四、三七四、三三八	三、九八九、三二〇	三、八六一、五〇七	一、三八五、二二三
日本		一、二〇五、九六六	一、〇三三、二五八	一、〇三三、二五八	一、〇三三、二五八
日本		八六二、一七九	八六二、一七九	八六二、一七九	八六二、一七九

〔備考〕

表中年度トアルハ前年十月ヨリ其年九月ニ至ル一ヶ年度ノ調ナリ
内國通運會社ノ二十六年ハ其年一月ヨリ九月ニ至ル九ヶ月間ノモノナリ

日本

海員

〔三十年末日第十七統計年鑑〕

一三六

船種	船長	内國人		外國人		合計	機	計	内國人	外國人	合計
		一等運轉士	二等運轉士	一等運轉士	二等運轉士						
甲種	船長	三三六	一五九	三六二	一〇九	七〇八	一	等	二二八	二二二	四四〇
甲種	一等運轉士	二一四	二一四	七九	二九三	三七八	二	等	三七〇	一四九	五一九
甲種	二等運轉士	七一九	五五〇	一、二六九	二九三	四四三	三	等	四四三	四	四四七
乙種	船長	四八〇	二	四八二	二	九八四	總計	計	七、〇四四	九三八	七、九八二
乙種	一等運轉士	五六〇	一〇	五七〇	五七〇	一一、〇九	二	等	四、四七八	八八七	五、三六五
乙種	二等運轉士	一、九三六	一一	一九四七	一九四七	四、一三五	二	等	四、一三五	八三九	四、九七四
丙種	船長	二、九七六	二二	二、九九九	二、九九九	四、一三五	二	等	三、九七八	七八八	四、七六六
丙種	一等運轉士	一一、一九一	八	一二、一九九	一二、一九九	三、八九六	二	等	三、八九六	七二七	四、六二三
丙種	二等運轉士	一一、一九九	八	一二、一九九	一二、一九九	三、八九六	二	等	三、八九六	七二七	四、六二三

〔備考〕 本表免狀ノ内甲種及機關長一二等機關士ヲ遠洋航トシ其他ヲ近海航沿海航平水航トス然レモ近海航ニテモ五百噸以上ノ船舶ニハ遠洋航ト同一ノ免狀受有者ヲ以テ乗込員トス

内國ノ交通

附外國航路里程

國道ノ延長千八百八十七里縣道延長六千六百〇二里里道延長十萬九千五百三十九里其内譯左ノ如シ

國道
縣道及ヒ里道
延長内譯表

道路延長

國	道	縣	道	里	道
東京府	三三、二五丁	六七、〇三丁	三八四、二三丁	一、九七二、三三	一、九七二、三三
大阪府	四六、三一	一一七、二六	一、〇一五、二六	一、〇一五、二六	一、〇一五、二六
京都府	二九、三一	二二七、三三	一、三四八、〇七	一、三四八、〇七	一、三四八、〇七
神戶縣	三九、〇一	一〇二、〇三	四、四七四、三一	四、四七四、三一	四、四七四、三一
兵庫縣	一〇〇、一五	三六三、三五	一、七六九、一一	一、七六九、一一	一、七六九、一一
奈良縣	二〇、〇七	一一九、二六	九、九三、一一	九、九三、一一	九、九三、一一
新潟縣	九、二〇	三〇七、七一	一、九七二、三三	一、九七二、三三	一、九七二、三三

一三七

山青岩福宮長岐滋山靜愛三奈枋群茨千埜
 形森手島城野阜賀梨岡知重其木馬城葉玉
 縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣

四二、一五	四八、一八	四七、二五	七三、一八	四四、二〇	六七、〇五	三八、一九	四四、三一	一六、三〇	四九、〇七	四二、一七	三三、〇二	一〇、二二	三〇、三三	三四、三四	四〇、〇九	一一、三三	三三、二一
一〇八、二七	二二三、一九	一四四、一八	一九二、二一	二六六、二五	二七〇、〇八	四〇、三〇	三九、〇一	一〇〇、二八	一一五、〇四	一九六、〇四	一二七、一八	九七、〇九	二四八、三〇	一八二、二八	二五六、三二	一七七、二九	二三八、二五
一、七六三、二八	九二九、二三	一、〇一七、一八	二、一三六、二七	二、四九七、三一	二八、四八一、一一	四、三〇二、一九	一、二二三、〇八	一、二五九、一五	四、二二九、二五	二、一一七、一六	三九九、〇九	二九一、二四	六四六、一四	一、六〇五、〇二	二、四五一、一五	三三六、〇七	四、九三九、三一

熊佐大福高愛香德和山廣岡島鳥富石福秋
 本賀分岡知媛川島 日島山根取山川井田
 縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣縣

四六、〇三	三〇、一七	四三、二四	六九、三五	三八、三〇	三三、三四	一六、二八	二八、二七	四、〇八	五七、一〇	四四、二二	五二、一五	六六、〇六	五六、二五	三二、〇〇	二〇、一五	一九、〇六	六六、二一
一六二、二五	九五、二六	一二五、一一	一三二、一五	六九、二九	七三、〇三	二四、一五	二七、二四	一三三、一〇	一八六、三五	二三〇、〇九	二〇三、二七	七八、一一	六八、〇六	三二〇、〇六	三三〇、〇一	九五、〇三	一三七、一〇
四、〇九〇、〇二	一、一一〇、〇八	四、二八二、一〇	一、九三四、二五	一、四〇七、三〇	一、五九七、三三	一、二四六、〇九	一、一六八、〇七	一、七三〇、二一	一、五八七、二六	四、五一二、一六	三、五七六、〇一	一、九四七、一六	六五七、三四	一、二〇九、一四	一、六八七、〇一	九二五、三五	一、〇七九、三一

總計	沖繩縣	鹿兒島縣	宮崎縣
一、八八七、〇〇〇	四三、三六三	四六、二二一	四六、二二一
六、六〇二、〇〇七	一七五、〇〇四	六三、二一〇	六三、二一〇
一〇九、五三九、一七	三六四、一六	一〇、〇二二	九三七、一七

主要ナル諸港間航路湊程

長濱	多度津	神戸ヨリ	宮古	荻ノ濱	四日市	下田	横須賀	横濱ヨリ
一六五	八二	三七七	二八六	二〇〇	七四	一二	浦賀	浦賀
別府	今治	八戸	釜石	神戶	清水	熱海	浦賀	浦賀
二二四	一一〇	四三六	三五三	三四七	一一三	一七	熱海	熱海
大津	三	函館	山田	石濱	半田	熱海	熱海	熱海
分	津	館	田	濱	田	海	海	海
二二二	一四七	五二九	三六〇	二八三	一九一	五四	五四	五四

日本	東京ヨリ	森	青森	函館ヨリ	鹿兒島	島原	長崎ヨリ	基隆	廣島	清水	徳島	佐賀
一四二	七六	五九	一〇六	一六二	六六	九三〇	一五五	一七六	五一	二〇二	八幡濱	宇和島
横須賀	室蘭	大港	竹敷	福江	百貫	三田尻	岡山	高知	宇和島	宇和島	宇和島	宇和島
二五	七九	六七	一一一	五五	七二	二二三	六五	一四二	須崎	須崎	須崎	須崎
浦賀	根室	野邊地	基隆	玉浦	大川	赤間關	尾道	須崎	須崎	須崎	須崎	須崎
三〇	二九五	六三	六二八	八三	九二	二四〇	一〇八	一五二	一五二	一五二	一五二	一五二

新島浦	六八	波	浮上	七〇	櫛	立 <small>八丈</small>	一六五
父島二見港 <small>小笠原島</small>	五三一						
赤間關ヨリ							
博多	六〇	唐津		七二	呼子		七一
伊萬里	九九	佐世保		一二一	長崎		一四二
境	二〇三	敦賀		三二七	伏木		四六三
直江津	四五三	新潟		四九六	酒田		五四七
土崎	五八七	函館		六八九	小樽		八二二
多度津ヨリ							
尾ノ道	三〇	岡山		三一			
三津ヨリ							
廣島	三五	上ノ關		三〇	三田尻		五九
赤間關	九二						
佐賀關上浦ヨリ							

白杵	一六	佐伯	二八	細島	六六
油津	一一九	鹿兒島	二二六		
鹿兒島ヨリ					
名瀬	二〇二	那覇	三七三	石垣 <small>八重</small>	六一五
基隆ヨリ	六二四				
宇品	八五八	八重山	二四二	門司	七五二
那覇	三三五	淡路	三九	大安港	一〇四
澎湖島	一九五	蘇灣	五〇	昇南	一六六
打狗ヨリ					
安平	二五	大安港	一二三	澎湖島	七二
車城	四〇	花蓮港	一八八		

附錄外國航路

〔海船航路〕

〔海軍省調〕

日本

香港	一、五七五	新嘉坡(直航)	二、九〇二	柴棍	二、三八六
亞丁	六、七〇〇	錫蘭	四、五九〇	蘇士	八、〇〇七
那兒	九、二二五	馬耳他	九、〇三五	布哇	三、三九三
桑港	四、七三二	紐西蘭	一〇、一二五	麥普尼	五、〇八〇
浦潮斯德	九二七	青島	一〇、一二五		
長崎ヨリ					
上海	四七〇	芝罘	五六六	天津	七三六
釜山	一六二	仁川	四五八	元山	四六〇

鐵道ノ延長線路哩數ハ左ノ如シ

明治	官	設	私	設	合	計
三十二年	八七三	七四二	二、六六四	二、四〇二	三、五三七	哩
三十一年	七四二	六九四	二、九四二	二、六三七	三、一四四	哩
三十年	五九三	五九三	一、七二〇	二、三〇三	二、三〇三	哩

又此鐵道ノ收入及ヒ支出官設私設各線ノ通計ヲ見ルニ左ノ如シ

鐵道收入及支出

三十年度(第十七統計年鑑)

官	運輸收入		其ノ他ノ收入	營業費	益金
	乗客	貨物			
設	七、四七二、三三三	二、二四四、五三九	一、一〇〇、六〇八	四、七八六、〇四九	四、九四一、四四一
設	一〇、一八〇、三三三	六、一〇一、一〇七	二、六八〇、一〇一	八、二二八、二八二	一〇、七三三、一六〇
合	一七、六五二、五七七	八、三四五、六四六	二、七九〇、七〇九	一二、四一三、一三三	一五、六七四、六〇一
二	一三、七二七、一七二	五、九三七、三六八	二、一六一、二八九	九、三八一、一一五	一二、四四四、七十四
十	一一、七九六、六五三	五、八二〇、五二二	一、九〇五、二六七	七、六六三、五六六	一一、八五八、八六六
七	八、六三四、七一五	四、五二〇、五四六	一、三七六、三三三	五、八三六、一七九	八、六八五、三九五
六	七、三九四、七七三	三、五七六、四七〇	一、五〇八、八四四	四、九七七、三四三	七、五〇四、三〇五

〔備考〕

私設ノ其他ノ收入ニハ政府補給或ハ補助金ヲ包含セリ
 本表ノ外二十六年年度ニ運輸收入ト其他ノ收入トニ區分シ難キモノ千五百六十一圓アリ

日本

又明治廿七年ヨリ同三十一年ニ至ル各歳郵便電信ノ各局數及ヒ明治廿六年度ヨリ同三十年度ニ至ル各年郵便物數、電信通數、郵便收入、電信收入、計表及郵便電信爲換計表ヲ見ルニ左ノ如シ

郵便及電信

三十一年三月三十一日

〔第十五及第十七統計年鑑〕

郵便局	三十一年	三十年	二十九年	二十八年	二十七年
受取局	三,七四五	三,七三五	三,七二四	三,七一八	三,七一八
線取局	五,四〇〇	五,三三五	五,三三三	五,三三五	五,三六三
信取局	三,七二六〇	三,五,四五五	三,四,三二七	三,三,七〇一	三,三,六八七
取扱所	二,四,二六六	二,四,八六九	二,四,〇三三	二,四,一四〇	二,三,七五四
線取路	一,二二七	一,二二八	七,七九	七,七七	六,〇〇
線取路	一,二二六	一,〇〇三	六,八九	六,八〇	六,二六
線取路	一,二二九	一,二二	九,六	八,〇	八,〇
線取路	五,八五六	四,九〇三	四,〇四	三,九八三	三,八三六
線取路	一九,一四〇	一五,六五九	一二,四〇九	一一,六七	一〇,三八九

〔備考〕

郵便電信局ヲ郵便局及電信局ニ各合記ス
 在海外ノ郵便電信局及郵便局并ニ海軍海船中ノ郵便函ハ總テ本表ニ記入セリ
 電信線路ハ遞信省所屬ニ係ルモノ、ミノ調ナリ
 電信ノ線路ハ水底線條長ヲ同延長ハ水底線心線延長ヲ加算ス

郵便物數及電信通數

〔第十七統計年鑑〕

郵便物	三十年度	二十九年度	二十八年	二十七年	二十六年
書狀	一四二,八六三	一一三,三五二	一〇九,四〇一	九四,四五四	八〇,六〇四
葉書	二八七,〇六三	二六二,八六一	二二八,五〇二	一九〇,六九一	一五八,一四七
新聞雜誌	八八,二六四	八六,八〇二	七八,九六二	八〇,四一五	五六,九六八
書籍類	七,三二七	六,六一七	五,九一八	五,二五七	五,三九二
見本	八〇四	七二七	五五三	四〇四	三四四
農産物種子	二四四	一七一	一三一	八一	七七
貨幣封入	〇	〇	〇	〇	〇
書留計	六,二三三	五,二三四	四,六七九	四,〇五〇	三,五四一
合計	五三二,七九八	四八四,七五四	四二八,二四六	三七五,三五一	三〇五,〇七三

郵便物	小包郵便物		電信		電信
	量目	通格	量目	通格	
郵便收入	四、〇九三、二八三	三、七〇八	一、六七二、〇二〇	一、五九一	四、〇九三、二八三
小包郵便收入	三、七〇八	二、五五四	一、〇六八、七五〇	一、三一九	三、七〇八
電信收入	一、六七二、〇二〇	一、四九一	一、〇六八、七五〇	一、三一九	一、六七二、〇二〇
國內發	七三三、三三三	四六六、七〇七	四六六、七〇七	二八一、三六〇	七三三、三三三
外國發	一、一九八、六七九	一〇、一九九、一八四	一〇、一九九、一八四	八、六二八、二六四	一、一九八、六七九
外國ヨリ着	一四四、三〇四	一〇九、七四五	一〇九、七四五	一三六、二九七	一四四、三〇四
合計	一、三三三、三三三	一〇七、九六〇	一〇七、九六〇	一三三、一六一	一、三三三、三三三
電信收入	一、三三三、三三三	一〇七、九六〇	一〇七、九六〇	一三三、一六一	一、三三三、三三三
合計	一、三三三、三三三	一〇七、九六〇	一〇七、九六〇	一三三、一六一	一、三三三、三三三

〔備考〕 郵便物ノ内書留ハ實際ノ調査ニシテ其他ハ四週間ノ事實ヲ以テ推算セシモノナリ
 電信通數ニハ事務報氣象報及鐵道報ハ含蓄セズ
 郵便收入ハ切手葉書封皮代、私書函料、約束郵便料、外國郵便遞送料差金、貨幣封

臺灣郵便物數及電信通數

郵便物	小包郵便物		電信	
	量目	通格	量目	通格
郵便收入	四、〇九三、二八三	三、七〇八	一、六七二、〇二〇	一、五九一
小包郵便收入	三、七〇八	二、五五四	一、〇六八、七五〇	一、三一九
電信收入	一、六七二、〇二〇	一、四九一	一、〇六八、七五〇	一、三一九
國內發	七三三、三三三	四六六、七〇七	四六六、七〇七	二八一、三六〇
外國發	一、一九八、六七九	一〇、一九九、一八四	一〇、一九九、一八四	八、六二八、二六四
外國ヨリ着	一四四、三〇四	一〇九、七四五	一〇九、七四五	一三六、二九七
合計	一、三三三、三三三	一〇七、九六〇	一〇七、九六〇	一三三、一六一
電信收入	一、三三三、三三三	一〇七、九六〇	一〇七、九六〇	一三三、一六一
合計	一、三三三、三三三	一〇七、九六〇	一〇七、九六〇	一三三、一六一

入郵便物遞送料、小包郵便收入ハ郵便料、保險料、諸手数料、電信收入ハ内外國電
 報料、略號常用料、電報局渡料、電信取扱、電信電話修繕料等ヲ合算セシモノナ
 リ

〔臺灣總督府 第一統計表〕

〔備考〕 二十九年度ノ郵便物ハ十月以降又同年小包郵便物ハ八月以降ノ調ナリ

郵便及電信爲替

取扱局所ハ年度末(第十七統計年鑑)

取扱局所	振出		高		爲替料
	證書枚數	金額	證書枚數	金額	
三十年度 郵便	二、〇八〇	五、二九三、六四〇	四六、八八五、八八五	三三〇、〇〇九	
三十年度 電信	一、一〇五	二五四、七九六	四、〇五三、五七七	八五、七八〇	
二十九年 郵便	二、三三一	四、六四三、二一九	二一、二五四、四三五	二八九、九九五	
二十九年 電信	八六四	一八一、九三〇	二、八六〇、八八三	六一、〇九一	
二十八年 郵便	一、八二四	四、三三七、七六二	四〇、〇九四、五三〇	二七八、三八八	
二十八年 電信	六七六	一五八、五八四	二、三二六、〇九一	五二、四七八	
二十七年 郵便	一、八五七	三、八八一、〇〇二	三三、〇七九、五七四	二三三、八五一	
二十七年 電信	六三八	一四一、九〇一	一、九三三、八七三	四六、三二八	
二十六年 郵便	一、九四五	三、二八〇、三五七	二七、二二九、〇六六	一九七、三〇二	
二十六年 電信	五四三	九一、六七九	一、四三一、六七八	三〇、七五七	

〔備考〕

本表ハ内國ニ係ルモノノミノ調ナリ次表亦同シ
本表ノ外々國ニ係ル爲替ノ振出高及其爲替料ヲ舉クレバ左ノ如シ

臺灣郵便及電信爲替

〔第十六及第十七統計年鑑〕

取扱局所	振出		高		爲替料
	證書枚數	金額	證書枚數	金額	
三十年度 郵便	三、九六〇	一〇八、八二六	一〇八、八二六	二、二八〇	
三十年度 電信	三、五八一	九三、八二八	九三、八二八	一、二七七	
二十九年 郵便	三、三一九	九一、六四〇	九一、六四〇	一、二四五	
二十九年 電信	二、四四二	七九、四六四	七九、四六四	八二九	
二十八年 郵便	二、四二九	六八、七九九	六八、七九九	七八四	

信用及貨幣

明治三十年ニ於テ日本政府ハ其貨幣制度ヲ大ニ革新シテ以テ金貨本位制ヲ實行セリ

是ヨリ先キ明治三年ヨリ以降日本造幣局ニ於テ鑄造并ニ發行セシ所ノ金銀貨幣其他小貨幣ノ計數及ヒ明治三十年改正ノ貨幣品位置目表明治廿六年至同三十一年貨幣流通額紙幣流通額各計表ハ左ノ如シ

貨幣鑄造高

〔第十七統計年鑑〕

年	金貨	銀貨	白銅貨	銅貨	合計
三	七六、八一三	一〇、〇〇六	六〇〇		八七、四一九
二	一、〇五〇	一三、七四一	六五〇		一四、四四一
一	一、四一〇	一九、〇〇一	五二		二〇、四六三
十	一、六八〇	二九、八〇二	三五〇		三二、八三二
九	一、三二五	二二、七九一	七二〇		一四、八二六
八	一、三七〇	二二、六五四	五〇〇		一四、五二四
七	一、二二五	八、八一六	五〇〇		一〇、四四一
六	八八六	八、四四九	一、六六七		一、〇〇二
五	一、七六四	七、二九五	二、一〇一		一、一六〇
合計	七六、八一三	一〇、四四八	七、一四〇	二、一八九	一、一六〇七

貨幣發行高

〔第十七統計年鑑〕

年	金貨	銀貨	白銅貨	銅貨	合計
二	九三〇	一〇、四四八		二二九	一一、六〇七
一	五八、八七〇	七八、六五四		二二、一八九	一四九、七二三
合計	一四七、二二三	二二〇、六五七	七、一四〇	二二、四一八	三七七、四二八

年	金貨	銀貨	白銅貨	銅貨	合計
三	一、七六八	一〇、二九八	六〇〇		八七、七二二
二	九五二	二二、九二七	六五〇		一四、五二九
一	一、四二四	二〇、〇〇七	五二		二二、四八三
十	一、五八三	二八、五三九	三五〇		三〇、四七二
九	一、三六五	一三、一七七	七二〇		一五、二六二
八	一、三五一	二二、一四二	五〇〇		一三、九九三
七	一、一五三	八、八九七	五〇〇		一〇、五五〇
六	八九四	八、三七九	一、六六七		一〇、九四〇
五	一、七二四	七、二二六	二、一〇〇		一、〇五〇
合計	一、七六八	一〇、二九八	六〇〇		八七、七二二

二十一年	八五七	一〇、三五三		五〇〇	一一、七二〇
自明治三十一年十一月創業	五八、八〇二	七八、六一一		一一、九二八	一四九、三三二
至同治三十年					
總計	一四六、九二九	二二〇、五五六	七、一三九	一二、四一八	三七七、〇四二

附錄

貨幣ノ品位

純金九百分參和銅一百分

純銀八百分參和銅二百分

「ニッケル」二百五十分參和銅七百五十分

銅九百五十分錫四十分亞鉛十分

貨幣ノ量目

二十圓金貨 四匁四分四厘四毛四(十六)グラム「六六六五」

十圓金貨 二匁二分二厘二毛二(八)グラム「三三三三」

五圓金貨 一匁一分一厘一毛一(四)グラム「二六六六」

- 五十錢銀貨 三匁五分九厘四毛二(十三)グラム「四七八三」
- 二十錢銀貨 一匁四分三厘七毛七(五)グラム「三九一四」
- 十錢銀貨 七分一厘八毛八(二)グラム「六九五五」
- 白銅貨 一匁二分四厘四毛一(四)グラム「六六五四」
- 一錢青銅貨 一匁五分〇〇八(七)グラム「二二八〇」
- 五厘青銅貨 九分五厘〇四(三)グラム「五六四〇」

貨幣流通高

三十一年末日(大藏省調)

年	金貨	銀貨	白銅貨	銅貨	合計
三十二年	一八、二三五	四五、八一四	七、六五三	九、三二九	八〇、九四一
三十一年	一六、五七五	五九、〇九七	六、七四三	九、三五一	九一、七六六
三十年	五、三七三	五五、二九二	六、一四二	九、三七九	七六、一八六
二十九年	五、一六二	四九、〇八五	五、八八五	九、六〇六	六九、七三八
二十八年	五、二五〇	四一、九五四	五、八三二	九、六七四	六二、七一〇
二十七年	五、七四〇	二九、九一一	五、〇九九	九、九二二	五〇、六七二
日本					

〔備考〕 本表ハ發行高ヨリ鑄潰高純輸出高及兌換銀行券準備ヲ扣除シタルモノナリ但舊金貨ハ貨幣法ニ依リ倍位トス

紙幣流通高

三十一年三月三十一日

〔第十七年統計〕

年	紙幣	銀行紙幣	兌換銀行券	合計
三十一年	六、九九五 <small>千円</small>	四、〇九九 <small>千円</small>	一九五、八九〇 <small>千円</small>	二〇六、九八四 <small>千円</small>
三十一年	九、〇四五	一三、六一一	一八一、一一二	二〇三、七六八
三十一年	一〇、六七九	二〇、二九四	一五七、一四二	一八八、一一五
三十一年	一三、〇二一	二二、三〇〇	一三五、二二五	一六九、五四六
三十一年	一五、七〇五	二二、二八六	一四一、二七一	一七九、二六二
三十一年	一九、二〇〇	二二、六二四	一二八、四五七	一七一、二八一

貨幣及ビ度量衡

貨幣度量衡内外比較

尺度以下ハクラーク氏ノ萬國貨幣並度量考及ジョンソン氏ノ廣事類韻府等ヨリ抄譯ス

貨幣 (新金貨換算)

ポンド(英)	九圓七十六錢三厘	ドル(北米)	貳圓六厘
マルク(獨)	四十七錢八厘	フランク(佛、白、瑞西)	三十八錢七厘
リラ(伊)	三十八錢七厘	クローネ(奧)	四十錢七厘
クローネ(瑞典、諾、丁)	五十三錢八厘	フロリン(蘭)	八十錢六厘
ミルライオス(葡)	二圓十六錢八厘	ペセタ(西)	三十八錢七厘
ピヤステル(土)	八錢八厘		

〔備考〕 貨幣ノ換算ハ之カ市價ニ非スシテ其純分ト純分トヲ比較シテ計算セシモノナリ然レトモ其極微ノ點ニ至テハ未ダ精密ニ測レルモノト云フコトヲ得ス故ニ他日完全ノ調ヲ得ルニ至ラハ或ハ尙ホ少差ヲキヲ保シ難シ

尺度

(長短尺)

日本

分(清)	一分一厘零々	デシメートル(佛)	三寸三分
寸(同)	一寸一分零々	一名パルメ	三寸三分
尺(清)	一尺一寸一毛	メートル(同)	三尺三寸
丈(同)	一丈一尺一厘	デカメートル(佛)	三丈三尺
引(同)	十一丈一分三厘七毛	ヘクトメートル(同)	三十三丈
ライン(英、北米)	六厘九毛九六	キロメートル(同)	三百三十丈
インチ(同)	八分三厘八毛	一名ミル	七厘二毛二七
フット(英、露、北米)	一尺五厘七毛	ツナル(同)	八分六厘九毛二二
ヤード(英、北米)	三尺一分七厘四毛	フリス(同)	一尺四分三厘一毛六
ポール一名ロツト(同)	一丈六尺七寸六分	クラフテル(同)	六尺二寸五分九厘
又ベルチ	三厘	リーニーヤ(露)	六厘九毛九
リニー(獨)	七厘貳毛	ドユイム(同)	八分三厘九毛五

ツナル(同)	八分六厘二毛九	ウエルジョック(同)	一寸四分六厘六毛
ラインフリス(同)	一尺三分五厘	アルシーン(同)	二尺三寸四分六厘九毛
エルレ(同)	二尺二寸	サーゼン(同)	七尺四分七毛四
ルツツエー(同)	一丈二尺四寸二分八厘九毛	メトロ(伊)	三尺三寸
ミリメートル一名リン(佛)	三厘三毛	チロメトロ(同)	三百三十丈
サンチメートル全ホウス(同)	三分三厘		

(距離尺)

ツナル(獨)	一寸二分四厘三毛	里(清)	五町六間
フリス(同)	一尺二寸四分三厘	哩(英)	十四町四十五間
ルツエー(同)	二間四寸二分八厘	マイル(塊)	一里三十三町三
ウエルスト(露)	九町四十六間四尺	溼(英)	十二間三尺八寸
(量地尺)			十六町五十八間三尺

エークル(英、北米) 四段二十四歩 エクター(佛、蘭、白) 一町二十五歩

ヨク(塊) 五段八畝一步弱 モルゲン(獨) 二段五畝二十二歩二合二勺

アール(佛、蘭、白) 一畝二合五勺 デシアチン(露) 一町一段四歩五合

(立積尺)

船積噸(英、北米) 曲尺 四十二坪七合 三勺七抄五二

コルドフート(同) 全 十六坪二合 八勺一抄

コルド(英、北米) 曲尺 百三十坪二合 四尺八抄

斗量

(常量) 全 百十九坪九合 三十五坪九合 三勺七抄

チル(英、北米) 七勺八抄七七 ヘルキ(英、北米) 五升三勺七抄

ピント(同) 三合一勺四抄八三七 プッセル(同) 二斗一合四勺九抄六

クオルト(同) 六合二勺九抄六七五 コーム(同) 八斗五合九勺四抄

ポットル(同) 一升二合五勺九抄三
ガルロン(同) 二升五合八勺七抄

(液量)

コツプ(清) 二勺八抄八八

シンクツオング(同) 二合九勺九抄七

斗(同) 二升三合六勺

エスセル(獨) 三合一勺七抄五

クワルチール(同) 六合三勺五抄

アイメル(同) 三斗八升八勺

フーデル(同) 四石五斗七升

ミソリットル(佛) 五圭五四三五二三五

サンチソットル(同) 五抄五四三五二三五

デシソットル(同) 五勺五抄四三五二三五

日本

クオルトル(同) 一石六斗一升一合九勺六抄

キロソットル(佛) 五石五斗四升三合五勺強

サイデル(塊) 一合九勺六抄一八

カンネー(同) 三合九勺二抄四二六

マース(同) 七合八勺四抄三五三

フザールテル(同) 七升八合四勺三抄五三

アイメル(同) 三斗一升三合七勺四抄零八

ホルウエドロ(露) 三升四合八抄九八五

ウエドロ(同) 六升八合一勺七抄九七

リトロ(伊) 五合五勺四抄三五二三五

エットリトロ(同) 五斗五升四合三勺五抄強

リットル(同) 五合五勺四抄三五二三五
 デカリットル(同) 五升五合四勺三抄 五二三五
 ヘクトリットル(同) 五斗五升四抄三勺 五抄二三五
 (穀 量)

コップ(清) 四勺二抄四六
 (同) 四升二合五勺二抄
 シイ(同) 六斗七升八合二勺
 マスセン(同) 四合七勺六抄三
 メイズ(同) 一升九合七抄二
 ファイルテル(同) 七升六合二勺六抄四七
 セフェル(同) 三斗四合六勺五抄八八
 マルテン(同) 三石六斗五升五合九勺
 セチエ(佛) 五斗五升四合三勺五抄二三五

一六二
 フィンゲル(蘭) 五抄五四三三二三五
 マーツゼー(同) 五勺五抄四三五二三五

ベツヘル(奥) 二合六勺五抄六四五
 クナイネス(同) 五合二勺二抄二八九
 マスセル 一升六合五抄零二
 グロセヌ、マスセル(同) 四升二合六勺一抄二
 アフテル(同) 八升五合二勺一抄四
 フ井ールテル(同) 五勺五抄四三五二三五
 マーチー(蘭) 五合五勺四抄三五二三五
 コップ(同) 五斗五升四合三勺五抄強
 シケツベル(同) 五斗五升四合三勺五抄強
 セチエ(同) 五斗五升四合三勺五抄強

ステール(同) 五石五斗四升三合五勺 二抄三五
 (衡 量)

フエン 一分零々八
 分(清) 一奴八毛
 チエン 一奴八毛
 錢(同) 十奴八厘
 リヤン 百六十一奴二分八厘
 兩(同) 三百二十二奴五分六厘
 カッチー 十六貫百二十八奴
 斤(同) 十九貫三百五十三奴八分
 イン 一厘七毛二八
 引(同) 三分四厘五毛六
 ビョル 一奴三厘六毛八
 擔(同) 七奴五分六厘
 石(同) 日 本

ト 噸(英、北米) 二百七十貫九百五十三奴
 ミリグラム(佛) 二絲六六六七
 センチグラム(同) 二毛六六六七
 デシグラム(同) 二厘六毛六六七
 グラム(同) 二分六厘六毛六七
 デカグラム(同) 二奴六分六厘六毛七
 ヘクトグラム(同) 二十六奴六分六厘七毛
 キログラム(同) 二百六十六奴六分七厘
 フント(露) 百九奴四厘
 プード(同) 四貫三百六十二奴
 グランマ(伊) 二分六厘六毛六七

ポンド(同) 百二十匁九分六厘
 ストーン(同) 一貫六百九十三匁
 クォルトル(同) 三貫三百八十六匁八分
 ハンドレット、ウエイト(同) 十三貫五百四十七匁

チログランマ(同) 二百六十六匁六分七厘
 クインタルメートルシ(同) 二十六貫六百六十七匁
 トンネタラ(同) 二百六十六貫六百七十匁

支那

帝室

現皇帝諱ハ載滯其實ハ皇族故醇親王ノ子ニシテ同治十年辛未即チ西曆千八百七十一年ヲ以テ生ル同治十三年冬十二月先帝崩ズ子無シ故ニ西太后即チ慈禧皇太后(咸豐帝ノ皇后)載滯ヲ推シテ帝位ヲ繼ガシメ元ヲ光緒ト改ム即チ現帝是レナリ時ニ千八百七十五年一月二十二日ナリキ

帝幼冲ナルヲ以テ西太后垂簾攝政トシテ内外萬機ヲ裁決ス

光緒十三年丁亥(千八百八十七年)西太后其政ヲ還ヘス然レモ此還政ハ單ニ表面形式上ノミニ止マリ而カモ實際依然トシテ其大政統治ノ實權ハ西太后ニ在リ

今ノ清朝ニ於テハ帝位繼承ノ憲法無ク皇儲豫定ノ大典無シ歷代皇帝ハ其衆皇子中ニ於テ長者ヲ舍キテ而カモ少者ヲ選立シ以テ之ヲ皇儲ト爲シ以テ大統ヲ繼承セシメタル例多シ又帝年齡尚ホ少壯ニシテ未ダ子アラズシテ崩御セラレタル場合(咸豐帝ノ如キ及ビ同治帝ノ如キ)ニ當リテハ皇太后其際有力ナル親王大臣ト謀リテ幼冲ナル皇族ノ一人ヲ推載シ以テ皇位ニ即カシ

支那

光緒十五年己丑(千八百八十九年)帝親政ノ式ヲ實行シ且ツ大婚ノ禮ヲ舉グ然ルニ其實際ハ則
 萬機尚ホ西太后ノ掌攬スル所タリト云フ
 光緒二十四年戊戌(千八百九十八年)八月上諭ヲ以テ皇帝ハ復タ其政權ヲ讓リテ西太后ノ訓政
 ナ仰ギ内外万機一切西太后ノ手ニ歸セリ
 皇帝多病ニシテ子無キ故ヲ以テ皇族端郡王ノ子溥儀ヲ冊立シテ皇太子ト爲サレタルハ光緒廿
 五年己亥十二月ノ事ニ係レリ

帝室系統略譜

- (1) 太祖 努爾哈赤
 始メテ遼東ノ一小部ニ於テ其國ヲ建設シ自カラ滿州ト號シ正朔ヲ改メテ天命ト稱ス時正
 サニ支那明ノ神宗帝ノ朝萬曆四十六年戊午(西曆千六百十八年)也キ
 天命三年庚申都ヲ瀋陽ニ遷シテ之ニ居ル即チ今ノ盛京省奉天府是レ也同十一年殂ス太祖
 ノ男子十五人アリ其第八男皇太極位ヲ嗣キ立チテ滿洲皇帝ト爲ル
- (2) 太宗 皇太極

初メ年號ヲ改メテ天聰ト曰ヒタリシガ其後國勢彌ヨ恢弘スルニ及ビテ乃チ國號ヲ改メテ
 清ト稱シ其年號ヲ崇德ト改メタルハ明ノ懷宗莊烈帝ノ崇禎九年丙子(西曆千六百三十六
 年)ナリキ

崇德八年癸未(西曆千六百四十三年)流賊李自成燕京ヲ陷ヒシ明帝(莊烈帝)自カラ縊リテ
 崩ズ此歲清太宗モ亦病歿セリ太宗皇太極ノ男子九人アリ第九子福臨位ヲ嗣ギテ清帝ト爲
 ル年號ヲ改元シテ順治ト曰ヒ國都ヲ燕京ニ定ム

- (3) 世祖 福臨 (順治帝)
 在位十八年順治十八年辛丑(千六百六十一年)崩ズ皇子三人アリ第三子玄燁嗣ギ立チテ清
 帝ノ位ニ即ク是レ之ヲ聖祖仁皇帝ト爲ス

- (4) 聖祖仁皇帝玄燁 (康熙帝)
 幼沖ニシテ位ヲ嗣ギ先朝大臣ノ輔弼ニ頼リ以テ艱難ヲ匡濟スルヲ得タリ改元シテ康熙ト
 曰フ

帝天錫ノ明達英武ヲ以テ幼少ヨリ艱難ヲ親驗シ長スルニ及ビテ威德並ヒ行ハレ支那内部
 ノ禍亂漸ク剔除鎮定セラレ茲ニ始メテ中國一統ノ功業ヲ奏スルヲ得タリ

支那

吳三桂等ノ叛乱一時其勢猖獗ナリシモ終ニ之ヲ戡定シ又臺灣ヲ平ラゲタル後黑龍江地方ヲ經營シテ中國ノ北東邊疆ヲ肅清セシメ西ハ準噶爾ヲ親征シテ大ニ之ヲ破リ三十五年再征シテ之ヲ平ラゲタルハ康熙三十五年丙子(一六九六年)ニ在リキ
 康熙廿二年癸亥(一六八三年)大ニ海禁ヲ開キテ海外西洋ト互市シ支那商民船舶出洋ヲ許スト同時ニ澳門(廣東)漳州(福建)寧波(浙江)及ヒ雲臺山(江南)ニ各海關ヲ建設シ以テ洋船ノ出入ヲ監理セシム同廿七年戊辰(一六八八年)舟山島ニ於テ定海縣ヲ置ク同三十七年戊寅(一六九八年)定海ニ海關ヲ置キ英吉利商船ノ入港互市及ヒ陸上商館居留地一區ヲ設クルコトヲ許ス

四十四年乙酉(一七〇五年)翰林院ニ詔シテ外國文字言語ヲ習ハシム

大清會典ノ成就シタルハ康熙廿九年ニ在リ帝在位中ニ於ル仁義ノ政内外經綸ノ績其規模宏遠以テ世界ニ傳フベキ事迹モ亦多シ

康熙六十一年壬寅(一七二二年)十一月帝不豫遺詔シテ其第四ノ皇子雍親王胤禛ヲシテ皇位ヲ繼ガシム

(5) 世宗憲皇帝 胤禛 (雍正帝)

帝ノ在位中ハ西邊叛乱官軍屢々挫衄シ軍氣沮喪ス雍正十二年甲寅(一七三四年)遂ニ國費ノ續カザルヲ以テ準噶爾酋長策零ト和ヲ講シテ兵ヲ輟ム

既ニシテ南邊貴州苗族ノ叛乱亦猖獗ニシテ官軍屢々敗衄ス
 帝在位僅カ二十三年ニシテ崩ス皇第四子弘曆位ヲ嗣ギテ立ツ

(6) 高宗純皇帝 弘曆 (乾隆帝)

乾隆元年丙辰(一七三六年)南征將帥ヲ黜陟シ張廣泗ニ任スルニ南方七省經略ヲ以テシ増兵進剿セシム果シテ其功ヲ奏シ苗族ノ乱始メテ平ラゲ

乾隆十年西域又乱ル十一年丙寅(一七四六年)金川叛乱大ニ起リ同十三年ニ至ルマデ官軍屢々敗ル十四年ニ至リテ始メテ平ラゲ

廿年(一七五四年)伊犁ヲ征ス互ニ勝敗アリ決セズシテ數年ニ涉ル廿二年準噶爾酋長阿睦爾撒納天痘ニ罹リテ死シ準部姑ラク平グ

幾バクモ無クシテ天山南路又乱レ回部酋長共ニ叛キ喀什噶爾及ヒ葉爾羌ニ據リ官軍苦戰スルコト連年(廿二年丁丑ヨリ廿五年庚辰ニ至ル)廿五年ニ及ビテ稍ヤク平ラギ乃チ喀什噶爾ヲ以テ參贊大臣駐劄ノ本據ト爲ス

支那

三十一年(一七六六年)金川復々乱ル三十二年官軍敗岷ス

此歲大ニ雲貴四川三省ノ兵ヲ發シ大舉シテ緬甸ヲ征ス三十三年官軍大敗シ南征總督明瑞及ビ領隊大臣札拉豐阿同觀音保等皆死ス

三十四年更ラニ大兵ヲ發シテ緬甸ヲ伐ツ克マズ將士多ク疫死スルヲ以テ終ニ和ヲ講シテ師ヲ回ス

三十八年(一七七三年)官軍大舉シテ金川ヲ討チ苦戰シテ其一巢ヲ陷ル四十年其根據カ
ルガイヲ陷ヒレ金川始メテ平ラケ是レヨリ先キ準部回部ノ叛乱ニ於テ清廷連年苦戰僅カ
ニ能ク之ヲ平ラゲタルモ其國庫銀ヲ費ヤスコト三千餘万兩其他二人命財產ノ損耗莫大以
テ國力ヲ疲弊セシコト頗ル夥シ金川ノ乱ニ於ル亦國庫銀ヲ費ヤスコト七千餘万兩其他人
命財產ノ損耗ハ夥多ナルコト知ルベシ

五十一年丙午(一七八六年)臺灣林爽文ノ乱起ル翌年平ラケ

五十二年丁未安南乱ル兩廣總督孫士毅敕旨ヲ奉シテ之ヲ討チ大敗ス

五十六年廓爾喀酋長兵ヲ起シ西藏ヲ侵犯ス四川將軍福康安ヲ遣リ之ヲ討チ翌年官軍力戰
シテ悉ク西藏ノ地ヲ復シ進ミテ廓爾喀ノ都ニ迫ル廓爾喀降ル乃チ戍兵千人ヲ留メ以テ西

藏ヲ守ラシム是レ駐藏大臣設置ノ始メタリ

六十一年丙辰帝其位ヲ皇第十五子永琰ニ禪ル

(7) 仁宗高皇帝 永琰

改元シテ嘉慶ト曰フ元年丙辰海盜頻リニ粵海ニ出入シ大ニ患害ヲ爲ス

貴州四川湖北及ヒ廣西廣東等各處ノ民先朝連年出師征討軍役ノ結果民力疲弊困乏ニ至レ
ルヲ以テ官府ヲ怨ミ乱ヲ思フ者尠カラズ奸民機ニ乘シテ之ヲ煽惑シ各省ニ蠢聚シテ乱ヲ
作シ相應ズ之ヲ白蓮教匪ト稱ス官軍出テ之ヲ討ツト雖モ隨テ散シ隨テ聚マリ剿討ノ功
甚ク遅シ七年壬戌ニ至リテ陝西湖北ノ劇賊始メテ平ラケ

是レヨリ先キ海盜船隊跋扈シテ閩粵ノ海上ニ横行シ又浙海ニ出沒スルコト茲ニ熾アリ沿
海大ニ困シム十四年己巳(一八〇九年)ニ及ビテ其巨盜閩浙ニ在ル者始メテ滅ヒ翌年粵海
ノ海盜モ亦平ラケ

十八年癸酉又教匪(天理教)ノ亂アリシモ幾ハク無クシテ平ラゲリ

帝ノ在位中ハ表面大禍亂無シト雖モ而カモ清廷國庫内部先朝究迫ノ後ヲ承ケ綱紀漸ク弛
ミ人心漸ク離レムトスルノ兆アリ

廿五年庚辰(一八二〇年)帝崩ス皇第二子吳寧嗣ギ立ツ道光帝即チ是レ也
(8) 宣宗成皇帝 吳寧 (道光帝)

是レヨリ先キ嘉慶ノ末年回部酋長張格爾叛キ伊犁邊境ヲ侵掠ス道光六年丙戌官軍敗岨シ伊犁將軍慶祥以下戰死シ喀什噶爾城陷ヒル張格爾進ミテ英吉沙葉爾羌及ビ和闐ノ三城ヲ陷ヒル官軍大兵ヲ增發シ三路ヨリ之ヲ討ツ七年丁亥(一八二七年)張格爾ヲ擒ニス三城是ニ於テ回復スルヲ得

九年喀什噶爾參贊大臣ヲ移シテ葉爾羌城ニ駐在セシム

道光十一年趙金龍叛ク官軍赴ムキ攻メ屢々敗ル十二年金龍就ニ中リテ死シ餘黨潰散ス是レヨリ先キ嘉慶ノ始メ英吉利兵艦及ビ商船屢々澳門ヲ窺寄シ兵力ヲ以テ葡萄牙人ヲ脅カシ其地ヲ借ラント欲ス嘉慶十三年戊辰(一八〇八年)秋英船隊十隻澳門ニ入港シ其海兵一隊ヲ上陸セシメ借地ヲ請求シ駐泊スルコト七月ヨリ同十月ニ至ル其翌十四年澳門砲臺ヲ增築シ以テ英人防禦ニ備フ

此歲爰廣東港互市章程ヲ定ム同十九年中戊重ネテ互市章程ヲ嚴ニス

同二十年乙亥(一八一五年)重ネテ鴉片烟ヲ禁シ阿片三千二百兩ヲ焚燬ス是ヨリ先キ鴉片

烟ノ輸入ハ乾隆ノ季年ニ在リテ既ニ廣東廣西及ヒ福建等ニ蔓延スルコト歲々逐テ彌々大甚クシ當時兩廣總督奏シテ之ガ輸入ヲ禁セシト雖モ官吏ノ奉行スルコト有名無實ナルガ故ニ民間私販彌々行ハル嘉慶元年丙辰嚴令シテ之ヲ禁シ阿片商船ノ黃埔ニ在ル者ハ皆轉シテ澳門ニ限リ入港スルコトヲ許ルス然ルニ實際依然トシテ私販スル者多ク地方官モ亦之ヲ縱マ、ニスル者多シ此ニ至リ重ネテ禁令ヲ發ス亦有名無實ノ文具タリキ既ニシテ道光年代ニ及ビテ阿片烟流行益々盛ナルヲ以テ在廷識者痛ク其弊毒ヲ論ジ嚴刑重法ヲ以テ此流行弊風ヲ撲滅則除セムコトヲ奏議ス(道光十八年戊戌四曆一八三八年日本天保九年)帝乃チ内廷諸臣及ヒ各省督撫將軍等ニ詔シ各其處分ノ意見ヲ陳奏セシム湖廣總督林則徐ノ意見最モ剴切ナルヲ以テ帝之ヲ目シテ深識遠慮ノ言ト謂ヒ乃チ則徐ニ詔シテ來京陛見面タリ方略ヲ授ケ兵部尚書ニ任シ兼ネテ欽差大臣ト爲シ廣東ニ赴ムキ水陸ヲ節制シ阿片烟局ヲ總辦セシム

十九年己亥正月林則徐急行シテ廣東ニ至リ兩廣總督鄧廷楨ト共ニ禁阿片新律ヲ嚴布ス時ニ廣東各商船現在阿片烟ノ函數大約二万二百八十三箱(英商ノ所有及ヒ支那商ノ手ニ在ル者)則徐即チ各營兵船ヲ集メ港口内外ニ配備シ前件商船現載スル所ノ阿片烟箱總數ヲ支那

檢査シテ悉皆之ヲ押收シタル後廈門外ニ於テ之ヲ焚燬セシメ以テ中外萬眾ニ公示ス時ニ道光十九年己亥夏四月也

道光廿年庚子英國通商管理員エリオットハ此際支那政府内部腐敗ノ情勢ヲ探測シ其兵艦十五隻運送船廿餘隻ヲ以テ轉シテ廈門ヲ窺ヘ凡入ル能ハズ乃チ更ラニ東ニ轉シテ浙江省ニ赴ムキ定海(舟山島)ヲ攻メテ之ヲ陷ヒレ尋テエリオットハ英國全權使節ノ任ヲ帶ヒ其國書ヲ携帶シ海軍艦隊司令官ブレームルト共ニ陸軍一万及ヒ艦隊十五隻ヲ三部ニ分テ寧波及ヒ廈門ヲ封鎖シ他ノ一部兵船五隻ヲ以テ天津ニ赴ムキ之ヲ脅迫スルニ要求六件ヲ以テス(一八四〇年八月十一日)直隸總督琦善怯懦狼狽シテ英國政府ノ囑翰ヲ領受シ之ヲ北京ニ奏達セシニ北京政府モ亦大ニ驚惶シテ急ニ琦善ヲ以テ欽差大臣ト爲シ廣東ニ赴ムキテ英國使臣ト協商查辦セシメ而カモ林則徐及ヒ鄧廷楨ノ職ヲ罷メ且ツ沿海ニ敕諭シ洋船ニ對シテ開砲スルコトヲ得ザラシム

廿一年辛丑(一八四一年)北京廷議又變シ琦善ノ職ヲ褫ギ詔シテ英夷ノ罪惡ヲ鳴ラシ宗室奕山ヲ以テ靖逆將軍ト爲シ英人ヲ攘斥セシム英將エリオットハ林則徐ノ復々必ズ起用セラレムコトヲ慮ハカリ深ク之ヲ畏レ米國領事ニ書ヲ寄セテ調停ヲ託セシガ此際偶々英兵

廣東城ヲ攻メ砲彈命中猛烈ナリシガ爲メニ奕山等皆恐怖シ遽カニ知府余保純ヲ遣ハシテ講和ヲ索ム英將エリオット立ドコロニ償金六百万「ドル」及ヒ阿片烟ノ價ヲ索メ香港割地ノ事ハ再議ヲ期ス奕山一切之ヲ許諾ス

此歲七月エリオット難船シ僅カニ免カル新任英國全權公使ヘンリポツチンジア氏ハ是ヨリ先本國ニ於テ支那事局處辨ノ全權ヲ帶ビ海軍少將パーカー氏ト共ニ來リテ八月十日廣東港ニ着シ八月廿一日艦隊九隻及ヒ運送船合セテ二十餘隻ヲ率井テ東ニ進ミ廈門ヲ攻メテ之ヲ占領シ(廿七日)三艦ヲ留メテ鼓浪嶼ヲ守ラシメ九月更ラニ舟山群島海上ニ進入シ十月一日定海ヲ攻メテ之ヲ陷ヒル十月九日英將進ミテ鎮海ヲ陷ヒル欽差大臣裕謙等之ニ死ス寧波モ亦陷ヒル(十月十三日)

道光廿二年壬寅(一八四二年)英軍進ミテ上海ヲ陷ヒレ長江ニ溯ボリ鎮江ヲ拔キ支那大運河交通ノ源ヲ占領ス八月八日英軍ハ進ミテ南京附近ニ迫リ將サ二十四日ヲ期シテ攻撃ヲ始メムトスルノ準備ヲ整ヘツツアルニ當リテ清帝和講全權大臣耆英(道光帝ノ外叔父)及ヒ伊里布井ニ兩江總督牛鑾チンテ急ニ英國公使ポツチンジア氏ニ向テ講和ヲ索メシメタルガ故ニ八月十九日清廷三大臣ハ其豫約ニ從ヒ英艦「コルンウォーリス」號ニ於テ英國公支那

使及ビ海陸軍司令長官ト相會見シ先ツ休戰ヲ約定シ同廿六日講和ノ事ヲ商議シ立ドコロニ決シ同廿九日英艦中ニ於テ清國三大臣共ニ講和條約ニ調印セリ所謂有名ナル南京條約ナル者即チ是也(此條約ハ九月八日ヲ以テ清帝ノ批准スル所ト爲リタルコト同十五日ヲ以テ南京府ニ確報セラレタリト雖モ双方批准ノ交換ハ此翌千八百四十三年六月廿六日香港ニ於テ執行セラレタリ)

廿三年癸卯(一八四三年)佛國及ビ米國ト通商條約ヲ結ビ英國ニ同一條件ヲ許與ス

三十年庚戌(一八五一年)洪秀全叛亂起ル即チ粵匪世ニ之ヲ稱シテ長髮賊ト曰フ此賊帝崩ス其第四子奕侍位ヲ嗣ギ翌年年號テ咸豐ト改ム

(9) 文宗顯皇帝 奕侍(咸豐帝)

髮賊ノ勢甚ダ猖獗官軍連敗漢陽武昌南京等皆陷ヒリ賊南京ニ據リテ偽都ト爲シ支那大革新ノ義ヲ唱フ賊勢大ニ振ヒ各省人心汹洶北京政府ノ威信殆ンド滅ビムトス

咸豐四年甲寅(一八五四年)捻匪安徽河南ノ諸省ニ起リ髮賊ト相應シ河北河南ニ横行ス其他各省小賊會匪竄起シテ髮匪ニ應スル者衆シ

咸豐六年丙辰(一八五六年)廣東總督葉銘琛頑陋褊執ヲ以テ英國商人ヲ脅カシ茲ニ兵端ヲ

啓ク十月英艦廣東砲台ヲ砲擊シテ之ヲ破壊ス

八年己未(一八五八年)英佛連合艦隊廣東省城ヲ陷ヒレ總督葉銘琛ヲ俘ニシテ之ヲ印度ニ送ル

此歲露國使臣中將ムラヴ井ヨフ小艦及ヒ陸兵ヲ率井黑龍江第二回遠征ヲ實行シ愛璦城ニ於テ支那將軍奕山ト新條約ヲ結ビ大ニ露國勢力範圍ヲ擴メテ大平洋日本海岸ニ被及セシム

英佛艦隊白河河口ニ迫リ其使臣ハ進ミテ兵ヲ率井テ天津ニ入り清國大臣ト假條約ヲ結ビ牛莊芝罘漢口九江鎮江汕頭瓊州台灣等諸港皆開テ約シ明年批准交換ヲ期ス

翌年(一八五九年)英佛使節ノ船艦白港ニ至リ清國政府ノ欺キ撃ツ所ト爲リ敗走ス幾バクモ無クシテ英佛兩國ハ問罪ノ爲メニ連合軍ヲ起シ咸豐十年庚辰(一八六〇年)白河ニ入

リ天津ニ上陸シ進ミテ北京ニ迫ル北京震駭シ帝出デ熱河ニ奔ル英佛軍京師ニ入り恭親王(皇帝)ト商議シ城下ノ盟ヲ爲ス露國公使イグナチエフ氏其間ニ周旋シテ講和ノ局ヲ完フモシム英佛軍皆冬期白河氷結ヲ近ツクテ恐怖シタルガ故ニ退去セリ而カモ精廷ハイグナチエフ公使ノ功勞ヲ多クシ同公使ノ請求ニ應シテ露國ニ讓與スルニ黑龍江南及ヒ支那

烏蘇里河南方沿海ニ至ル廣大地域ヲ以テシタリ

十一年辛酉始メテ總理各國事務衙門ヲ設置ス此歲帝崩ス(熱河ニ於テ)皇子載淳其位ヲ嗣
ギ年號ヲ同治ト改ム

(10) 穆宗毅皇帝 載淳 (同治帝)

帝幼冲ナルヲ以テ慈禧皇太后垂簾收ヲ統ブ時ニ曾國藩兄弟左宗棠程學啓李鴻章駱秉章彭
玉麟等賢俊各競テ力ヲ盡シ討賊ノ事ニ從フ長江各處激戰數回歐米有爲ノ士モ亦奮テ力ヲ
官軍ニ效タス者若干人アリ賊勢漸ク弛ム

三年甲子(一八六四年)洪秀全毒ヲ服シ自殺官軍力戰スルコト數月遂ニ金陵ヲ陷ヒレ賊魁
ヲ誅ス髮賊始メテ平ラグ而カモ捻匪尚ホ未ダ衰ヘズ六省ニ出沒シ官軍ノ名將僧格林沁モ
亦敗死ス李鴻章左宗棠劉銘傳等之ヲ討チ同治七年ニ及ヒテ始メテ平ラグ

然レモ甘肅回匪尚ホ猖獗九年ニ及ビテ始メテ平ラグ
喀什噶爾叛亂會長阿古勃自カラ立テ喀什噶爾王ト稱ス露國兵ヲ出ダシテ伊犁ヲ占領ス
(一八七〇年)

十年辛未(一八七一年)始メテ聰諒ナル子弟ヲ募リ海外ニ留學セシム

日本公使北京ニ來リ修好通商ノ條約ヲ結ブ十一年壬申冬招商局ヲ設ク

此歲露國其使臣ヲ喀什噶爾ニ派遣シ阿古勃ト通商條約ヲ訂結シ以テ天山南路ニ於ル露人
ニ自由通商ヲ許サシム阿古勃露英二國ト互ニ懸慮ヲ通シ其勢頗ル振フ

十三年甲戌(一八七四年)十二月帝瘵ニ罹リテ崩ス于無シ皇叔父醇親王ノ子載灃ヲ迎ヘテ
帝位ヲ嗣ガシム現帝即チ是レ也

以上列記スル所ヲ約シテ之ヲ見ンハ清廷ハ其建國創業太祖ヨリ現朝ニ至ルマデ大約二百八十
二年其君主ハ十一代ナリト雖モ而カモ其支那本部ニ入リテ都ヲ燕京ニ定メタル時ヨリ之ヲ數
フレバ歲ハ二百五十餘年ニシテ君主ハ九代目ニ當レリ而カモ之ヲ系スレハ左ノ如シ(各代帝
ノ左ニ低記セルハ各帝ノ諱也)

- (1) 太祖
- (2) 太宗
- (3) 世祖(順治帝)

努爾哈赤 皇太極 福臨

- (4) 聖祖(康熙帝)
- (5) 世宗(雍正帝)
- (6) 高宗(乾隆帝)

玄燁 胤禛 弘曆

- (7) 仁(宗嘉慶帝)
- (8) 宣宗(道光帝)
- (9) 文宗(咸豐帝)

支那

永瑛

吳寧

奕佇

(10) 穆宗(同治帝)

載淳

(11) 現帝(光緒帝)

載滢

政治

支那帝國ノ百般法律ハ大清會典即チ清國朝廷ノ法律規則類纂ニ於テ之ヲ定メラレタル者ニシテ即チ該會典ノ定ムル所ニヨレハ此國ノ政治ハ宗族的政治ニ基ツケル者ナリトス
支那ハ君主獨裁專制ノ國ナリト雖也而カモ其實ハ則彼露西亞ノ如キ真正絶對的君主專制國ニハ非ザル也

然レモ英明特達ノ君主アルトキハ則軍機處ヲ以テ其最上主權ノ出ル處ト爲シ國帝ハ即チ此軍機處ノ總帥タリ故ニ重大機密ノ勅諭若クハ訓示等内閣ヲ經由セズシテ而カモ直チニ此軍機處ヨリ地方督撫ニ達シ又地方官按察使以上ハ國帝ニ對シテ重要緊急ノ事アルハ之ヲ直チニ封奏スルコトヲ得

軍機處ハ軍國機務ヲ裁決スル最高權ノ存スル處ニシテ雍正帝ノ時始メテ之ヲ置ク其大臣ハ定員無シ親王及ヒ大學士以下各部尚書ヲ以テ之ニ充ツ定トニ皇帝ノ大顧問官タリ

内閣ハ皇帝ヲ輔翼匡贊スルノ府ニシテ其大學士(正一品)滿漢各二人ツ、合四人協辦大學士(從一品)滿漢各一人ツ、或ハ二人ツ、ヲ以テ之ヲ組織ス此大學士ハ六部以下百僚ヲ統率シ協辦大學士ハ之ニ副フ者ナリ此六人ノ大學士ヲ内閣大臣トス
政府ノ七部衙門ハ此内閣ノ統管ニ屬シ而カモ各部衙門ハ其長官トシテ滿漢人各一名ツ、ヲ設置シ以テ之ヲ管理セシム即チ左ノ如シ

(一) 吏部

文官ノ銓考任免進退黜陟ト封爵トヲ掌トル

(二) 戶部

財政下戶籍トヲ司トル

(三) 禮部

教育學務及ヒ典禮儀制及ヒ屬國朝貢國ニ關スルコトヲ掌トル

(四) 兵部

陸軍及ヒ舊來水軍ニ關スル政務ヲ管掌シ并ニ驛傳ノ事ヲ掌ドル

(五) 工部

支那

土木造管鑄錢等ノ事ヲ管掌ス

(六) 刑部

法律刑政ニ關スルコトヲ管掌ス

以上ハ康熙帝以來大清會典ノ規定スル所ニ係ル

(七) 海軍衙門

光緒十一年乙酉(一八八五年)創設スル所ニシテ專ハラ海軍ノ事ヲ管理ス

總理衙門ハ咸豐十一年辛酉(一八六〇一年)創設專ハラ外交并ニ外國ニ關係アル事務ヲ處辨スル處ニシテ其權力ハ日本外務省ニ比スレバ遙カニ重大ニシテ而カモ内閣ト殆ンド匹敵ス

定員ナシ數名ノ親王大臣專任ヲ置キ之ニ加フルニ親王大學士太宰尚書及ビ侍郎等ノ内ヨリ兼任者若干員ヲ以テス此會議ニ於ル議決ハ直チニ皇帝ノ裁決ヲ仰グテ例トセリ

都察院

此院ハ行政部外ニ殆ント獨立シ行政ノ得失曲直及ヒ司法上ノ當否正邪其他文武官吏ノ行爲ヲ監察シ之ヲ直チニ皇帝ニ奏上シ以テ帝國綱紀ヲ維持スルコトヲ掌ドル故ニ親王大臣宗室ト雖モ其彈劾ヲ免カル、能ハズ

其官職ハ左都御史滿漢各壹人ツ、左副都御史滿漢各二人ツ、ヲ置ク

但シ右都御史及ヒ右副都御史ハ各省督撫ヲシテ之ニ兼任セシム院内ニハ六科給事中及ビ各地方十五道監察御史ヲ置ク六科ハ即チ吏科戶科禮科兵科工科刑科ニシテ各部分擔其事務ヲ審查監視スル者トス

此クノ如ク官制ノ重複煩雜ニシテ而カモ其責任ノ所在彼此混淆セルガ故ニ萬機政務ノ澁滯ヲ極ムルモ亦怪シムニ足ラザル也

地方官制

支那本部十八省ハ各省ノ下ニ……………府州縣及ヒ廳アリテ各省ニ隸屬ス而カモ省ノ地理ニ應ジテ二省若クハ三省ヲ合シテ一總督ヲ置ク即チ江蘇江西安徽ノ三省ヲ併セテ兩江總督ヲ置キ湖南湖北ノ二省ヲ通シテ一ノ湖廣總督ヲ置キ福建浙江ヲ合シテ閩浙總督ヲ置キ陝西甘肅及ビ新疆省ヲ合シテ陝甘總督ヲ置キ廣東廣西ヲ通シテ兩廣總督ヲ置キ雲南貴州ヲ合セテ雲貴總督ヲ置クノ類是レ也而カモ每一省ニ一總督ヲ置ク者ハ唯直隸省四川省アルノミ河南山西山東ニハ總督ヲ置カズ唯巡撫アルノミ巡撫ハ每省一員ヲ置クテ例トスレモ唯直隸ト四川トニハ之ヲ缺クテ常トス

支那

督撫之下ニ布政使アリ一名之ヲ藩司ト云ヒ又按察使アリ一名之ヲ臬司ト云フ布政使按察使ハ
 各省各一員以上ヲ置ク
 總督ハ地方最重要最高官ニシテ地方民治ヲ總管シ管内軍務ヲ總統スル者且ツ都察院右都御史
 兼任シテ朝廷及ビ省内行政ヲ監察スル者ナルガ故ニ其權力ハ殆ンド小國王ニ匹敵セリ西洋人
 ハ多ク之ヲ稱シテ副王ト曰フニ至レルモ亦偶然ニ非ズ就中直隸總督ト兩江總督トハ殊トシ重
 要ノ任務トシテ之ニ任セラル、者ハ第一等ノ重臣元老ヲ以テセラル、ヲ例トス且ツ直隸總督
 ハ北洋通商大船ヲ兼ネ之ニ加フルニ北方精兵ヲ管理スル者トシ兩江總督ハ南洋通商大臣ヲ兼
 ネ且ツ南方精兵ヲ管理スル者トス
 巡撫ハ總督ニ次ゲル地方最重要ノ官職ニシテ總督事故アレハ直チニ之ニ代理セサルヲ得ズ
 又都察院右副都御史ヲ兼ネ省務ヲ節制シ人民ヲ撫養シ民治ヲ監督スルコトヲ掌ル其權力ノ重
 大ナルコトモ亦宜シ也
 督撫ノ權力此クノ如ク廣大重要ニシテ之ニ加フルニ其收賄多大ナルヲ常トス支那地方政治ノ
 腐敗ヲ極メ且ツ各省ノ施政各自異岐ニ出デ、統一ノ絶無ナル所以モ亦宜シナラズヤ
 布政使(從二品官)

本使ハ土田ヲ巡按シ租稅ヲ賦課徵收シ錢穀ヲ出納スルコトヲ掌ドル毎省各一司ヲ置クモ獨リ
 江蘇ハ特ニ兩司ヲ置ク
 按察使(正三品官)

本官ハ刑名ヲ審肅シ奸盜ヲ警察シ罪案ヲ判決スルヲ掌ドル凡ソ地方ノ訴訟タル其民事ハ則州
 縣廳ノ知事以上ヲシテ先ツ之ヲ審判セシメ刑事ハ則道台府ニ於テ之ヲ審理シシメタル上本司
 ニ申報セシム其特ニ重要ナル事件ニシテ皇帝ニ具奏スベキ訟獄ハ按察使之ヲ調査シ督撫ノ檢
 印ヲ經テ之ヲ北京ニ送達ス本司ハ元來司直ノ府ニシテ地方人民ノ爲メニ疾苦ヲ除クベキ職務
 タルハ言フヲ俟タズ每省ニ一司ヲ設ク而カモ今ヤ賄賂公行シテ按察使モ亦有名無實ナル者多
 キニ居ル

府尹 (正三品官)
 府尹ハ直隸省順天府(即チ北京ノ在ル處)及ビ盛京府奉天府ノ二府ニ限リ之ヲ置キ以テ其府内
 民治ヲ掌ドラシムル者ニシテ督撫ニ屬セザル一種獨立衙門ノ官職トス北京順天府尹ハ尚書侍
 郎之ヲ兼チ奉天府尹ハ將軍ヲ以テ之ヲ兼ヌ
 道員 (正四品官)

支那

道臺に謂フ其職一ナラズ之ヲ大別スレハ左ノ如シ

分守道 布政使ニ屬シテ錢穀ヲ掌ドル者トス

分巡道 按察使ニ屬シテ刑事ヲ掌ドル者トス

糧儲道 漕運ヲ管シ有無ヲ通スル者トス

管河道 河水修治及河患防備ノ事ヲ管スル者

鹽法道 鹽法糾察ノ事ヲ管スル者ヲ云フ

兵備道 軍務ヲ管理スル者ヲ云フ

海關道 海港外交上通商上ノ事及ビ關稅ノ事ヲ管スル者ヲ云フ

此他ニテモ尚ホ道務アリ道員ハ大抵二三府ヲ兼管セシムルヲ例トス知府以下ノ地方官ハ皆道臺ノ指揮ヲ仰グ者ナルガ故ニ道臺ハ其收賄額最モ豐饒ナルヲ常トシ支那官人ノ殊トニ羨望スル所也ト云フ

知府 (從四品官)

督撫ノ命ニ從ヒ諸司及ヒ道員ト協合シ其府ノ民治ヲ整理スルコトヲ掌ドル諺ニ曰ク『知府三年銀十萬』ト以テ其收賄ノ太甚ダシキヲ知ルベキ也

同知

府ニ於ル同知ハ正五品官ニシテ知府次官タリ水利警察等ヲ專管ス

直隸州及ヒ散州ノ同知ハ從六品官ニシテ藩司并ニ臬司ニ隸シテ錢穀及ヒ刑獄ヲ掌ドル散廳ノ同知ハ道臺或ハ知府ニ或ハ將軍副都統ニ隸スル者トス

知州 (正五品官)若クハ(從五品)

督撫ノ命ヲ受ケ諸司道ノ約束ニ遵ヒ以テ一州ノ民治ヲ掌ドル

知縣 (從六品官)及ビ(正七品)

一縣ノ民治ヲ管理シ土田及ビ戶口ヲ治メ賦稅ヲ徵收シ詞訟ヲ聽斷ス

之ヲ要スルニ地方官制モ亦極メテ複雜ニシテ其冗員極メテ多シ布政使ト按察使トノ事務タル之ヲ分立スル程ノ必要無ク且ツ道臺ナル者亦其兵巡鹽糧等各科ヲ分ツノ必要無シ然ルニ舊習ニ狃レ徒ツラニ此クノ如キ冗官ヲ設ク之ニ加フルニ各官員ヲシテ自己在籍本省ノ官ニ就クヲ得ザラシムルノ例本省迴避ノ例ナル者ハ其結果トシテ地方胥吏ノ私利ニ便ニシ而カモ極メテ良民無形ノ禍害ヲ醸モスニ足ル者トス

若シ夫ノ地方官濫任腐敗ノ大害實ニ太甚ダシキ者ハ捐納授官ノ弊習即チ金錢ヲ官府ニ納メテ

支那

以テ官ヲ買フノ例(地方官ハ道臺以下各官共ニ財ヲ以テ之ヲ買得スルコトヲ得)ニ在リ知府ハ大府ト雖モ五千兩ヲ捐納スル者ニ授クルヲ例トシ捐金者ノ材能經歷如何ヲ銓考セズ知縣ハ千七百兩ヲ以ツテ之レヲ買フベク而カモ三千七百兩ヲ捐納スルトキハ即時實官ニ任用就職セシム

是等捐納者ノ多數ガ其就官後民治ノ整舉ト否トハ之ヲ省ミズシテ而カモ專ハラ私利ヲ營ミ中飽勒索ヲ逞マシフスル者ノ夥多ナル怪シムニ足ラザル也

支那本部以外邊疆要地ノ地方官

滿洲地方即チ盛京省吉林省黑龍江省ニ於ル一切行政統治ノ權力並ニ軍政共ニ之ヲ其長官タル將軍ニ委任ス故ニ此省將軍ハ支那本部十八省ノ總督ト均シ

蒙古地方及ビ西藏ニ於テハ辦事大臣若クハ參贊大臣ヲ其各要地ニ置キ以テ之ヲ統轄セシム

面積及人口

支那人人口ノ概算ハ從來實數ヨリモ多キニ失スルモノ、如シ最近ノ概算調査ニ據レバ全帝國面積及人口ハ左ノ如シ

支那本部	面積		人口	
	面積	人口	面積	人口
滿洲	一、三三六、八四一	三、八六〇、〇〇〇	一四七、九五〇	六〇〇、〇〇〇
蒙古	三六二、三二〇	七、五〇〇、〇〇〇	四三一、八〇〇	五八〇、〇〇〇
西藏	一、二八八、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	四、二二八、四〇二	四〇二、六八〇、〇〇〇
總計	六五一、五〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	四、二二八、四〇二	四〇二、六八〇、〇〇〇

支那十八省及臺灣ノ人口ハ千八百四十二年即チ道光二十二年壬寅ノ歲ニ於ル官府ノ調査ニ據レバ四億千三百萬ナリシモ他ノ概算調査ニ據レバ三億五千萬ナリト云フ

各省面積及人口

省名	面積	人口	一方哩ノ人口
直隸	五八、九四九	一七、九三七、〇〇〇	三〇四
山東	五三、七六二	三六、二四七、八三五	五五七
山西	五三、七六二	一一、二一一、四五三	二二一
河南	六六、九二三	二二、一一五、八二七	三四〇

支那